

# 第7次川越町総合計画の策定に向けた 住民意識調査

## 報告書

令和2年2月

川越町

# 目 次

<b>序 章 調査の概要</b> .....	<b>1</b>
(1) 調査の目的 .....	1
(2) 調査の概要 .....	1
(3) 報告書の見方 .....	1
<b>第1章 回答者のプロフィール</b> .....	<b>3</b>
(1) 性別 .....	3
(2) 年齢 .....	4
(3) 住まいの地区 .....	5
(4) 同居人の状況 .....	6
(5) 居住歴 .....	7
(6) 川越町に移り住んだ理由 .....	8
<b>第2章 川越町のまちの状況</b> .....	<b>10</b>
(1) 川越町の住みやすさ .....	10
(2) 定住意向 .....	11
(3) 住み続けたい理由 .....	12
(4) 移転したい理由 .....	14
<b>第3章 川越町の暮らしの満足度と今後のまちづくりの重要度</b> .....	<b>16</b>
(1) 暮らしの満足度 .....	16
(2) 今後のまちづくりの重要度 .....	36
(3) 満足度と重要度の関係 .....	56
<b>第4章 川越町の将来のまちづくり</b> .....	<b>59</b>
(1) まちの将来イメージ .....	59
(2) 定住促進策 .....	60
(3) 産業振興 .....	61
(4) 就業対策 .....	62
(5) 災害対策 .....	63
(6) 環境対策 .....	65
(7) 子ども・子育て施策 .....	66
(8) 学校教育 .....	67
(9) 文化・芸術・スポーツ振興 .....	68
(10) 教育・文化・運動施設の利用状況 .....	69
(11) 教育・文化・運動施設の不満や改善 .....	71
(12) 高齢者・障がい者施策 .....	72

<b>第5章 協働のまちづくりについて</b> .....	<b>73</b>
(1) 地区を良くしていくための活動への参加状況.....	73
(2) 地区を良くしていく活動への今後の参加意向.....	75
(3) 住民参加や住民主体のまちづくりを推進するために町として行うべきこと.....	77

### (1) 調査の目的

本町では、平成 28 年に策定した第 6 次川越町総合計画後期基本計画に基づき、「みんなで支えよう 笑顔あふれる元気な町 かわごえ」を目指してまちづくりを進めています。この計画が目標年次である令和 2 年度を迎えることから、これまでの事業の進捗状況を確認するとともに、事業の評価、検証を行い、今後の社会経済の動向の変化や新しい時代に対応したまちづくりが進められるように、現在、令和 3 年度から 10 年間のまちづくりの方向性を示す「第 7 次川越町総合計画」の策定に向けた作業を行っています。

そこで、現在の川越町に対する評価や、今後のまちづくりに関する意向を把握し、計画策定に役立てるため、意識調査を実施しました。

この結果は、第 6 次川越町総合計画後期基本計画に沿って進めてきたこれまでの施策・事業の評価・点検として、また第 7 次川越町総合計画の策定に向けた基礎資料として活用していきます。

### (2) 調査の概要

本調査の概要は、以下に示すとおりです。

- 調査対象：川越町在住の 18 歳以上の男女
- 抽出方法：無作為抽出
- 調査方法：郵送配布・郵送回収
- 調査時期：令和元年 10 月～11 月
- 配布数：3,000 票
- 回収数：1,475 票
- 有効回収数：1,469 票（無効票 6 票）
- 有効回収率：49.0%（平成 26 年度：51.2%）

### (3) 報告書の見方

- 図中の構成比（%）は、小数点以下第 2 位を四捨五入して算出しました。そのため、複数回答はもちろんのこと、単数回答の場合でも必ずしも合計は 100.0%になりません。
- 一部のグラフについては、クロス集計上の表側の「回答なし」は省略しています。
- 表、グラフ等の見出し及び文章中の選択肢の表現については、趣旨が変わらない程度に簡略化しているものがあります。
- グラフ内の「n=〇〇」は、その回答母数を表わしています。
- 性別・年齢別などのクロス集計の結果については、全体と比較しておよそ±10%以上の差異がある場合にのみ、分析結果を言及しています。
- なお、今回、1,469 人から回答を得ましたが、この結果がどの程度の精度を持った回答結果であるのかは、アンケート結果に対する標本誤差を算出し、その誤差範囲により検討することができます。この標本誤差を算出すると、下記の通りで、最も誤差の大きい場合でも±2.40%となり、18 歳以上の全町民に回答してもらった場合と比べて最高で±2.40%の誤差しか生じない結果となり、統計上有効な結果であると考えられます。

図表 標本誤差

母集団	標本数	抽出率	回答割合				
			10%・90%	20%・80%	30%・70%	40%・60%	50%
12,532	1,469	11.7%	1.44	1.92	2.20	2.35	2.40

$$\sigma = k \sqrt{\frac{M-n}{M-1} \cdot \frac{p(1-p)}{n}}$$

*M* : 母集団  
*n* : 有効回収数  
*p* : 結果の比率  
*k* : 信頼度による定数  
 $\sigma$  : 標本誤差

※信頼度を95%とすると、 $k=1.96$ となる。

## 第1章

## 回答者のプロフィール

### (1) 性別

問1-1 あなたの性別を教えてください。

#### ◆男性 43.1%、女性 55.6%と、女性の割合が高くなっています。

- 回答者の性別をみると、男性 43.1%、女性 55.6%と、女性の回答者の割合が 12.5 ポイント高くなっています。
- 令和元年 10 月 1 日現在の住民基本台帳における町内の 18 歳以上人口が 12,532 人であり、そのうち男性が 6,433 人 (51.3%)、女性が 6,099 人 (48.7%) となっており、現在の住民の性別構成に比べ、男性が 8 ポイント以上少なく、女性が 7 ポイント近く多くなっています。
- なお、前回、前々回の調査と比べて、女性の割合が高くなっています。

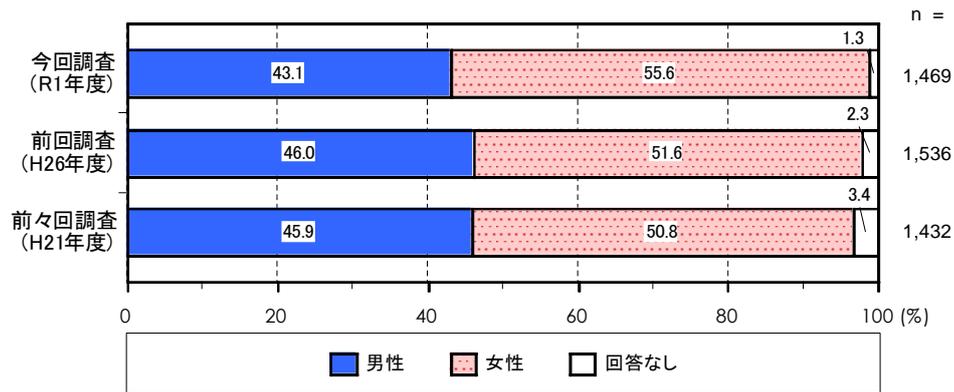


図 1-1 性別 (前回・前々回との比較)

(2) 年齢

問 1-2 あなたの年齢を教えてください。

◆40 歳代が最も割合が高く、次いで 50 歳代、30 歳代となっており、おおむね町の年齢構成別人口の割合と同様になっています。

- 回答者の年齢をみると、40 歳代の割合が 21.2%で最も割合が高く、次いで 50 歳代 (17.7%)、30 歳代 (16.3%) となっており、中高年の回答率が高くなっています。
- 令和元年 10 月 1 日現在の住民基本台帳における町内の 18 歳以上人口の年齢別構成は、20 歳未満 (18 歳・19 歳) が 2.8%、20 歳代が 16.8%、30 歳代が 16.7%、40 歳代が 20.1%、50 歳代が 15.6%、60～64 歳が 4.9%、65～69 歳が 5.6%、70～74 歳が 5.6%、75 歳以上が 11.9% となっています。人口の年齢構成と回答者の年齢構成を比較すると、20 歳代の回答が少なく、50 歳以上の回答が多い結果となっています。
- なお、前回・前々回の調査と比較して、20 歳代、30 歳代が少なく、40 歳代、50 歳代が多くなっています。

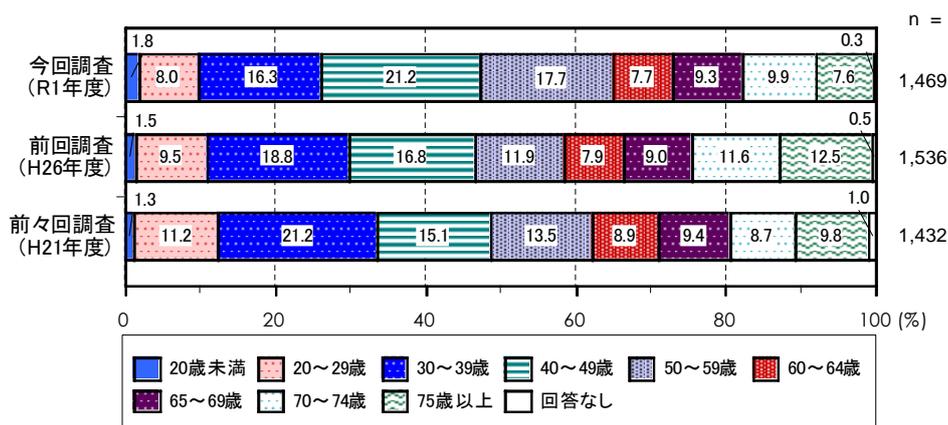


図 1-2 年齢 (前回・前々回との比較)

(3) 住まいの地区

問2 あなたのお住まいの地区を教えてください。

◆回答者の住まいの地区は、豊田地区が最も割合が高く、次いで南福崎地区、高松地区、豊田一色地区の割合が高くなっています。

○回答者の住まいの地区については、「豊田地区」が26.5%で最も割合が高く、次いで「南福崎地区」(15.5%)、「高松地区」(15.2%)、「豊田一色地区」(12.4%)、「当新田地区」(9.3%)、「天神地区」(6.3%)、「北福崎地区」(5.8%)、「亀崎地区」(5.2%)、「亀須地区」(2.7%)、「上吉地区」(1.0%)の順になっています。

○前回調査と比較すると、「亀須地区」、「南福崎地区」、「豊田一色地区」、「豊田地区」、「天神地区」では回答の割合が高くなっていますが、「当新田地区」、「北福崎地区」、「亀崎地区」、「上吉地区」、「高松地区」では割合が低くなっています。

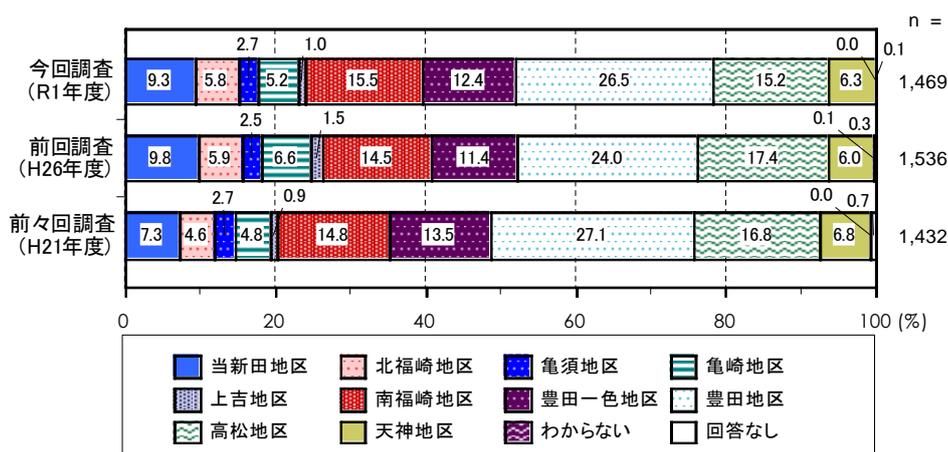


図 1-3 住まいの地区 (前回・前々回との比較)

(4) 同居人の状況

問3 あなたのお宅にはどのような方が同居されているかを教えてください。

◆住まいの同居人として、「子どもや高齢者以外の同居人がいる」が半数以上を占めて最も高くなっていますが、「65～74歳までの方がいる」、「75歳以上の方がいる」の高齢者のいる世帯や、「小学生がいる」や「小学校入学前の子どもがいる」の子どもがいる世帯も多くなっています。

- 回答者の住まいの同居人については、「子どもや高齢者以外の同居人がいる（1～6以外の同居人がいる）」が51.5%で最も割合が高くなっています。次いで「65～74歳の方がいる」（20.4%）、「75歳以上の方がいる」（18.4%）、「小学生がいる」（16.2%）「小学校入学前の子どもがいる」（15.4%）、となっており、子どもや高齢者の同居人がいる方も多くなっています。
- なお、「同居人はいない（単身世帯である）」は8.7%であり、前回調査に比べて0.9ポイント低下しています。また、前回調査に比べ、「小学校入学前の子どもがいる」や「小学生がいる」「中学生がいる」、「75歳以上の方がいる」の回答の割合が高くなっています。

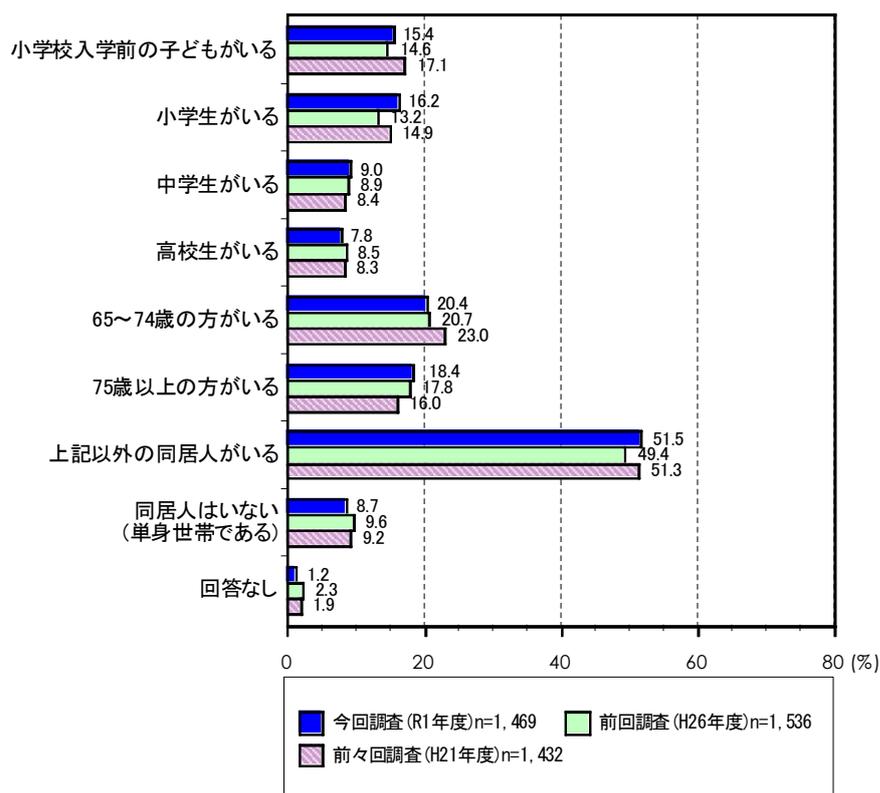


図 1-4 同居人の状況（前回・前々回との比較）

(5) 居住歴

問4 あなたはいつから川越町に住んでいますか。

◆川越町に移り住んだ方が最も割合が高く、次いで、ずっと川越町に住んでいる方、川越町に戻ってきた方の順になっています。

○回答者の居住歴については、「生まれは他市町村でその後、川越町に移り住んだ」が63.8%で最も割合が高く、町外から移住してきた方が多くなっています。次いで「生まれたときからずっと川越町に住んでいる」(25.1%)、「生まれは川越町で、一旦、町外に移り住み、その後、Uターンして川越町に戻ってきた」(10.6%)となっています。

○前回調査と比較して、「生まれは他市町でその後、川越町に移り住んだ」が1.2ポイント低下、「生まれは川越町で、一旦、町外に移り住み、その後、Uターンして川越町に戻ってきた」が2.2ポイント上昇、「生まれたときからずっと川越町に住んでいる」が0.9ポイント低下しています。

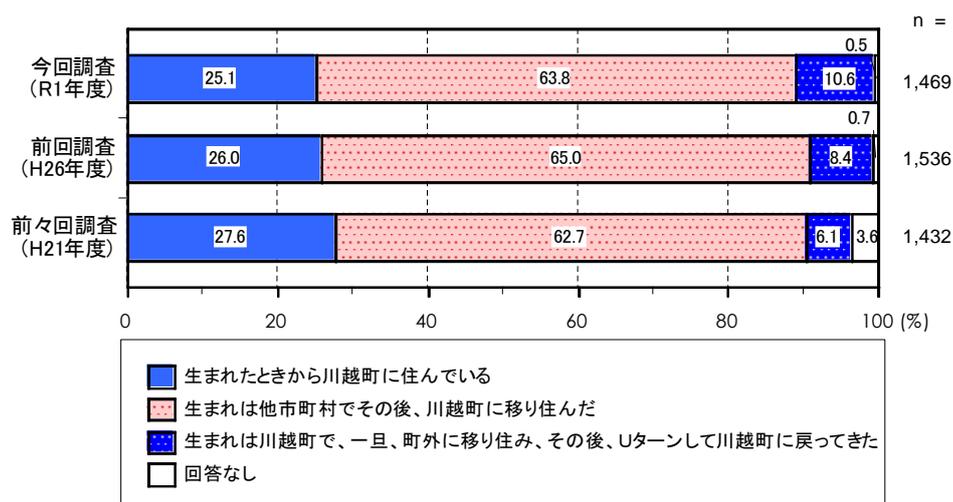


図 1-5 居住歴 (前回・前々回との比較)

(6) 川越町に移り住んだ理由

【3つまでの複数回答】

問 4-1 あなたが川越町に移り住んだ理由は何かを教えてください。(1,092 名対象)

◆川越町に移り住んだ、もしくは川越町に戻ってきた方は、「実家や自宅があったため」、「働く場所が近くにあったため」、「住宅の価格・賃料が手頃だったため」が多く、住宅と仕事の関係で移り住んでいます。

○問 4 で「川越町に移り住んだ」もしくは「川越町に戻ってきた」と回答した 1,092 名の方の移り住んだ理由を尋ねたところ、「実家や自宅があったため」が 30.2%で最も割合が高くなっています。次いで、「働く場所が近くにあったため」(24.1%)、「住宅・土地の価格・賃料が手頃であったため」(22.7%)、「買い物などに便利であったため」(16.6%)、「親類や知人が町内に住んでいるなど、川越町に馴染みがあるため」(15.2%)、「道路網が便利であったため」(14.5%)となっています。

○なお、前回調査と比較して、「実家や自宅があったため」、「働く場所が近くにあったため」「道路網が便利であったため」、などの回答の割合が高くなっています。

○その他として、川越町を選んだ理由ではないが、「結婚のため」の回答が多く、147 名を占めています。

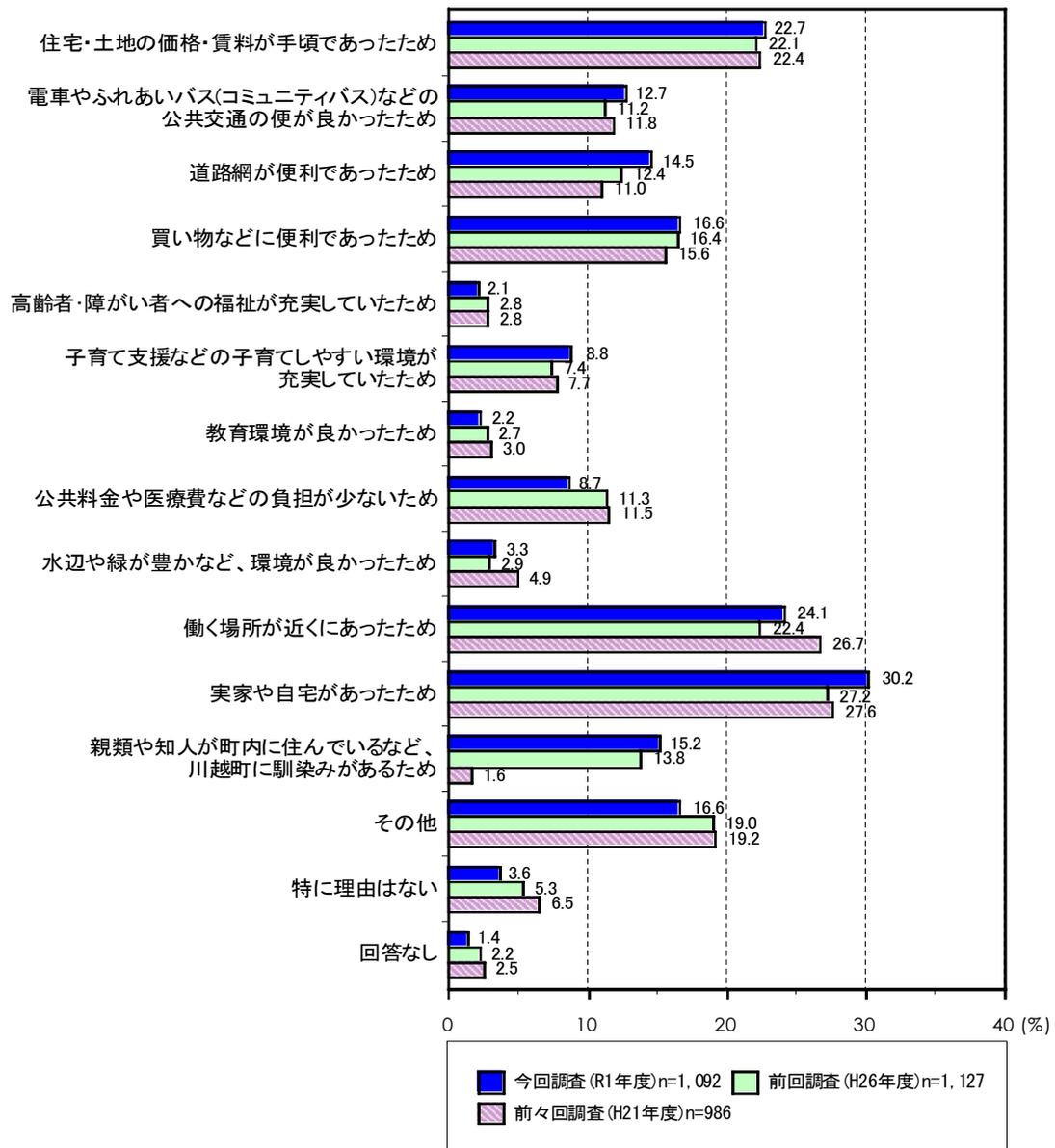


図 1-6 川越町に移り住んだ理由（前回・前々回との比較）

## 第2章

## 川越町のまちの状況

### (1) 川越町の住みやすさ

問5 あなたは、川越町は住みやすいまちだと思いますか。

◆「住みやすい」、または「どちらかといえば住みやすい」と感じている方は、あわせて8割以上を占めています。

○川越町の住みやすさについて、「住みやすい」が49.8%、「どちらかといえば住みやすい」が36.7%、「どちらかといえば住みにくい」が2.7%、「住みにくい」が1.3%、「どちらとも言えない」が8.2%となっており、「住みやすい」、「どちらかといえば住みやすい」と感じている方があわせて86.5%を占め、多くの方が住みやすいと感じています。

○前回調査と比較して「住みやすい」が2.3ポイント上昇、「どちらかといえば住みやすい」が1.1ポイント低下し、住みやすいと感じている方の割合が1.2ポイント上昇しています。

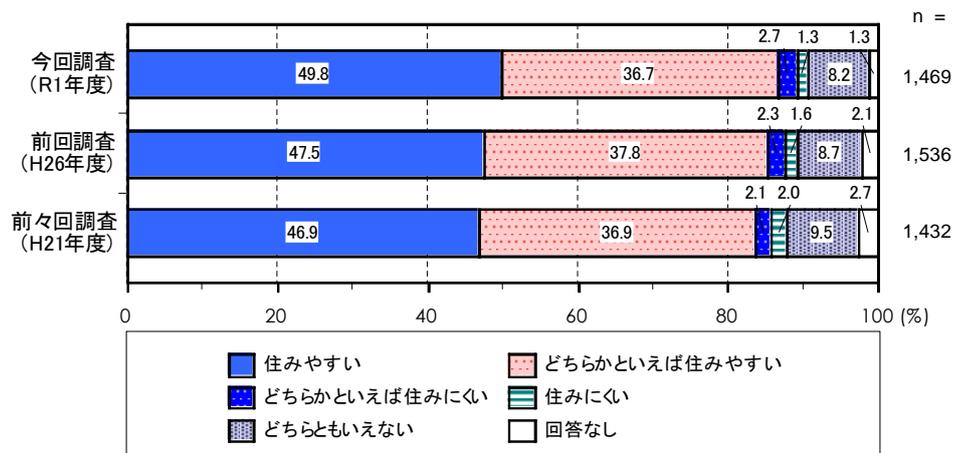


図 2-1 川越町の住み心地（前回・前々回との比較）

(2) 定住意向

問6 あなたは、これからも川越町に住み続けたいと思いますか。

◆「永住したい」、または「当分住み続けたい」と感じている方は、あわせて約9割を占めています。

○川越町への定住意向としては、「永住したい」が46.3%、「当分住み続けたい」が43.6%、「いずれは移転したい」が8.8%、「すぐにでも移転したい」が1.1%となっており、「永住したい」、「当分住み続けたい」と感じている方があわせて89.9%を占め、多くの方が定住したいと考えています。

○前回調査と比較して「永住したい」が5.2ポイント低下したものの、「当分住み続けたい」が6.8ポイント上昇し、定住したいと考えている方の割合が1.6ポイント上昇しています。

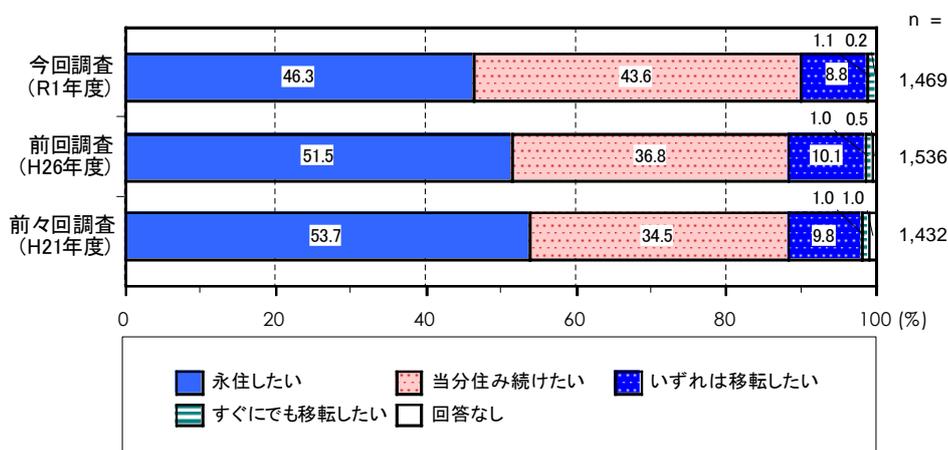


図 2-2 川越町の定住意向（前回・前々回との比較）

(3) 住み続けたい理由

【3つまでの複数回答】

問 6-1 あなたが今後も住み続けたいと思う理由は何ですか。(定住意向のある 1,321 名対象)

◆住み続けたい理由として、「家や土地があること」、「住み慣れていて愛着があること」、「交通や買い物の利便性が高いこと」と考えている方が多くなっています。

- 
- 前述の問で「永住したい」、「当分住み続けたい」と回答した 1,321 名の方の定住したい理由については、「家や土地がある」が 54.5%で最も割合が高くなっています。次いで「住み慣れていて愛着がある」(40.9%)、「交通の便がよい」(35.4%)「買い物に便利」(33.8%)と続いています。
- 前回調査と比較して「職場が近くにあるなど通勤や仕事に便利」が 3.7 ポイント上昇、「家や土地がある」が 2.8 ポイント上昇、「買い物に便利」が 1.2 ポイント上昇となっています。
-

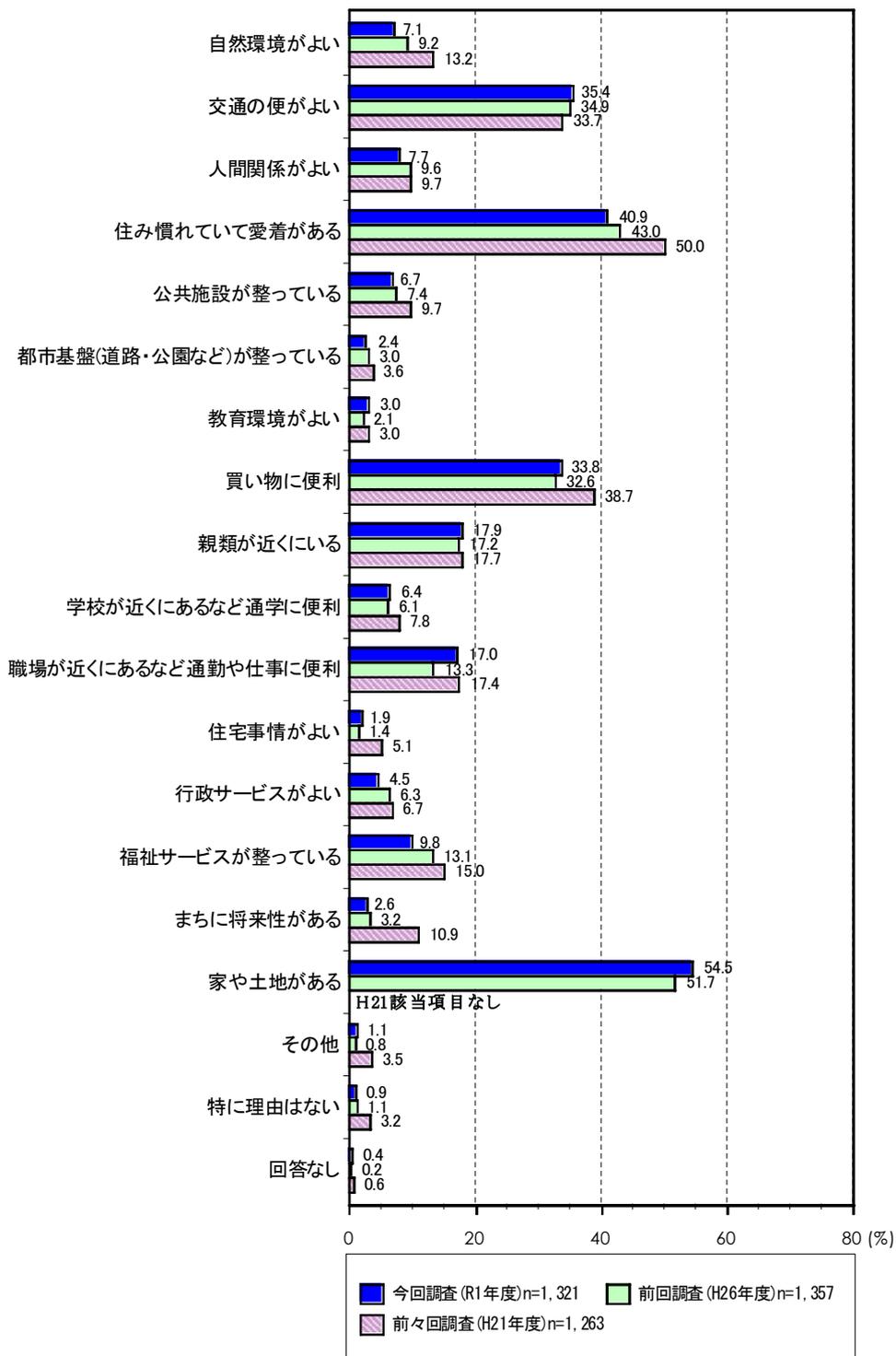


図 2-3 住み続けたい理由

(4) 移転したい理由

【3つまでの複数回答】

問 6-2 あなたが移転したいと思う理由は何ですか。(移転意向のある 145 名対象)

◆川越町から移転したい理由として、「交通が不便」、「町外の実家等に戻るため」、「まちに愛着がもてない」、「津波など災害の危険性がある」と考えている方が多くなっています。

○前述の問で「いずれは移転したい」、「すぐにでも移転したい」と回答した 145 名の方の移転したい理由については、「交通が不便」が 29.0%で最も割合が高く、次いで「町外の実家等に戻るため」(17.2%)、「親類が近くにいない」(13.1%)、「まちに愛着がもてない」(11.7%)、「買い物に不便」(11.7%)、「職場が遠いなど通勤や仕事に不便」(11.0%)と続いています。

○なお、その他は「災害の不安」を理由にしている方が 34 名と多くなっています。

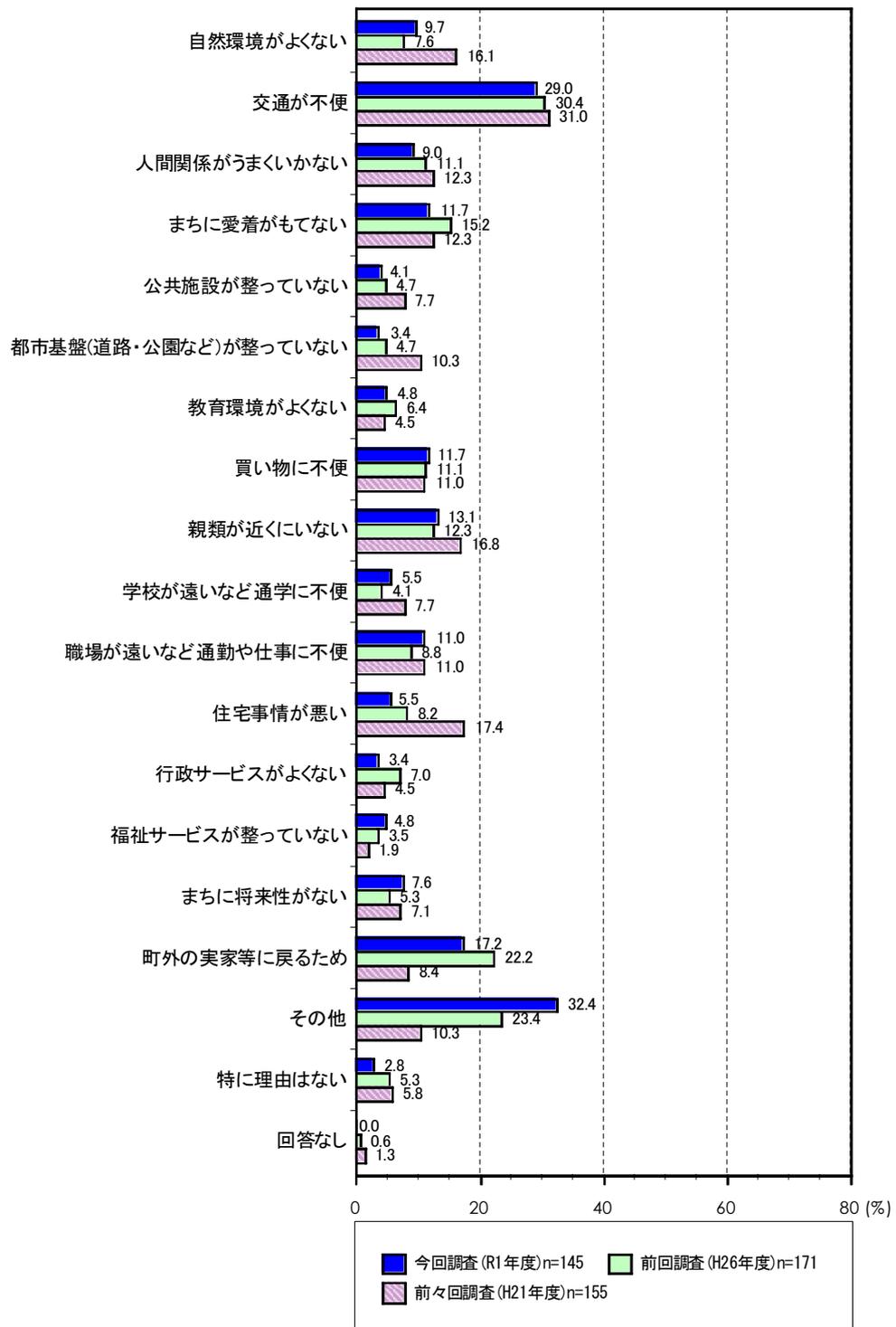


図 2-4 移転したい理由

## (1) 暮らしの満足度

問7 あなたは(1)～(57)のそれぞれの項目について、どの程度満足されていますか。

「満足」、「やや満足」と回答した者の合計の割合を満足度とし、「やや不満」、「不満」と回答した者の合計の割合を不満度とします。また、本文の構成比(%)は、小数点第2位を四捨五入しているため、グラフ値を単純に加算した数値とは必ずしも一致しません。

◆「上水道の整備」、「公共下水道の整備」、「ごみの収集、減量化、リサイクル活動」の満足度が高く、一方で「歩行環境の整備」、「津波対策」の不満足度が高くなっています。

- 川越町の暮らしの満足度として、「満足」と「やや満足」を合わせた回答では、「上水道の整備」が61.7%で最も割合が高く、次いで「公共下水道の整備」(53.7%)、「ごみの収集、減量化、リサイクル活動」(47.2%)、「国道などの幹線道路の整備」(46.7%)、「公園・緑地の整備」(43.0%)、「良好な住宅地の整備」(42.2%)、「鉄道・駅の利便性」(42.1%)、「健康づくり・疾病予防対策」(42.0%)などとなっています。
- 「やや不満」と「不満」を合わせた回答(不満度)は、「安心・安全な歩行環境の整備」が39.6%と最も割合が高く、次いで「津波対策」(36.6%)、「水害対策」(35.0%)、「河川・海岸などの水辺環境の整備・保全」(34.2%)、「鉄道や駅の利便性」(33.5%)、「町道などの身近な生活道路の整備」(33.2%)などとなっています。
- 前回調査と比較して満足度が最も上昇したのは「みえ川越インターチェンジ周辺の整備」で、7.5ポイント上昇しています。次いで「役場からの広報や情報公開」が6.7ポイント、「商業・店舗の振興対策」が5.6ポイント上昇しています。
- 一方、前回調査と比較して不満度が最も上昇したのは「ごみの収集、減量化、リサイクル活動」で、6.5ポイント上昇しています。

[土地利用・市街地整備について]

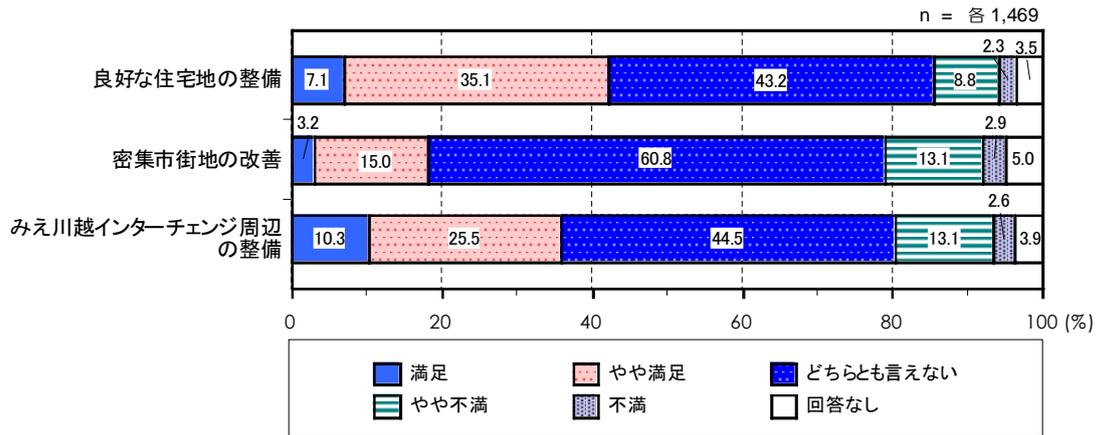


図 3-1-1-1 暮らしの満足度「土地利用・市街地整備について」

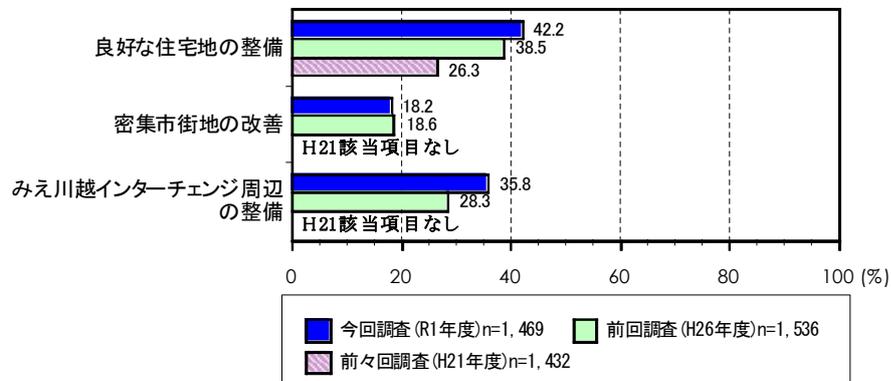


図 3-1-1-2 「土地利用・市街地整備について」の満足度（前回・前々回調査比較）

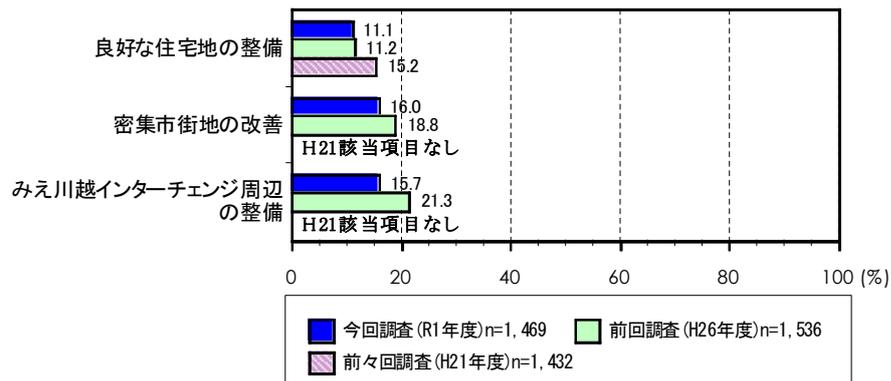


図 3-1-1-3 「土地利用・市街地整備について」の不満足度（前回・前々回調査比較）

[道路・公共交通について]

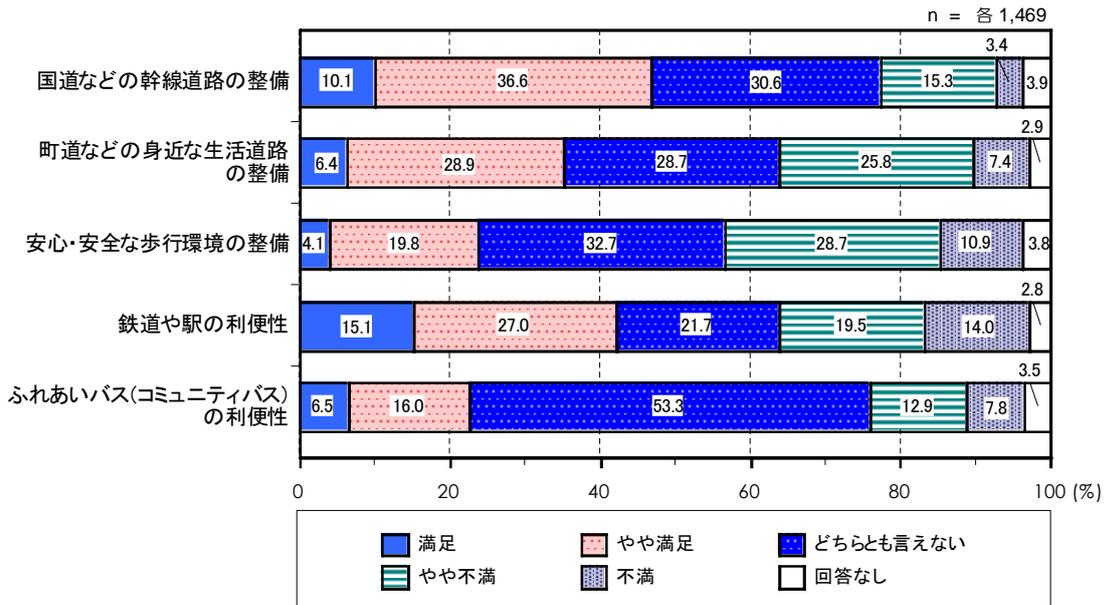


図 3-1-2-1 暮らしの満足度「道路・公共交通について」

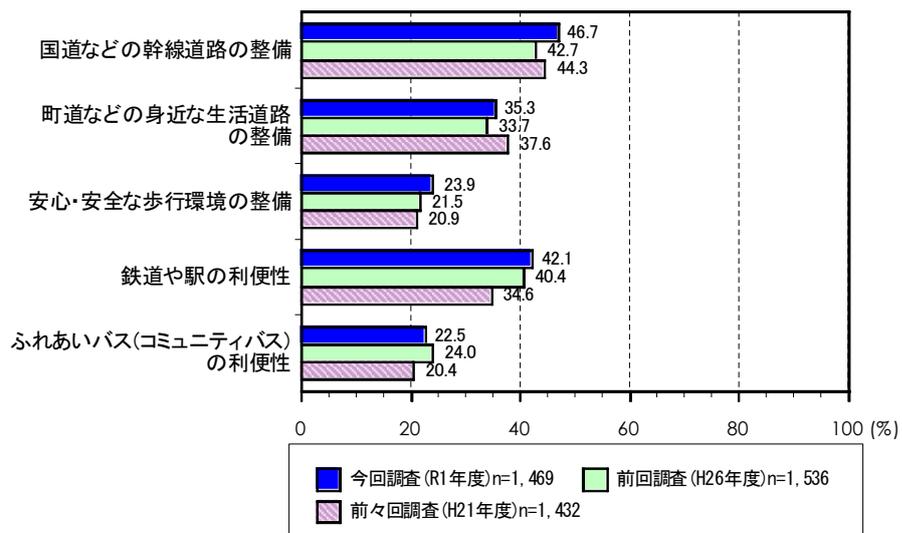


図 3-1-2-2 「道路・公共交通について」の満足度 (前回・前々回調査比較)

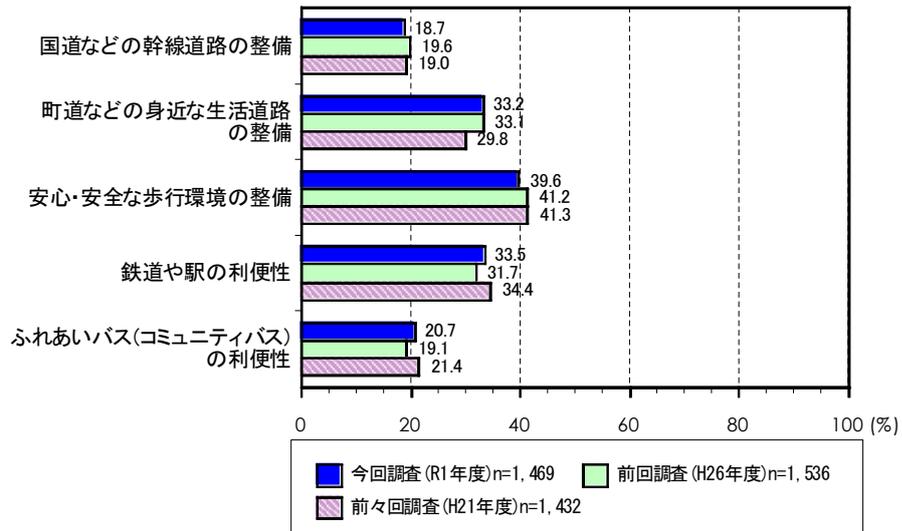


図 3-1-2-3 「道路・公共交通について」の不満度（前回・前々回調査比較）

[産業について]

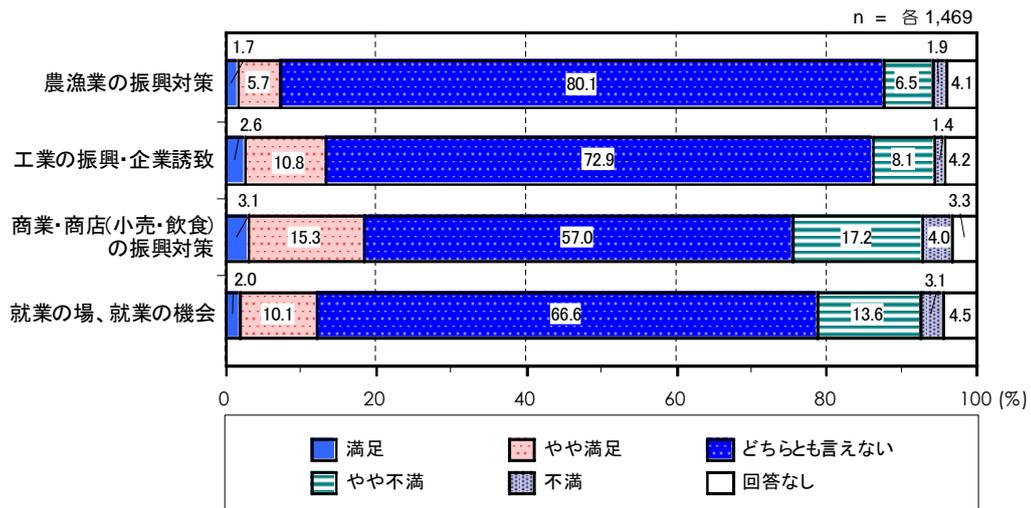


図 3-1-3-1 暮らしの満足度「産業について」

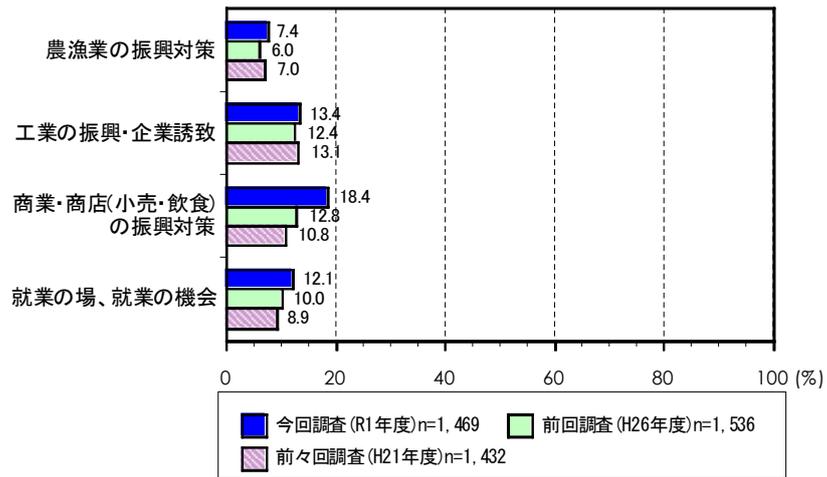


図 3-1-3-2 「産業について」の満足度（前回・前々回調査比較）

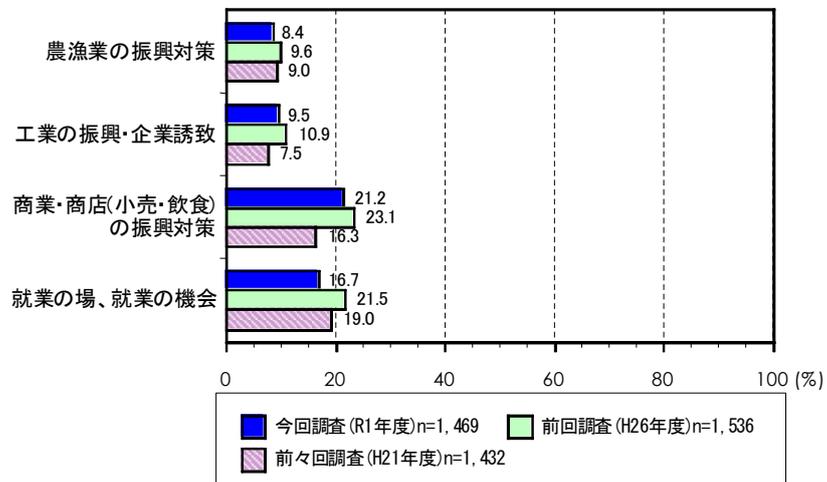


図 3-1-3-3 「産業について」の不満足度（前回・前々回調査比較）

[生活環境について]

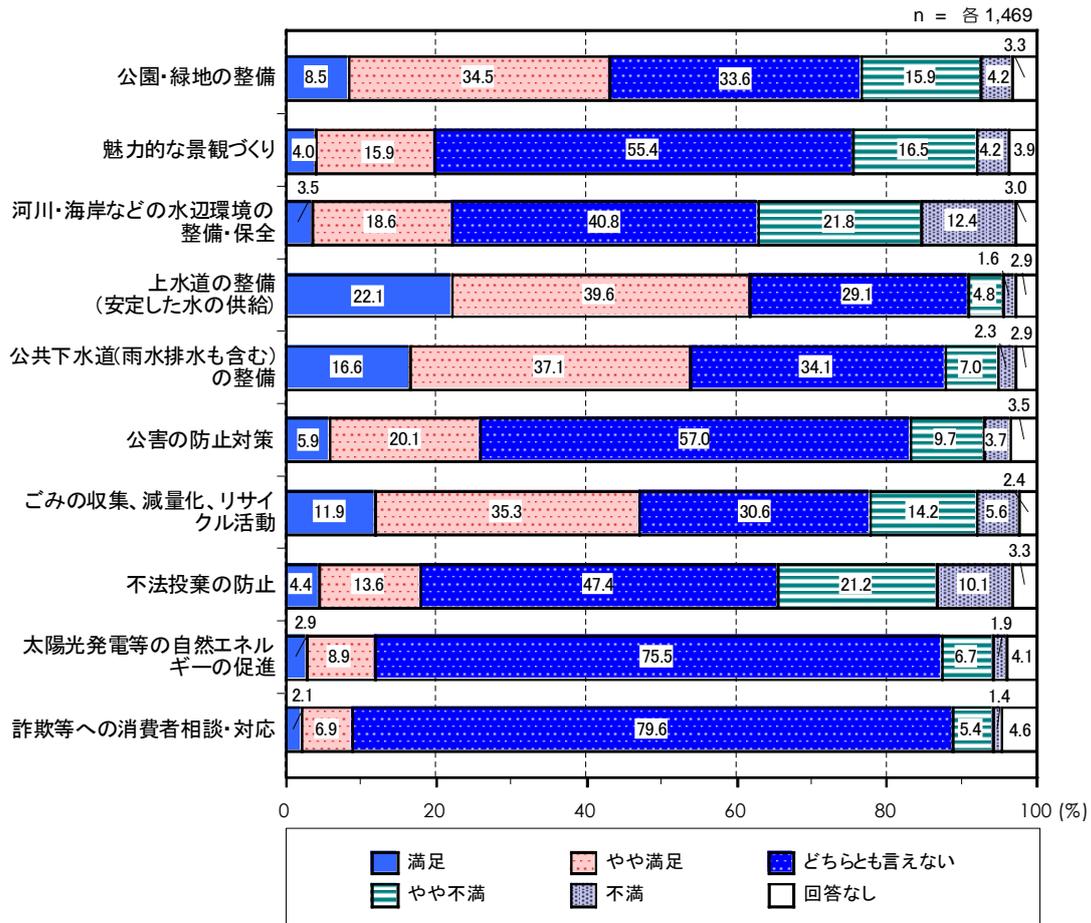


図 3-1-4-1 暮らしの満足度「生活環境について」

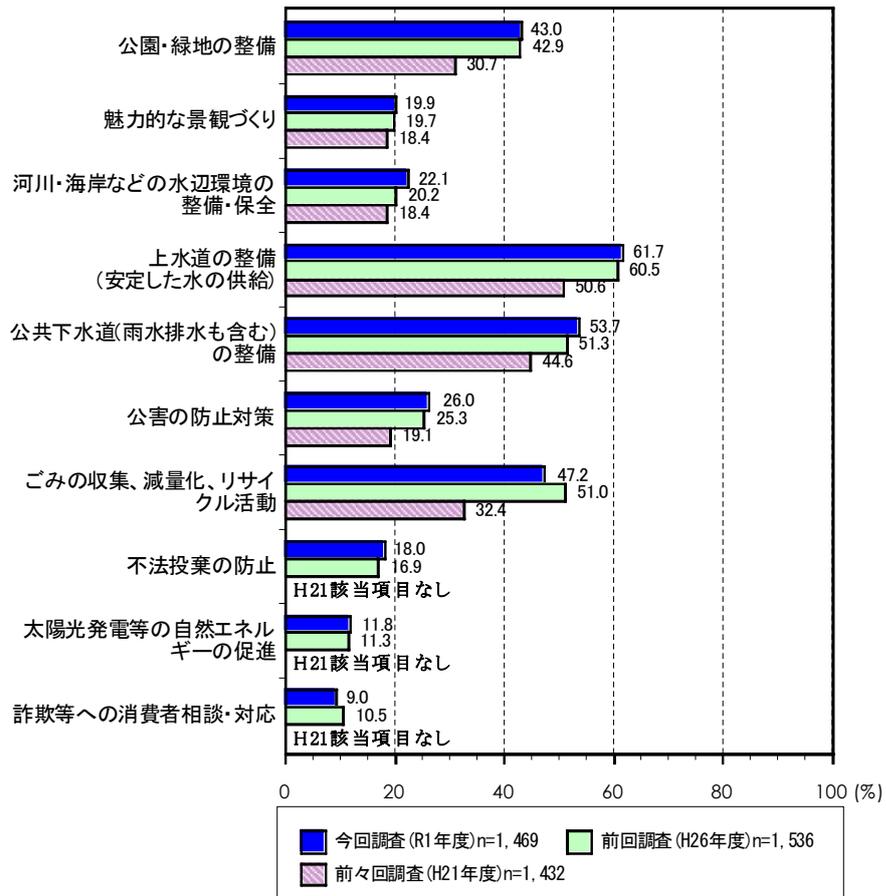


図 3-1-4-2 「生活環境について」の満足度 (前回・前々回調査比較)

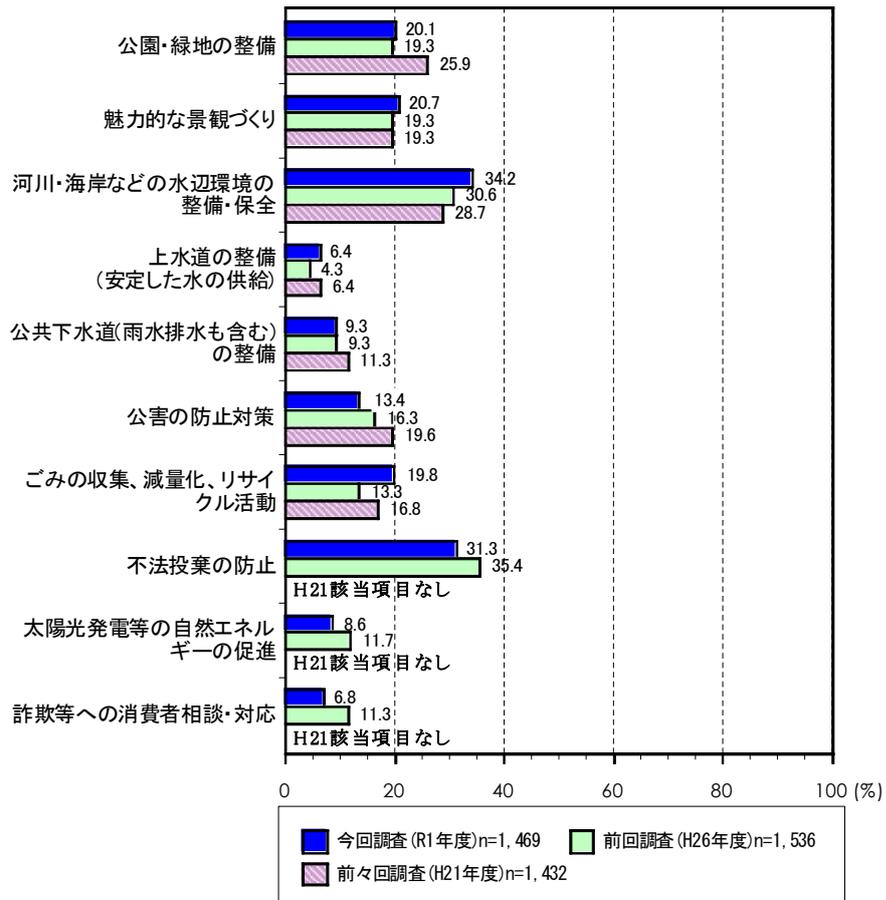


図 3-1-4-3 「生活環境について」の不満足度（前回・前々回調査比較）

[防災・交通安全・防犯・消防等について]

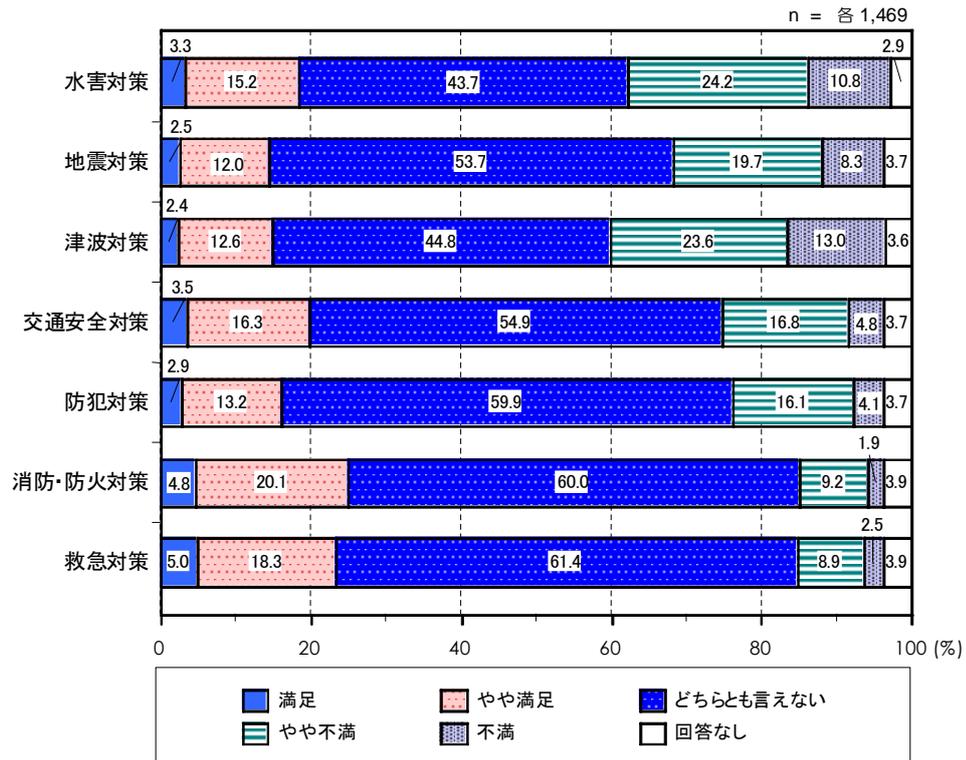


図 3-1-5-1 暮らしの満足度「防災・交通安全・防犯・消防等について」

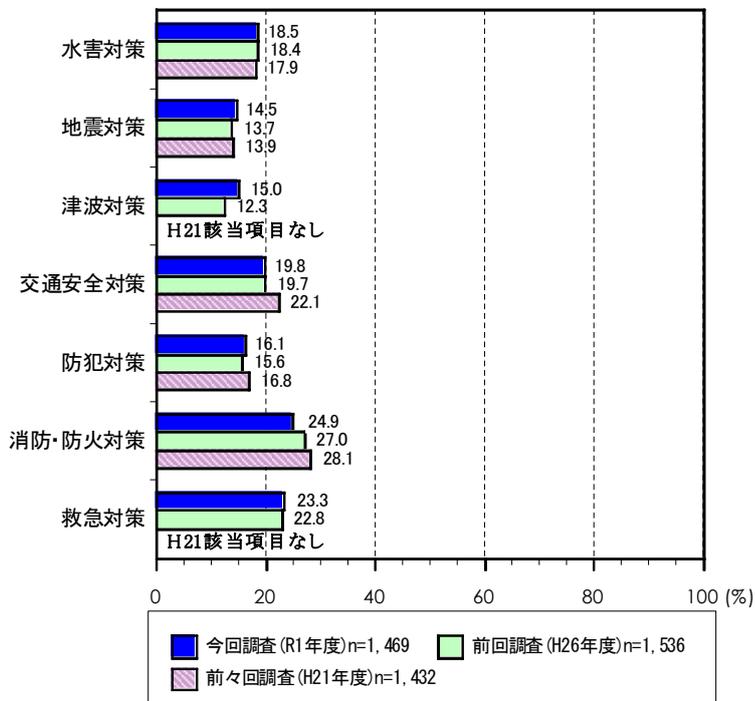


図 3-1-5-2 「防災・交通安全・防犯・消防等について」の満足度（前回・前々回調査比較）

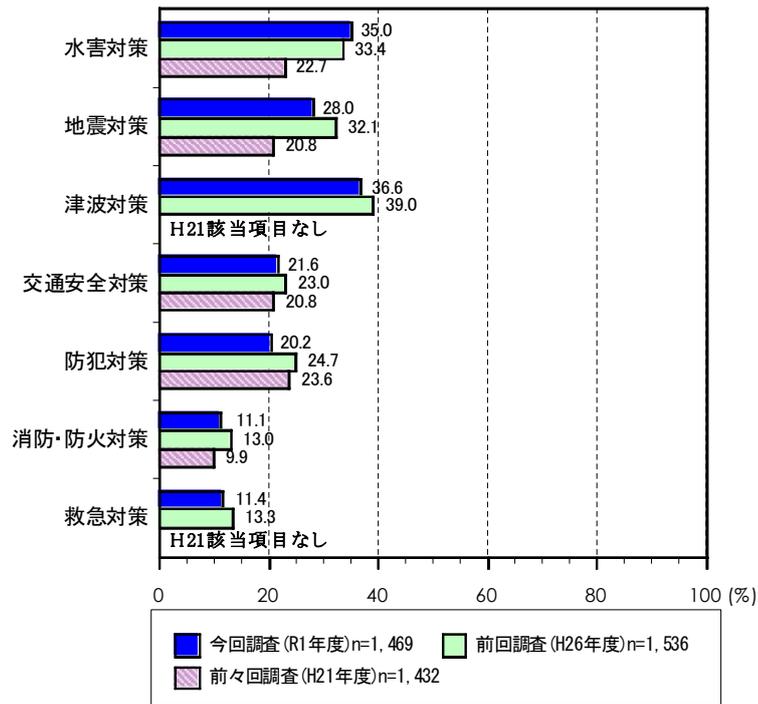


図 3-1-5-3 「防災・交通安全・防犯・消防等について」の不満度（前回・前々回調査比較）

[保健・福祉・医療について]

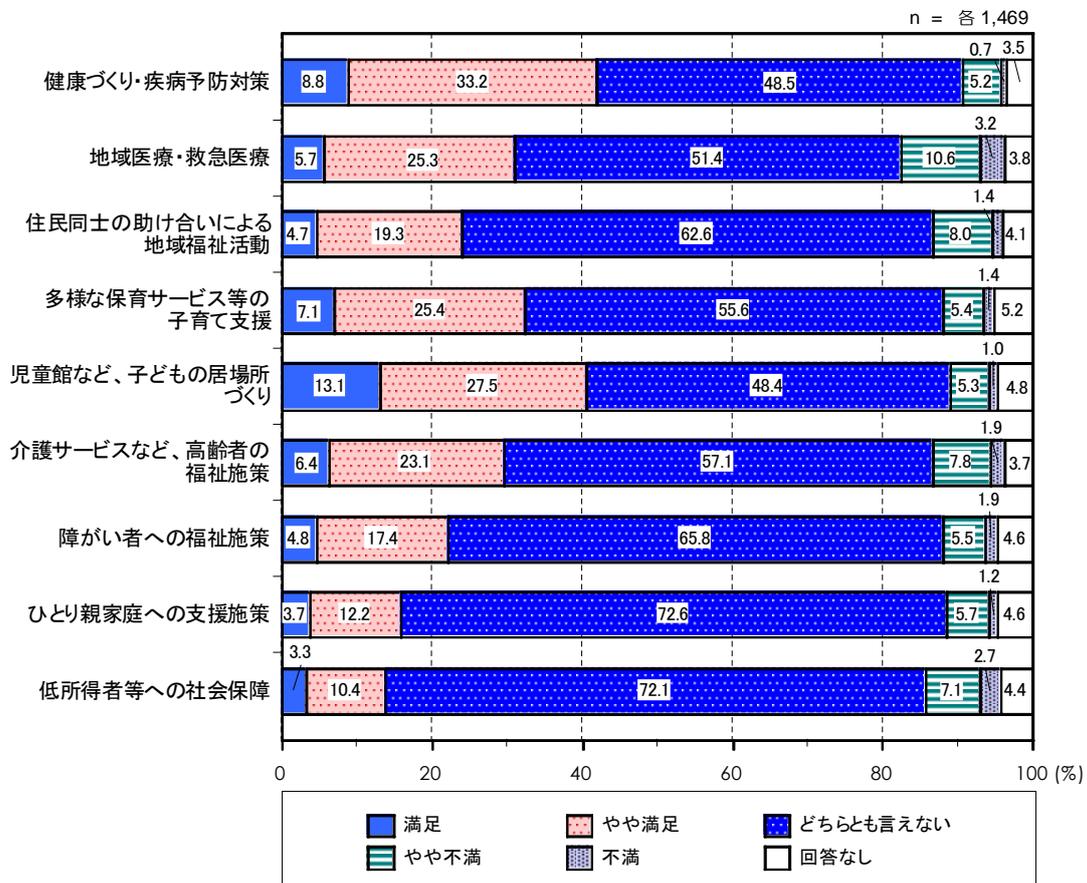


図 3-1-6-1 暮らしの満足度「保健・福祉・医療について」

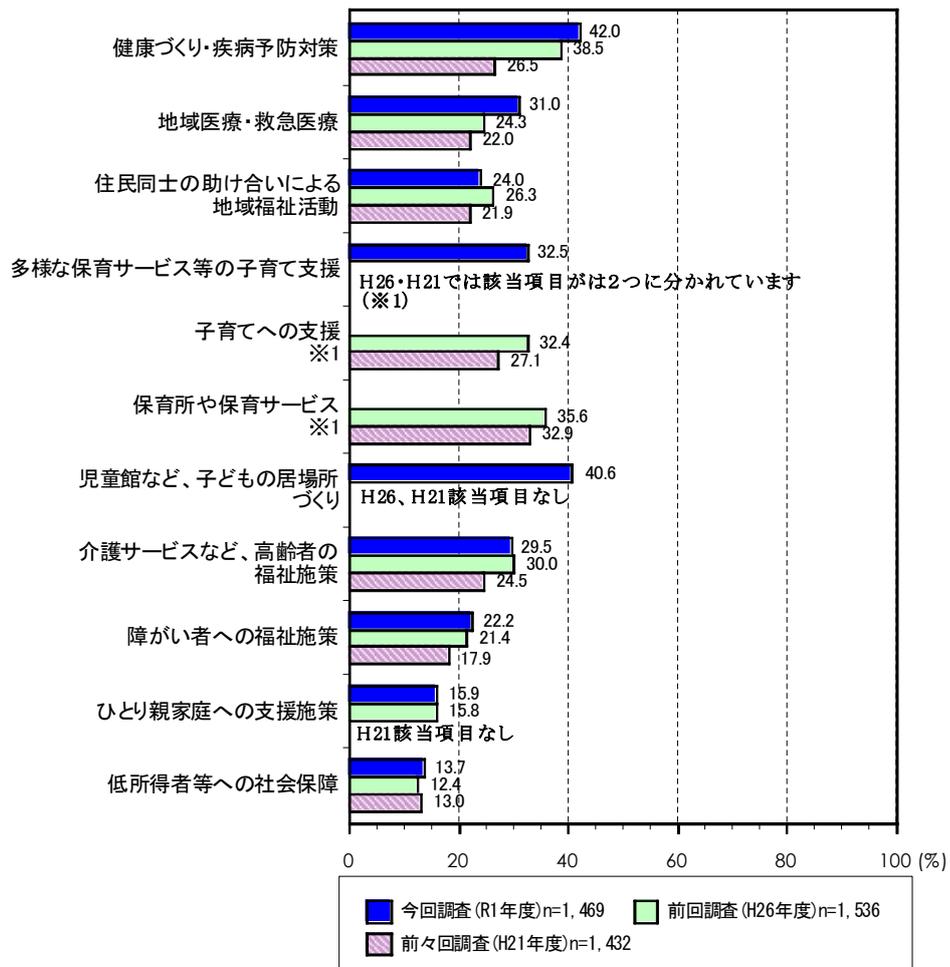


図 3-1-6-2 「保健・福祉・医療について」の満足度（前回・前々回調査比較）

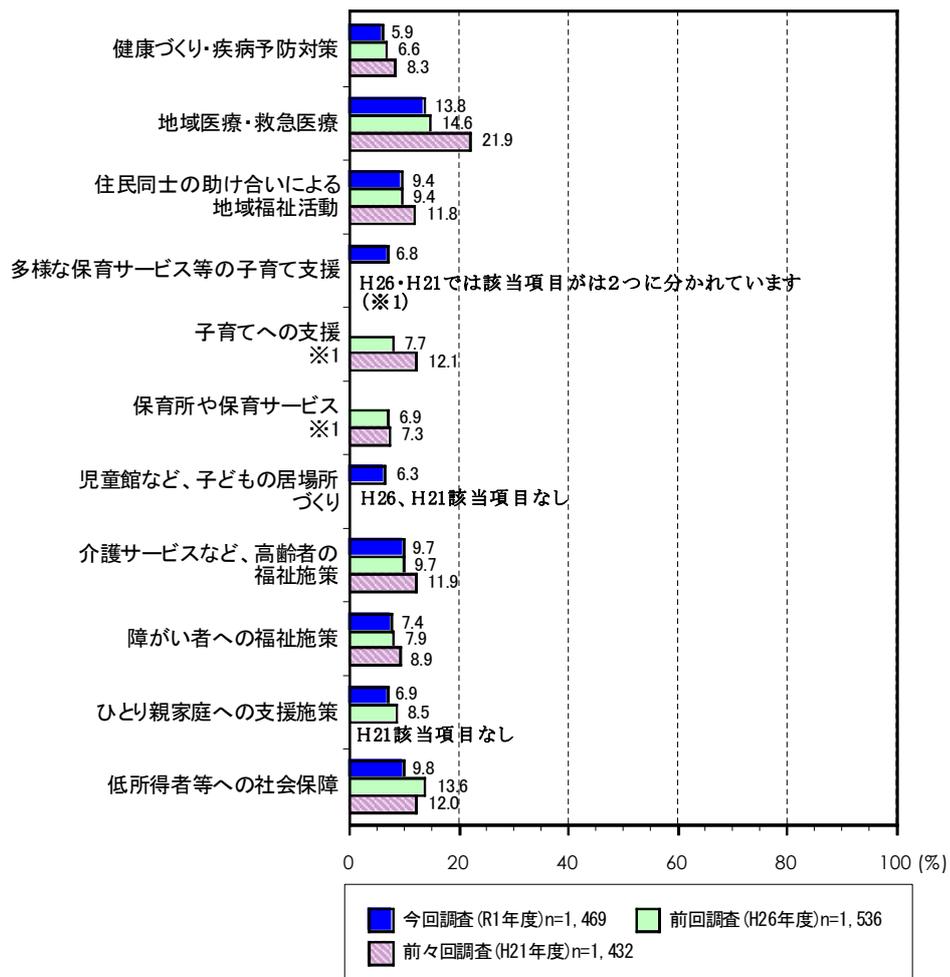


図 3-1-6-3 「保健・福祉・医療について」の不満足度（前回・前々回調査比較）

[教育・文化・スポーツについて]

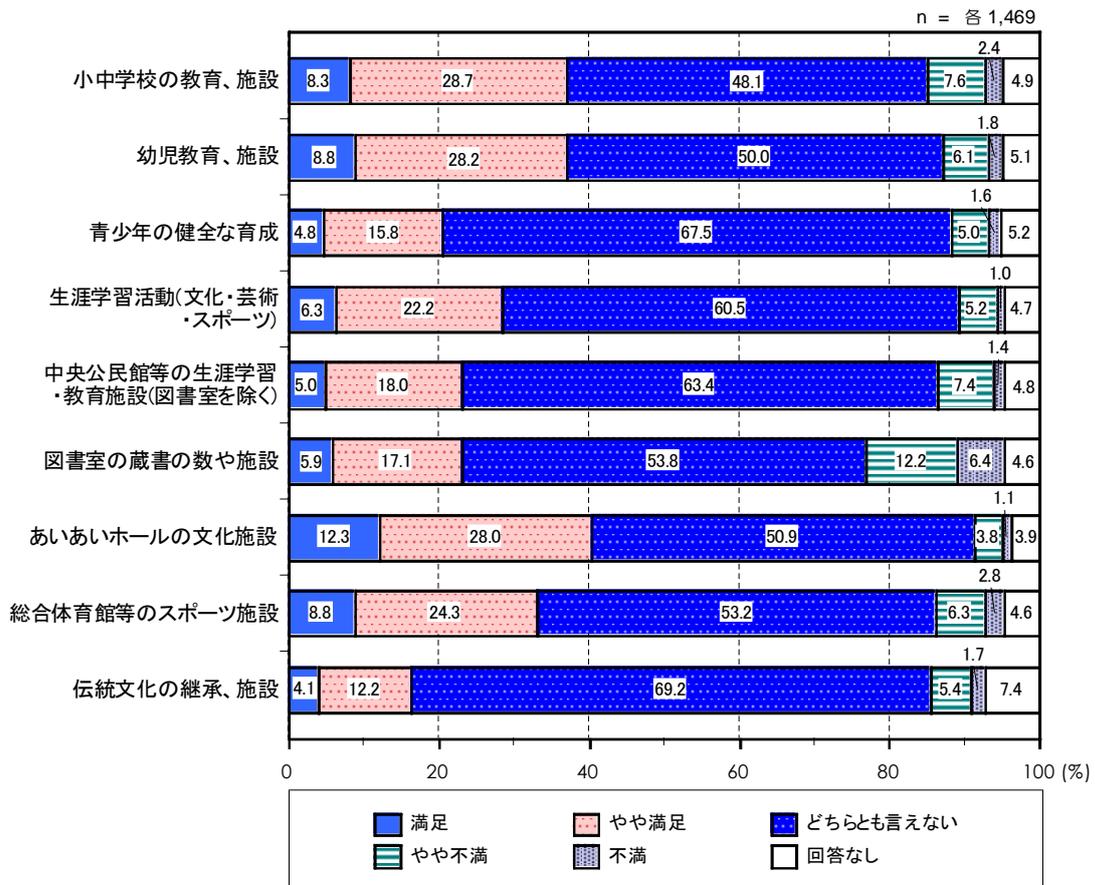


図 3-1-7-1 暮らしの満足度「教育・文化・スポーツについて」

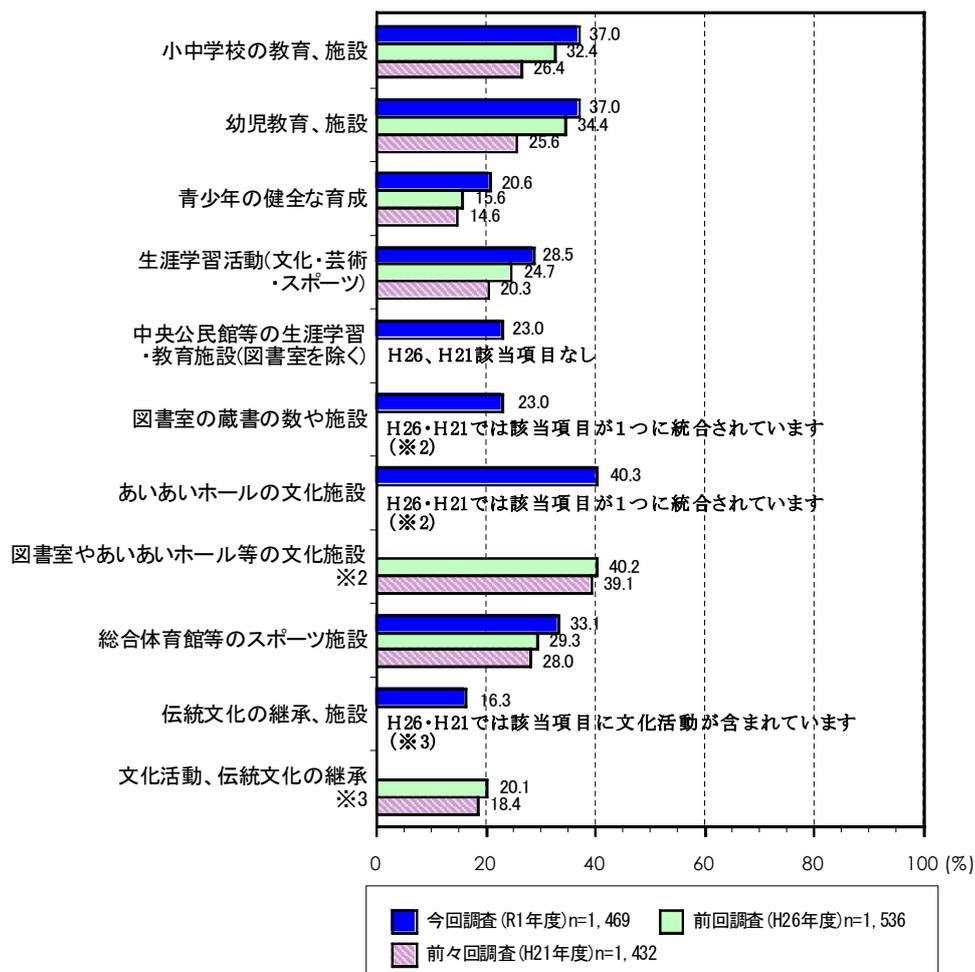


図 3-1-7-2 「教育・文化・スポーツについて」の満足度（前回・前々回調査比較）

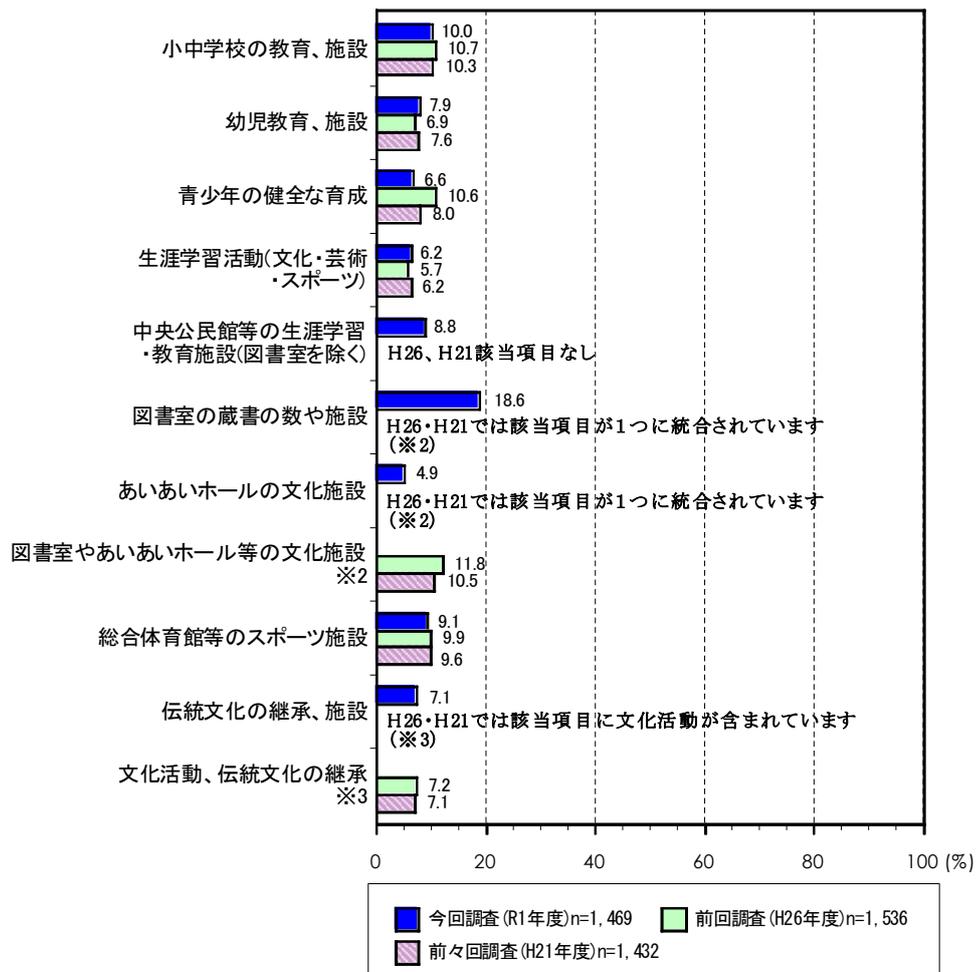


図 3-1-7-3 「教育・文化・スポーツについて」の不満度（前回・前々回調査比較）

[コミュニティについて]

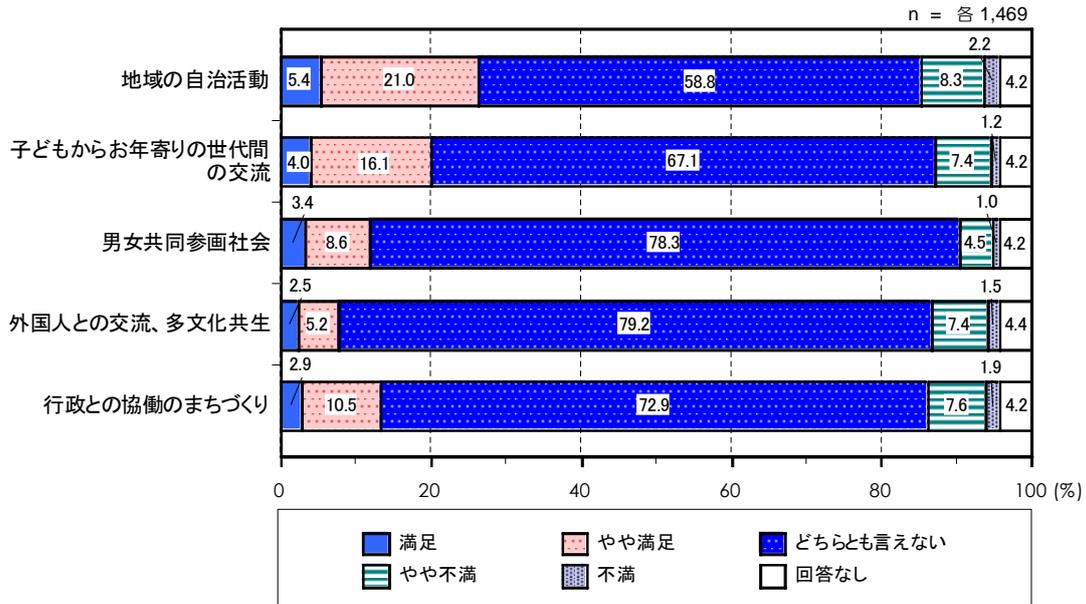


図 3-1-8-1 暮らしの満足度「コミュニティについて」

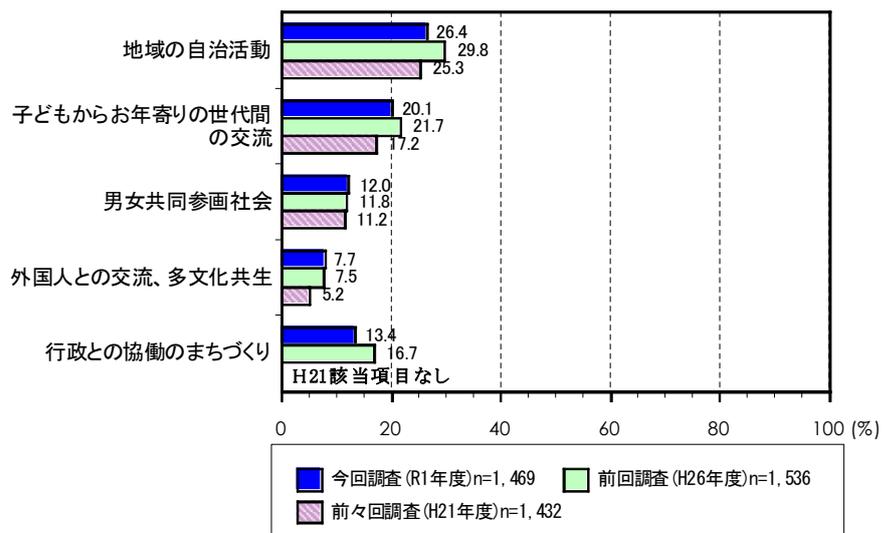


図 3-1-8-2 「コミュニティについて」の満足度（前回・前々回調査比較）

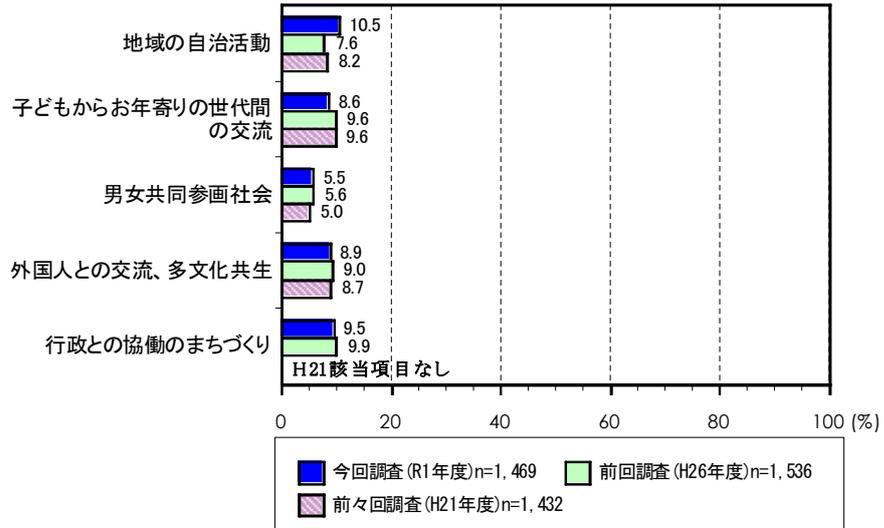


図 3-1-8-3 「コミュニティについて」の不満度（前回・前々回調査比較）

[行政運営について]

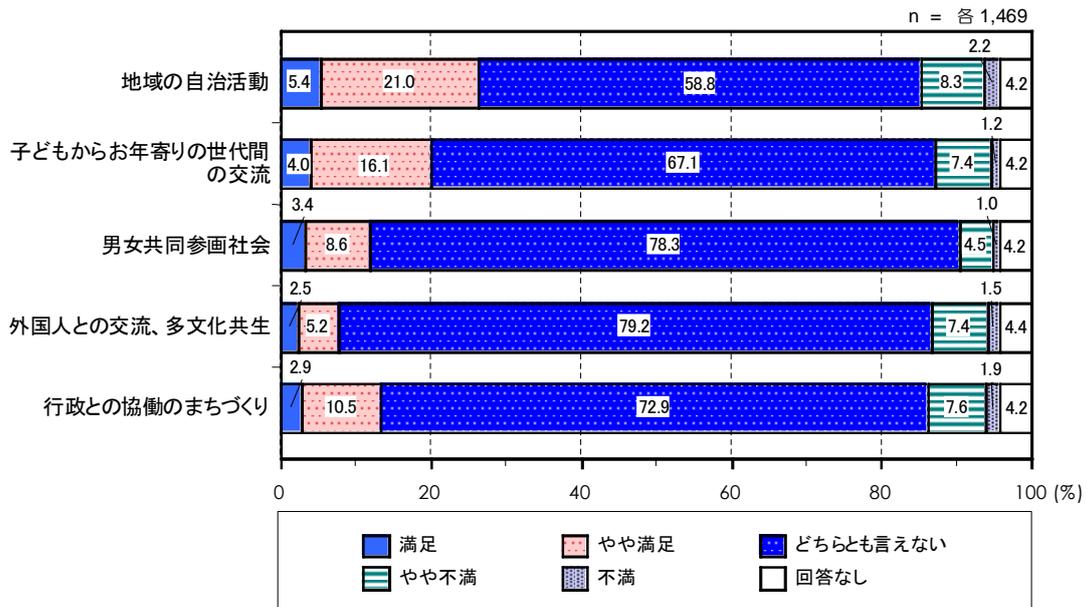


図 3-1-9-1 暮らしの満足度「行政運営について」

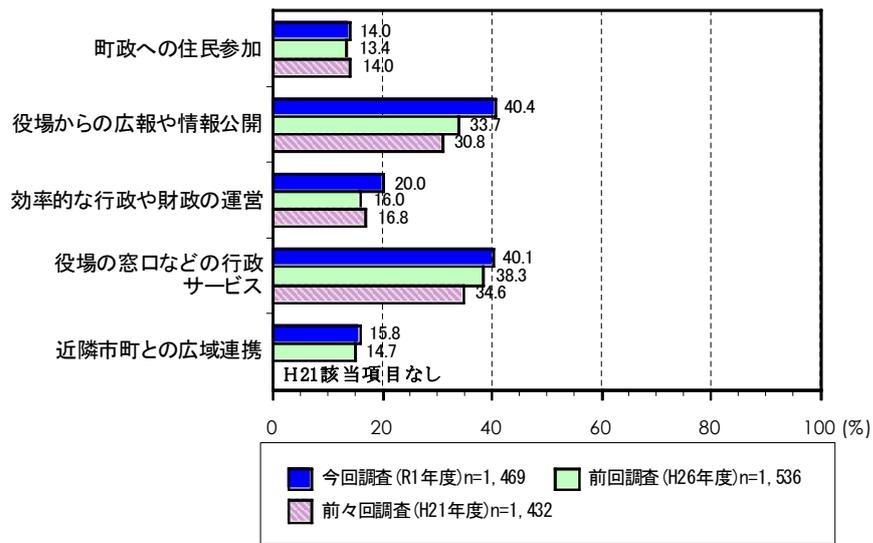


図 3-1-9-2 「行政運営について」の満足度（前回・前々回調査比較）

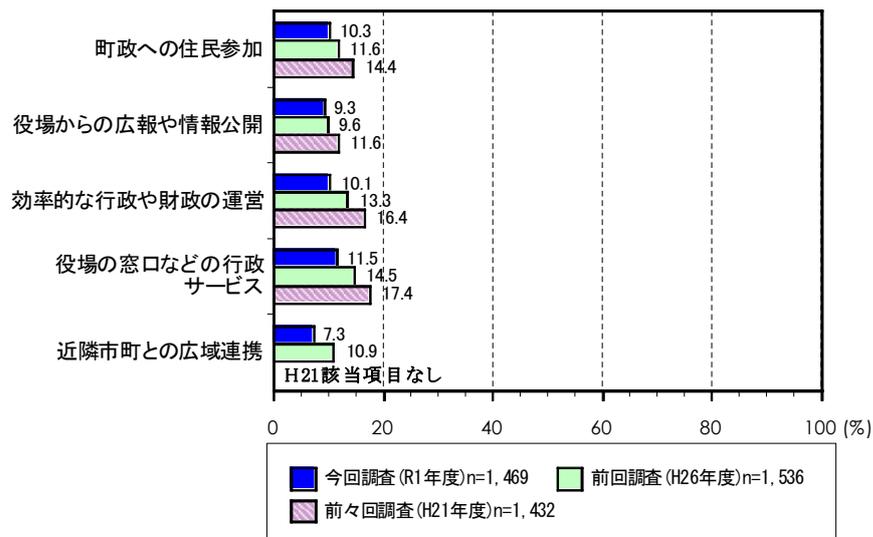


図 3-1-9-3 「行政運営について」の不満足度（前回・前々回調査比較）

○57項目のうち、5段階評価の平均点では、プラスの評点は45項目、マイナスの評点は12項目と、プラス評価の項目の方が多く、全体的に満足度が高くなっています。特に「保健・福祉・医療」の分野や「教育・文化・スポーツ」の分野、「コミュニティ」の分野、「行政運営」の分野ではプラスの評点が多く、「産業」の分野、「防災・交通安全・防犯・消防等」の分野などでマイナスの評点が多くなっています。

○最も評点が高いのは「上水道の整備」(0.78点)、次いで「公共下水道の整備」(0.60点)、「あいあいホールの文化施設」(0.49点)、「児童館など、子どもの居場所づくり」(0.49点)となっています。

○一方、最も評点が高いのは「津波対策」(-0.33点)となっており、次いで「水害対策」(-0.25点)、「安心・安全な歩行環境の整備」(-0.23点)となっています。

表 3-1 暮らしの満足度（評点）

※「満足」を+2点、「やや満足」を+1点、「どちらとも言えない」を0点、「やや不満」を-1点、「不満」を-2点の5段階評価で得点を付け、57項目ごとに満足度の平均の評点を算出しました。

		満足度	
		n	評点
市街地整備 土地利用	1	良好な住宅地の整備	1,418 0.37
	2	密集市街地の改善	1,396 0.03
	3	みえ川越インターチェンジ周辺の整備	1,411 0.29
道路・公共交通	4	国道などの幹線道路の整備	1,411 0.36
	5	町道などの身近な生活道路の整備	1,427 0.01
	6	安心・安全な歩行環境の整備	1,413 -0.23
	7	鉄道や駅の利便性	1,428 0.10
産業	8	ふれあいバス(コミュニティバス)の利便性	1,417 0.01
	9	農漁業の振興対策	1,409 -0.01
	10	工業の振興・企業誘致	1,408 0.05
	11	商業・商店(小売・飲食)の振興対策	1,420 -0.04
生活環境	12	就業の場、就業の機会	1,403 -0.06
	13	公園・緑地の整備	1,421 0.28
	14	魅力的な景観づくり	1,411 -0.01
	15	河川・海岸などの水辺環境の整備・保全	1,425 -0.22
	16	上水道の整備(安定した水の供給)	1,426 0.78
	17	公共下水道(雨水排水も含む)の整備	1,427 0.60
	18	公害の防止対策	1,417 0.16
	19	ごみの収集、減量化、リサイクル活動	1,434 0.35
	20	不法投棄の防止	1,420 -0.20
	21	太陽光発電等の自然エネルギーの促進	1,409 0.04
	22	詐欺等への消費者相談・対応	1,401 0.03
防災・交通安全 防犯・消防等	23	水害対策	1,426 -0.25
	24	地震対策	1,414 -0.20
	25	津波対策	1,416 -0.33
	26	交通安全対策	1,415 -0.03
	27	防犯対策	1,414 -0.05
	28	消防・防火対策	1,412 0.17
	29	救急対策	1,411 0.15
福祉・医療 保健・福	30	健康づくり・疾病予防対策	1,417 0.46
	31	地域医療・救急医療	1,413 0.21
	32	住民同士の助け合いによる地域福祉活動	1,409 0.19
	33	多様な保育サービス等の子育て支援	1,393 0.33

		満足度		
		n	評点	
	34	児童館など、子どもの居場所づくり	1,399	0.49
	35	介護サービスなど、高齢者の福祉施策	1,415	0.25
	36	障がい者への福祉施策	1,401	0.18
	37	ひとり親家庭への支援施策	1,402	0.12
	38	低所得者等への社会保障	1,404	0.05
教育・文化・スポーツ	39	小中学校の教育、施設	1,397	0.35
	40	幼児教育、施設	1,394	0.38
	41	青少年の健全な育成	1,392	0.18
	42	生涯学習活動(文化・芸術・スポーツ)	1,400	0.29
	43	中央公民館等の生涯学習・教育施設(図書室を除く)	1,398	0.19
	44	図書室の蔵書の数や施設	1,401	0.04
	45	あいあいホールの文化施設	1,412	0.49
	46	総合体育館等のスポーツ施設	1,401	0.32
	47	伝統文化の継承、施設	1,360	0.13
コミュニティ	48	地域の自治活動	1,408	0.20
	49	子どもからお年寄りの世代間の交流	1,407	0.15
	50	男女共同参画社会	1,408	0.09
	51	外国人との交流、多文化共生	1,405	0.00
	52	行政との協働のまちづくり	1,407	0.05
	53	町政への住民参加	1,405	0.05
行政運営	54	役場からの広報や情報公開	1,419	0.40
	55	効率的な行政や財政の運営	1,403	0.12
	56	役場の窓口などの行政サービス	1,410	0.38
	57	近隣市町との広域連携	1,406	0.11

## (2) 今後のまちづくりの重要度

問7 あなたは(1)～(57)のそれぞれの項目について、今後の行政を進めるにあたって、どれくらい重要であると思われますか。

「重要」、「やや重要」と回答した者の合計の割合を重要度とし、「あまり重要でない」、「重要でない」と回答した者の合計の割合を非重要度とします。また、本文の構成比(%)は、小数点第2位を四捨五入しているため、グラフ値を単純に加算した数値とは必ずしも一致しません。

### ◆「水害対策」、「津波対策」、「地震対策」、「交通安全対策」など、安心・安全に関わる項目への重要度が高くなっています。

○今後のまちづくりの重要度として、「重要」と「やや重要」を合わせた回答では、「水害対策」が84.6%で最も割合が高く、次いで「津波対策」(83.7%)、「地震対策」(82.2%)、「交通安全対策」(77.9%)、「安心・安全な歩行環境の整備」(77.5%)、「防犯対策」(77.0%)などとなっており、防災対策など、町民の命に係わる安心・安全の項目が高くなっています。

○一方、「あまり重要でない」と「重要でない」と合わせた回答(非重要度)は、「みえ川越インターチェンジ周辺の整備」が13.1%で最も割合が高く、次いで「ふれあいバスの利便性」(10.2%)、「密集市街地の改善」(9.1%)、「魅力的な景観づくり」(9.0%)などとなっています。

○前回調査と比較して重要度が最も上昇したのは、「河川・海岸などの水辺環境の整備・保全」で7.5ポイント上昇しています。次いで「鉄道や駅の利便性」と「上水道の整備」がそれぞれ7.0ポイント上昇しています。

[土地利用・市街地整備について]

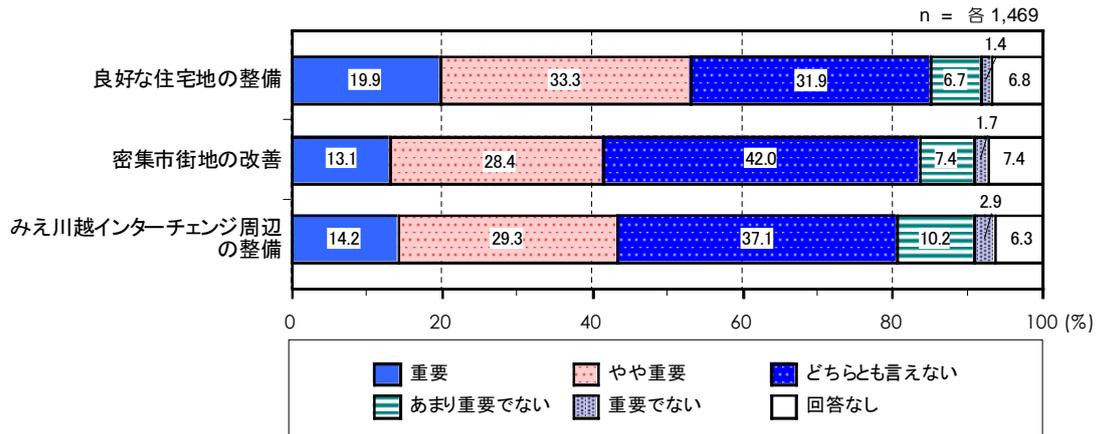


図 3-2-1-1 今後のまちづくりの重要度「土地利用・市街地整備について」

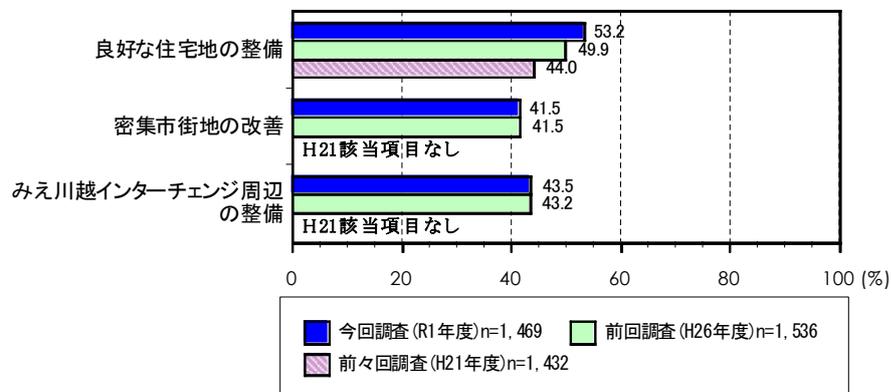


図 3-2-1-2 「土地利用・市街地整備について」の重要度（前回・前々回調査比較）

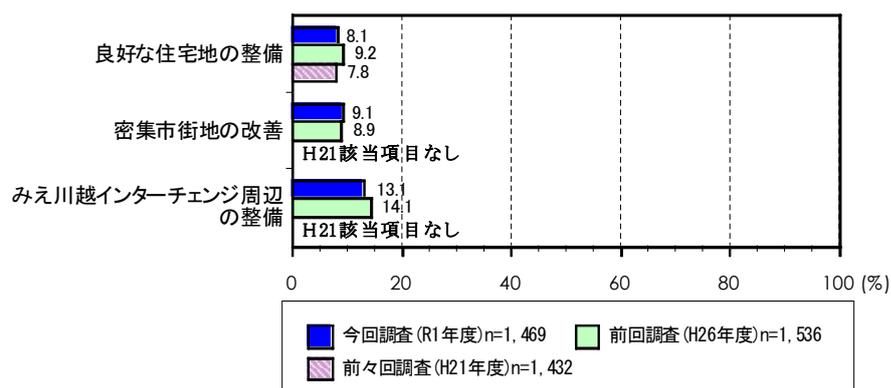


図 3-2-1-3 「土地利用・市街地整備について」の非重要度（前回・前々回調査比較）

[道路・公共交通について]

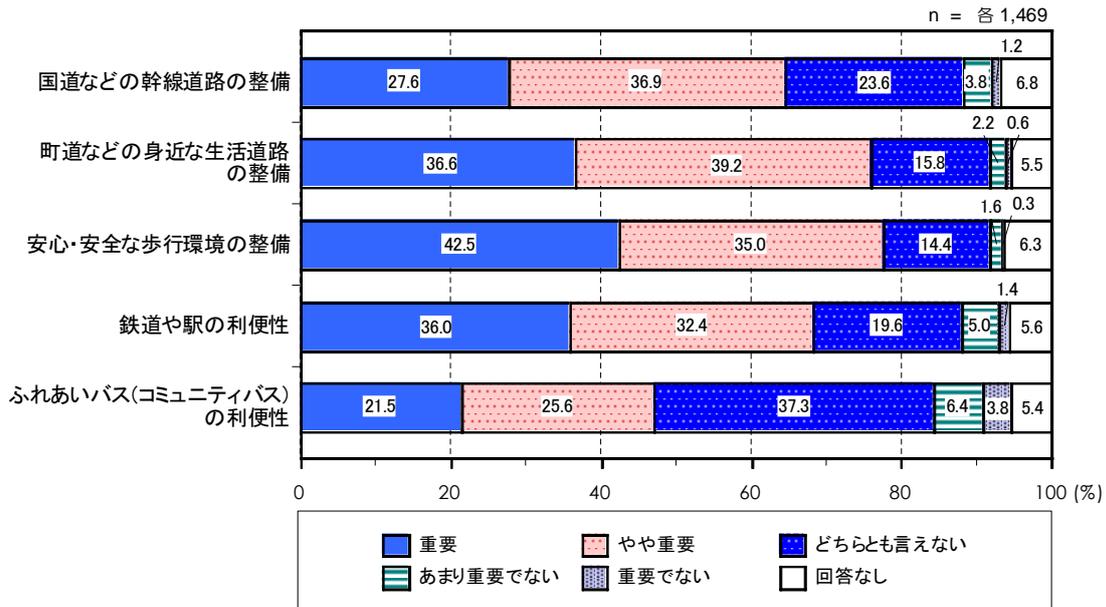


図 3-2-2-1 今後のまちづくりの重要度「道路・公共交通について」

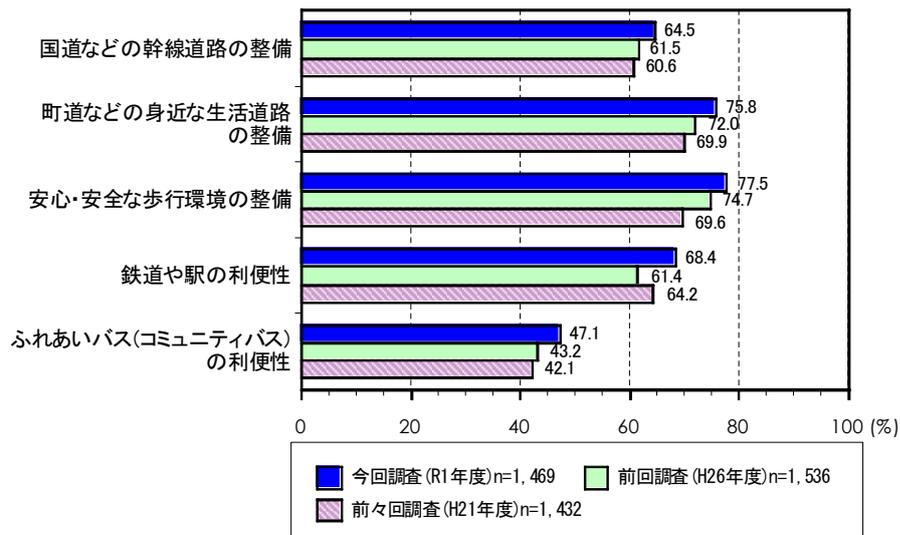


図 3-2-2-2 「道路・公共交通について」の重要度（前回・前々回調査比較）

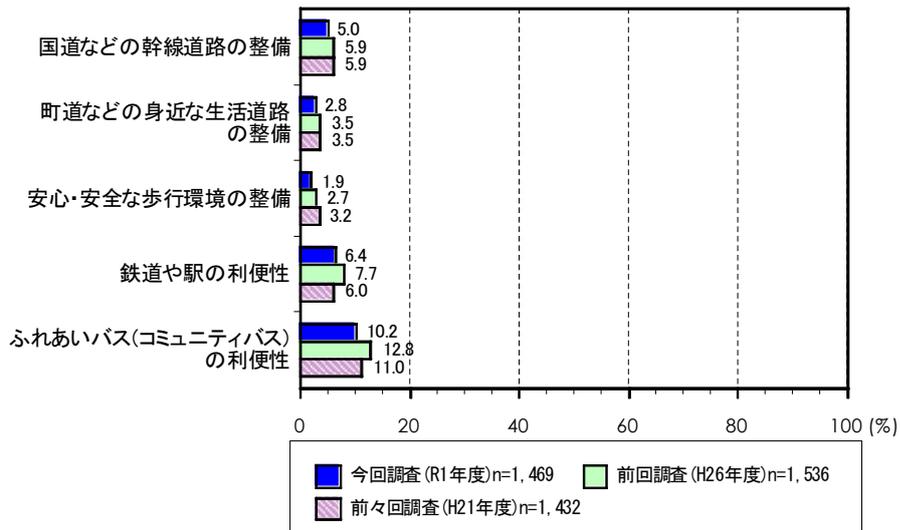


図 3-2-2-3 「道路・公共交通について」の非重要度（前回・前々回調査比較）

[産業について]

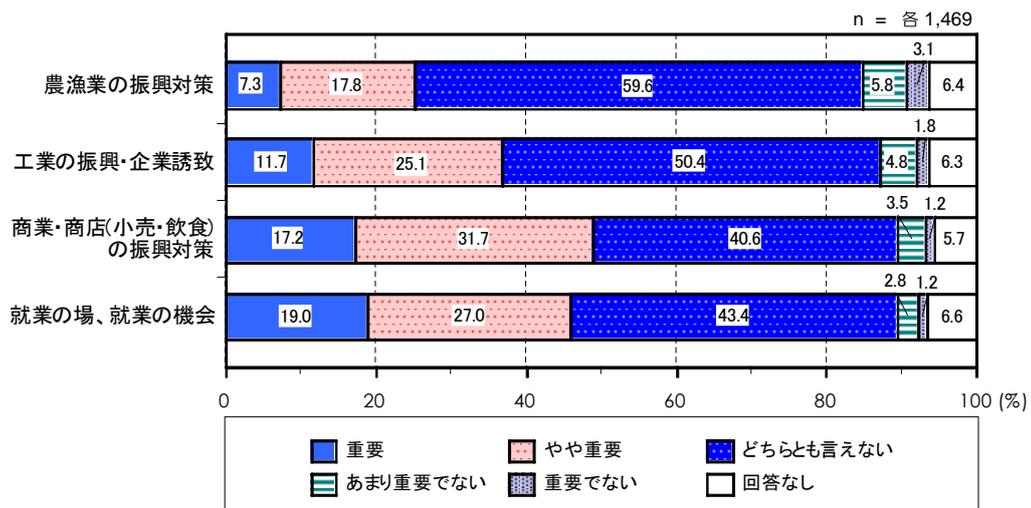


図 3-2-3-1 今後のまちづくりの重要度「産業について」

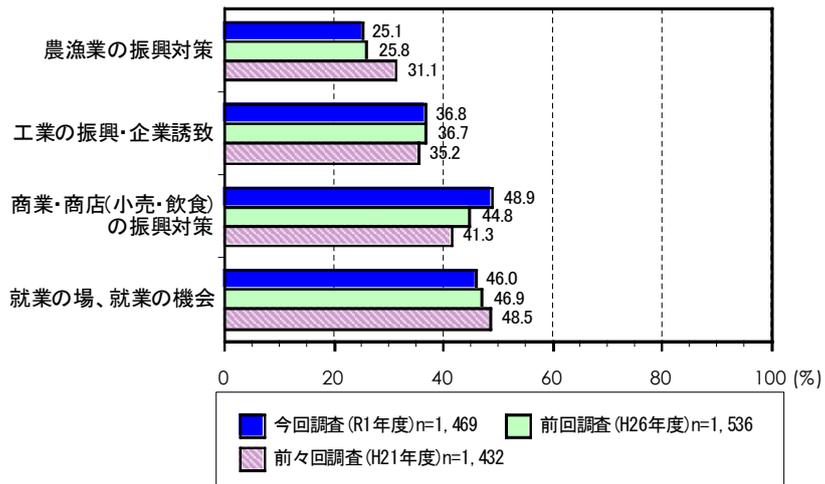


図 3-2-3-2 「産業について」の重要度 (前回・前々回調査比較)

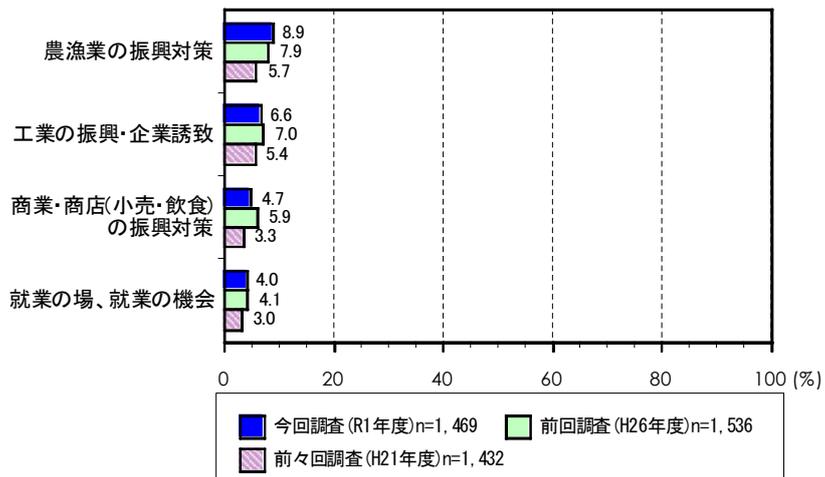


図 3-2-3-3 「産業について」の非重要度 (前回・前々回調査比較)

[生活環境について]

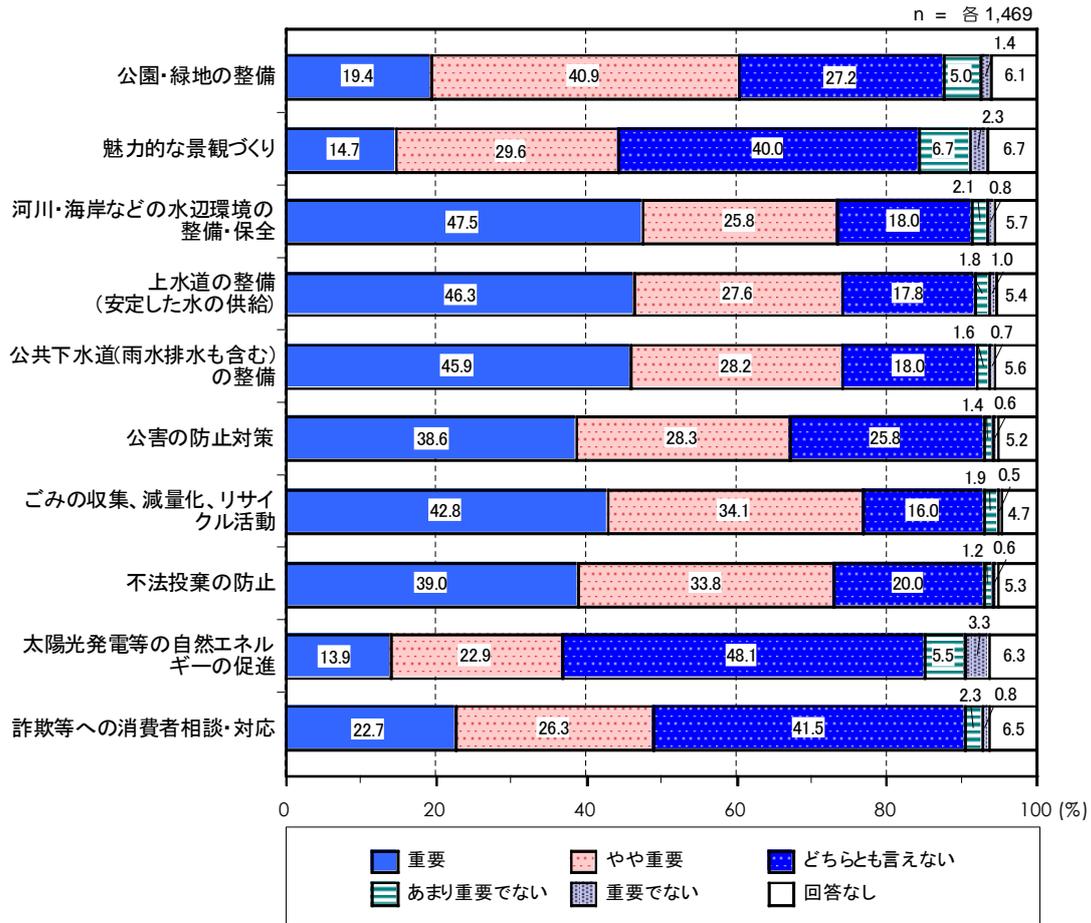


図 3-2-4-1 今後のまちづくりの重要度「生活環境について」

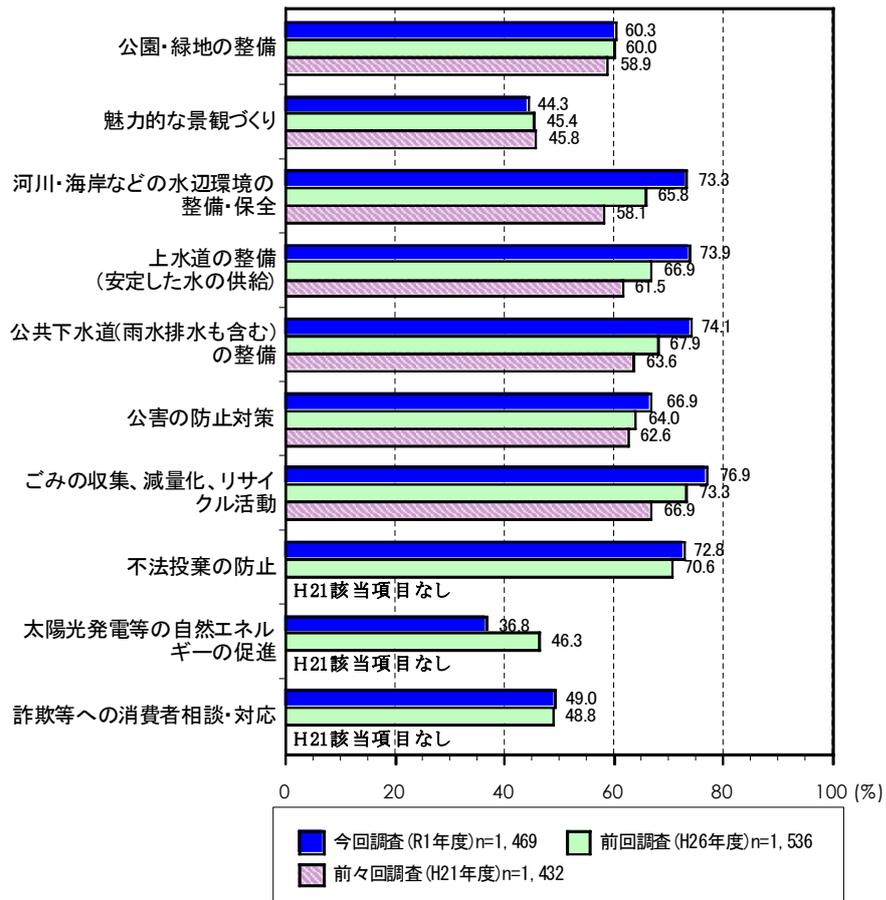


図 3-2-4-2 「生活環境について」の重要度 (前回・前々回調査比較)

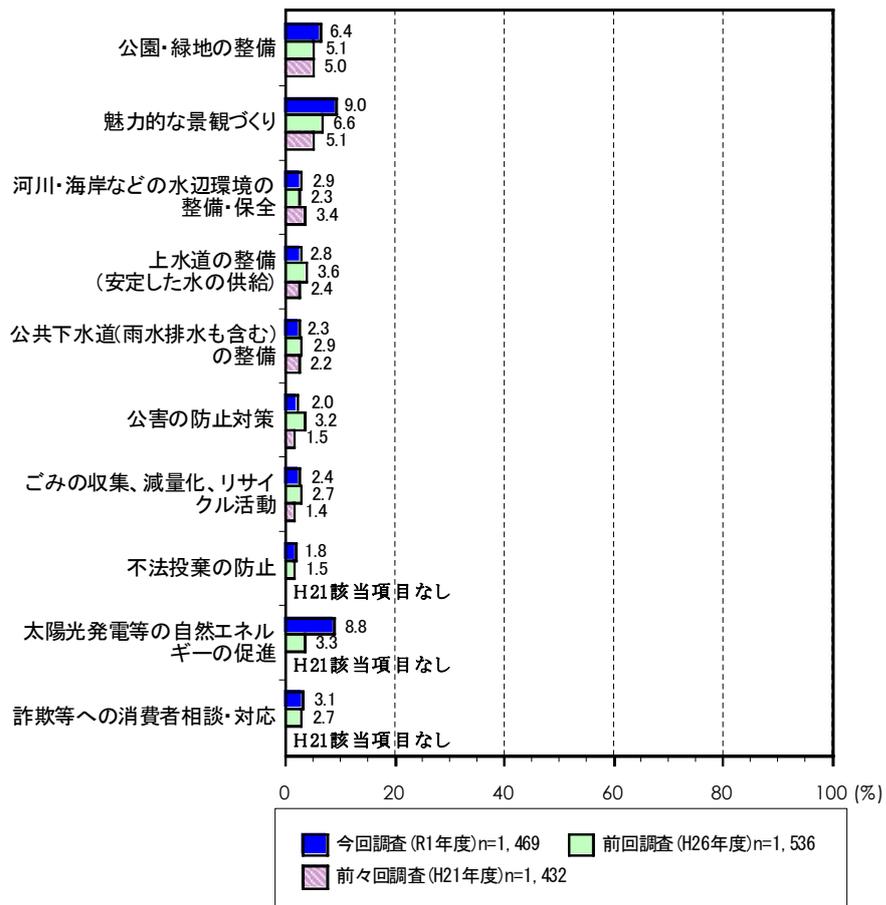


図 3-2-4-3 「生活環境について」の非重要度 (前回・前々回調査比較)

[防災・交通安全・防犯・消防等について]

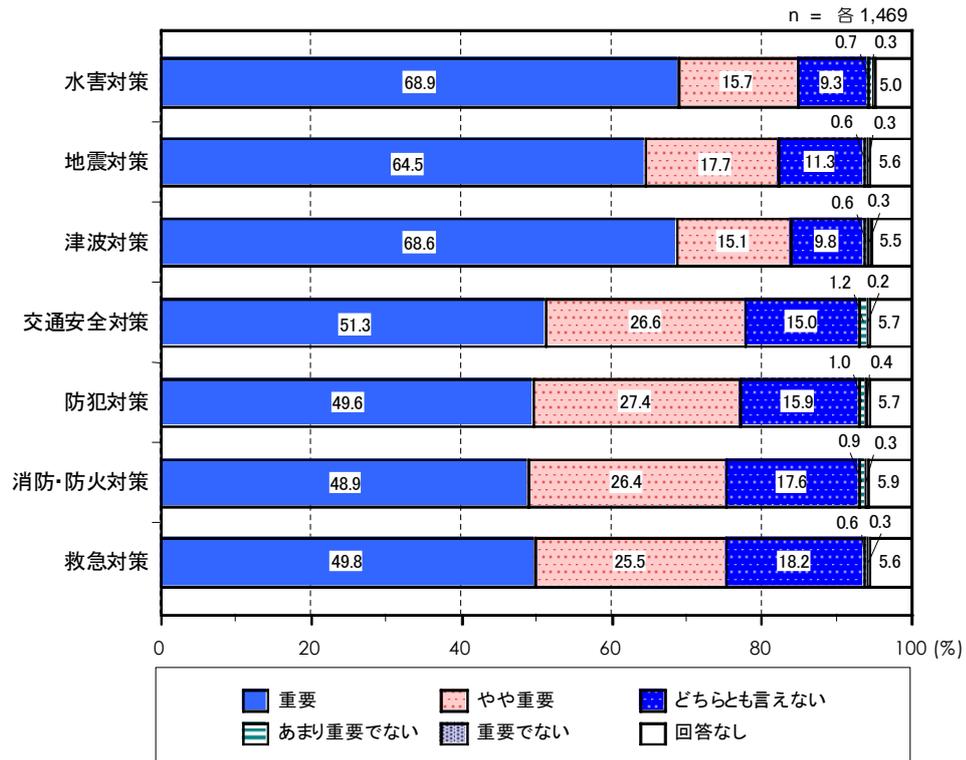


図 3-2-5-1 今後のまちづくりの重要度「防災・交通安全・防犯・消防等について」

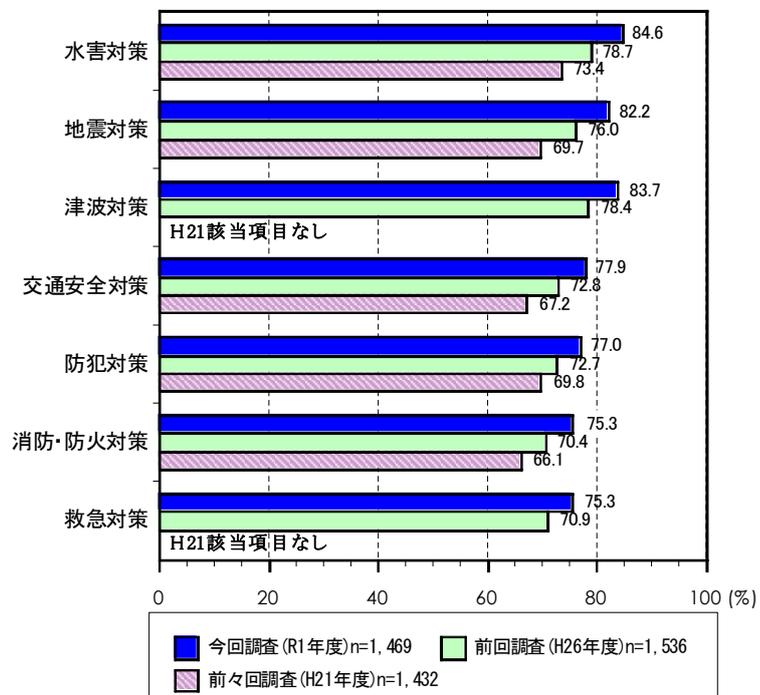


図 3-2-5-2 「防災・交通安全・防犯・消防等について」の重要度（前回・前々回調査比較）

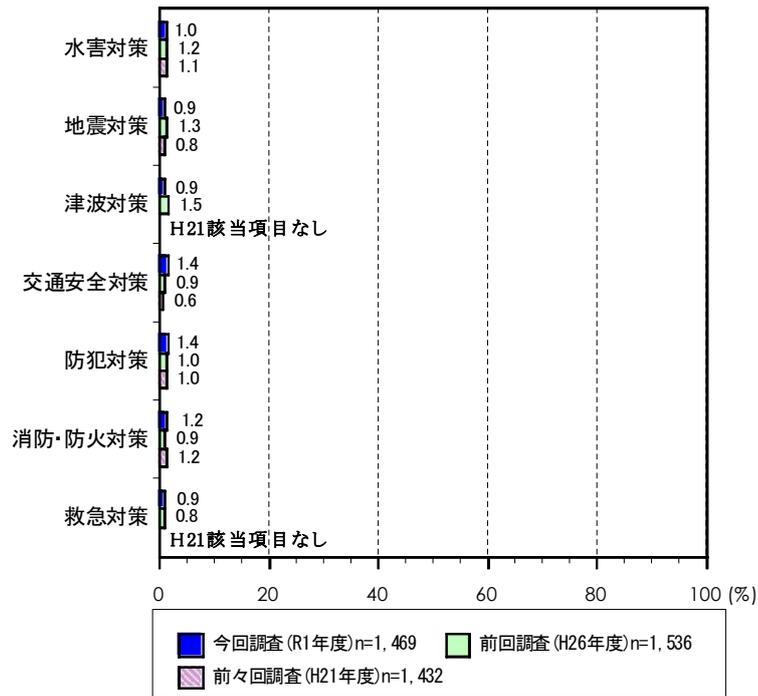


図 3-2-5-3 「防災・交通安全・防犯・消防等について」の非重要度（前回・前々回調査比較）

[保健・福祉・医療について]

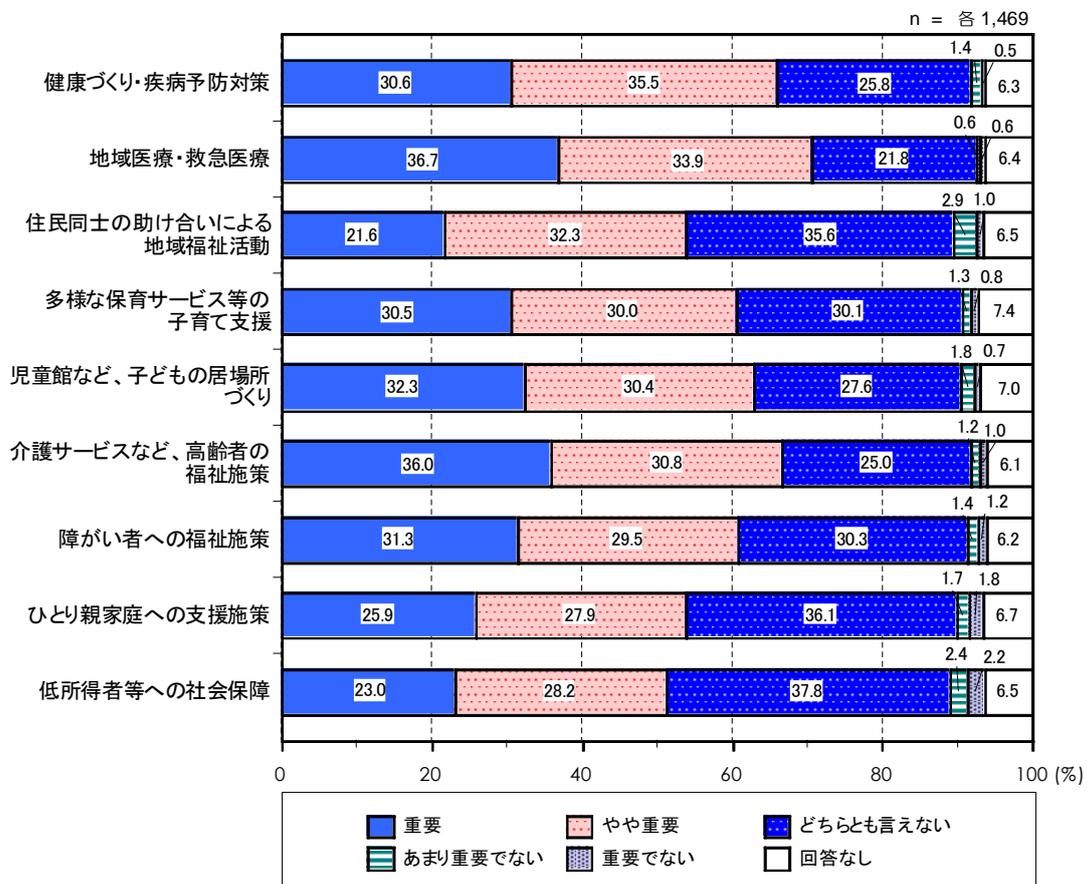


図 3-2-6-1 今後のまちづくりの重要度「保健・福祉・医療について」

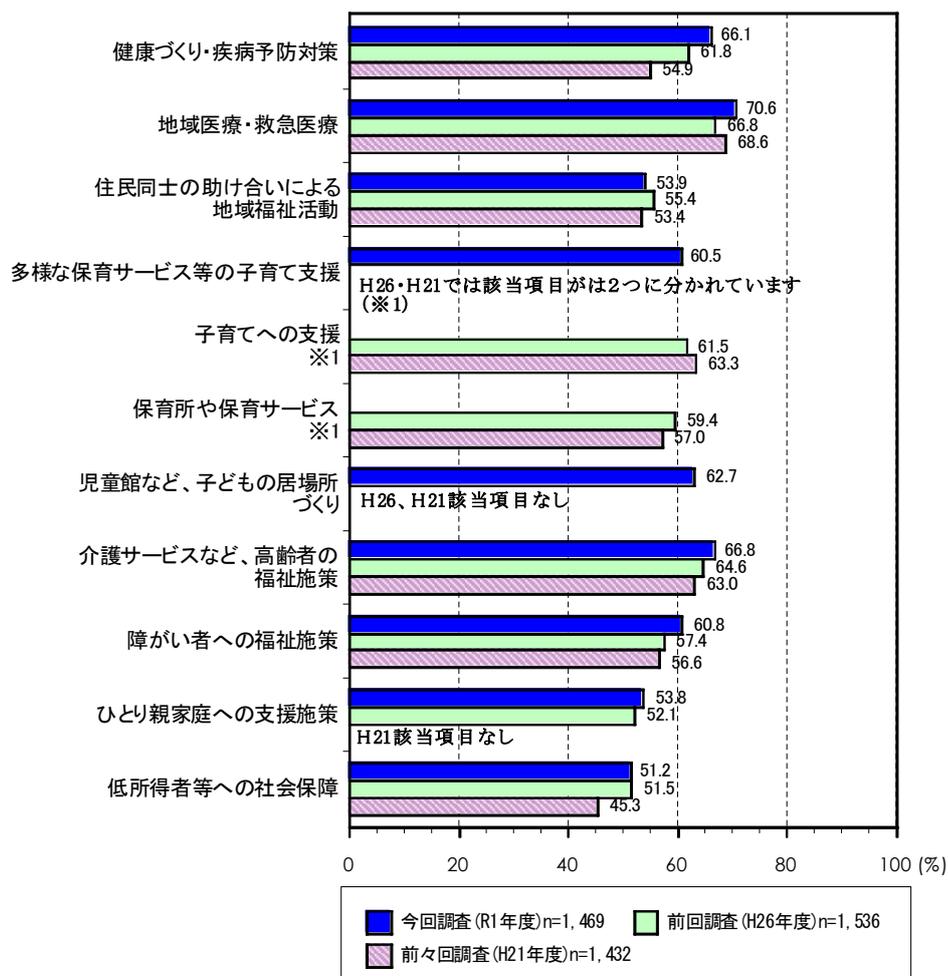


図 3-2-6-2 「保健・福祉・医療について」の重要度（前回・前々回調査比較）

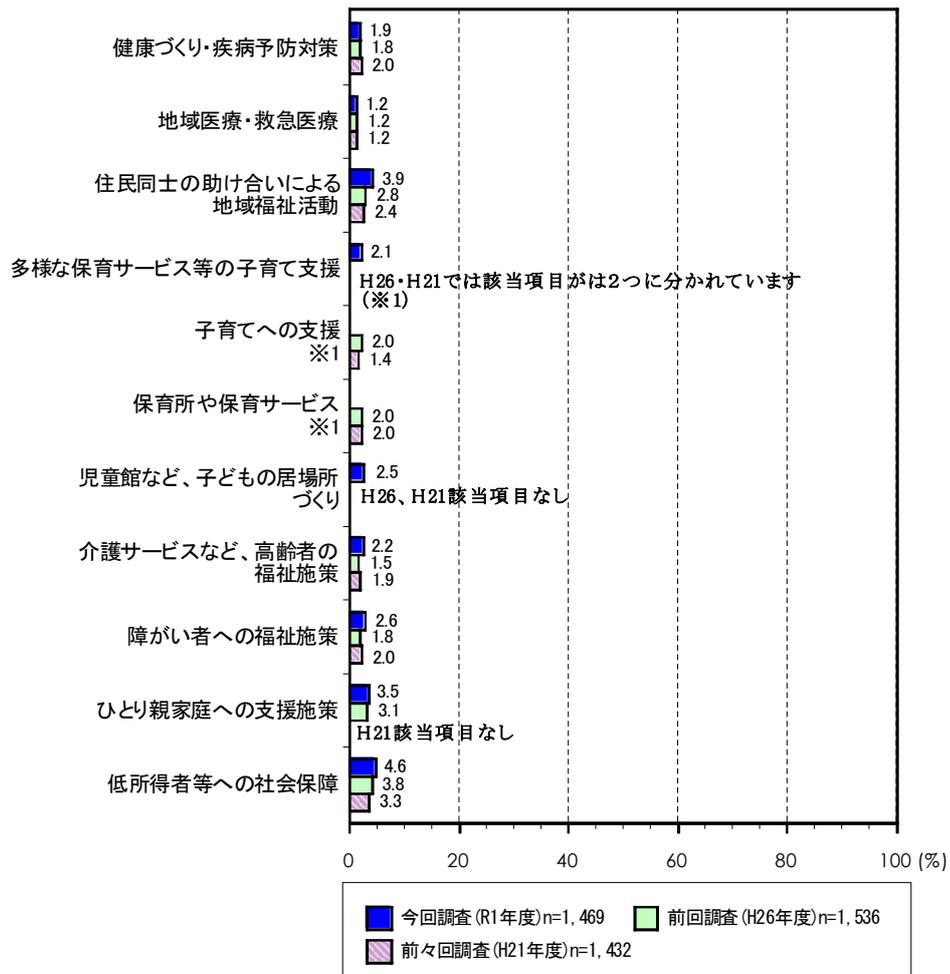


図 3-2-6-3 「保健・福祉・医療について」の非重要度（前回・前々回調査比較）

[教育・文化・スポーツについて]

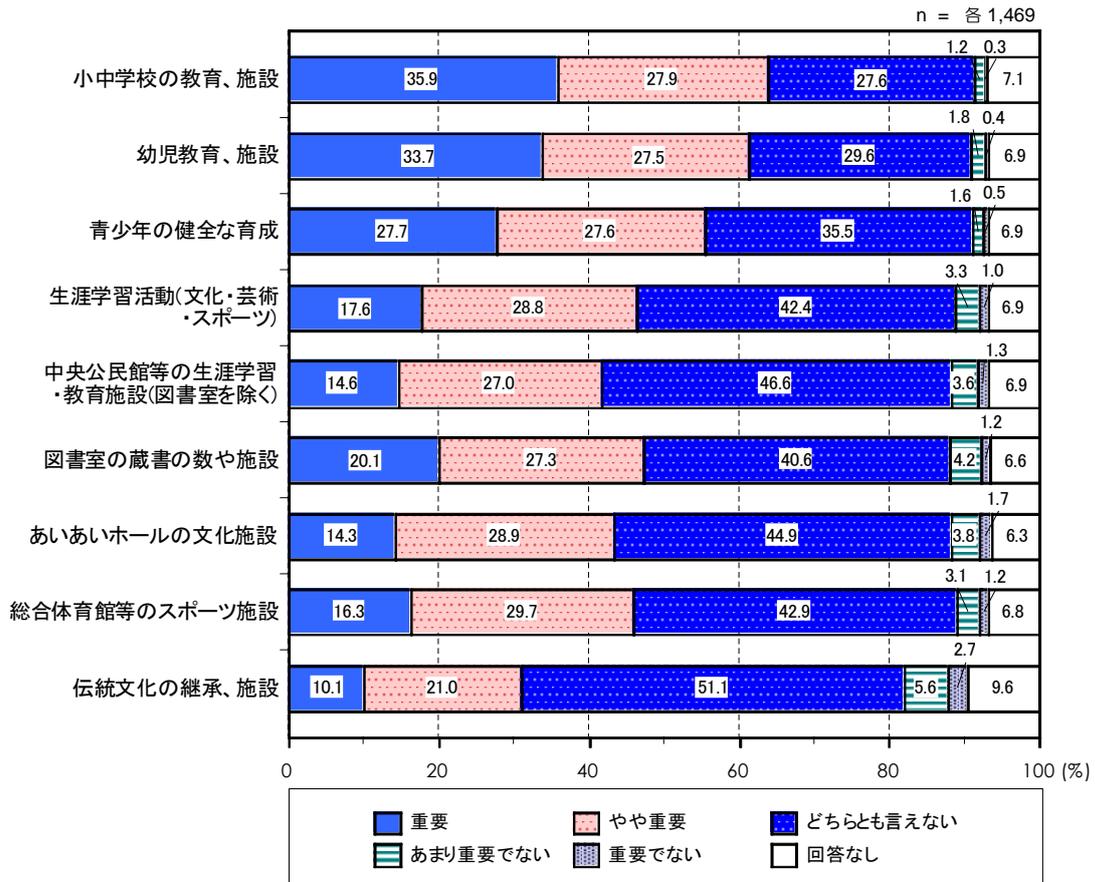


図 3-2-7-1 今後のまちづくりの重要度「教育・文化・スポーツについて」

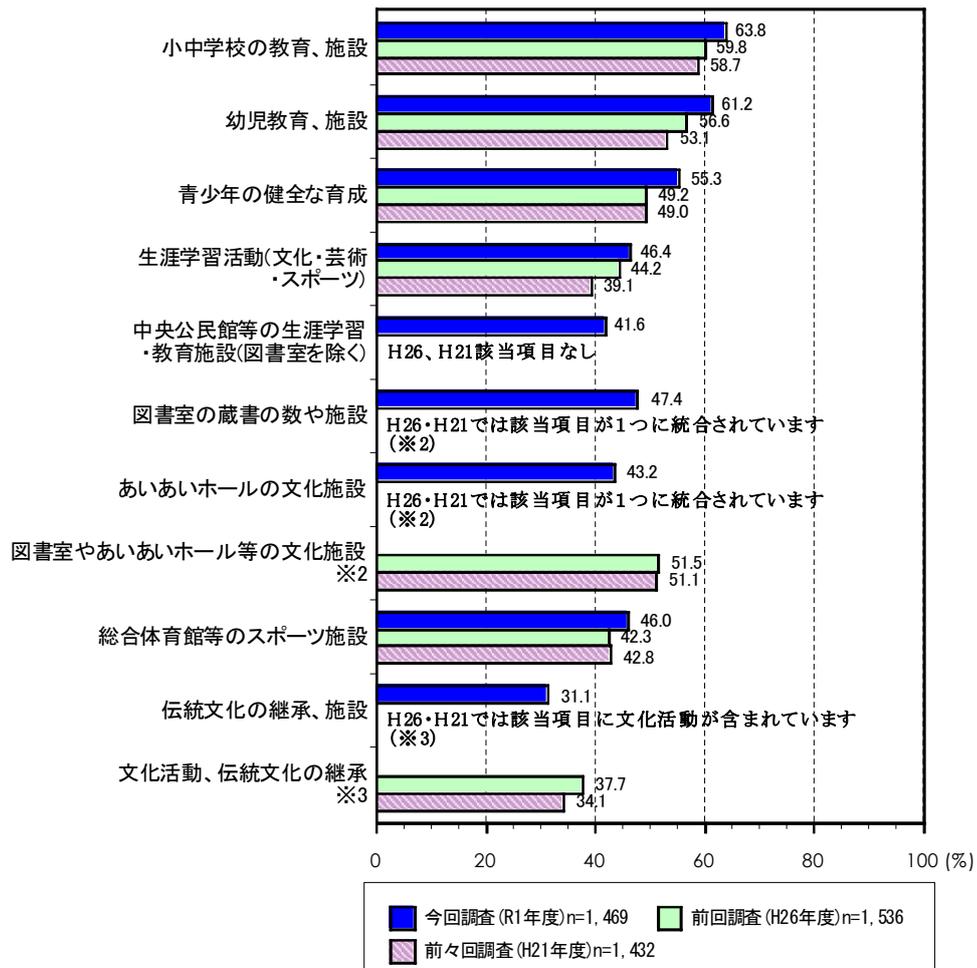


図 3-2-7-2 「教育・文化・スポーツについて」の重要度（前回・前々回調査比較）

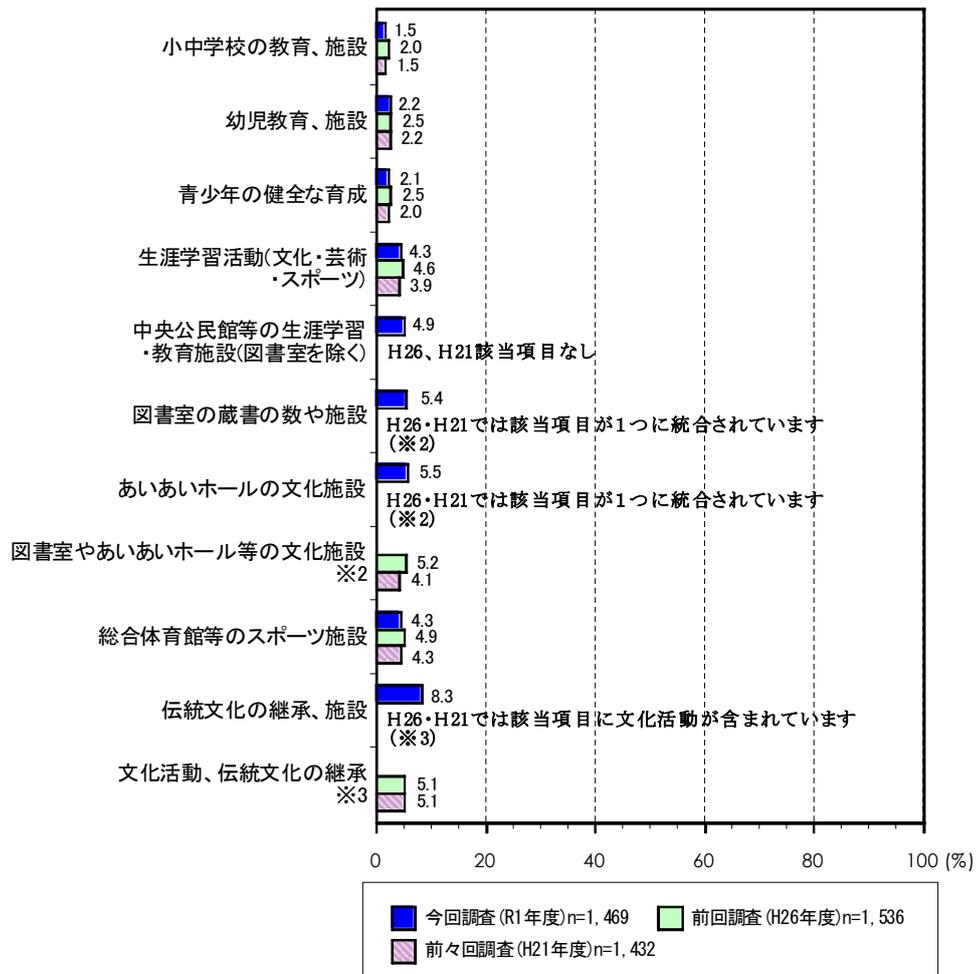


図 3-2-7-3 「教育・文化・スポーツについて」の非重要度（前回・前々回調査比較）

[コミュニティについて]

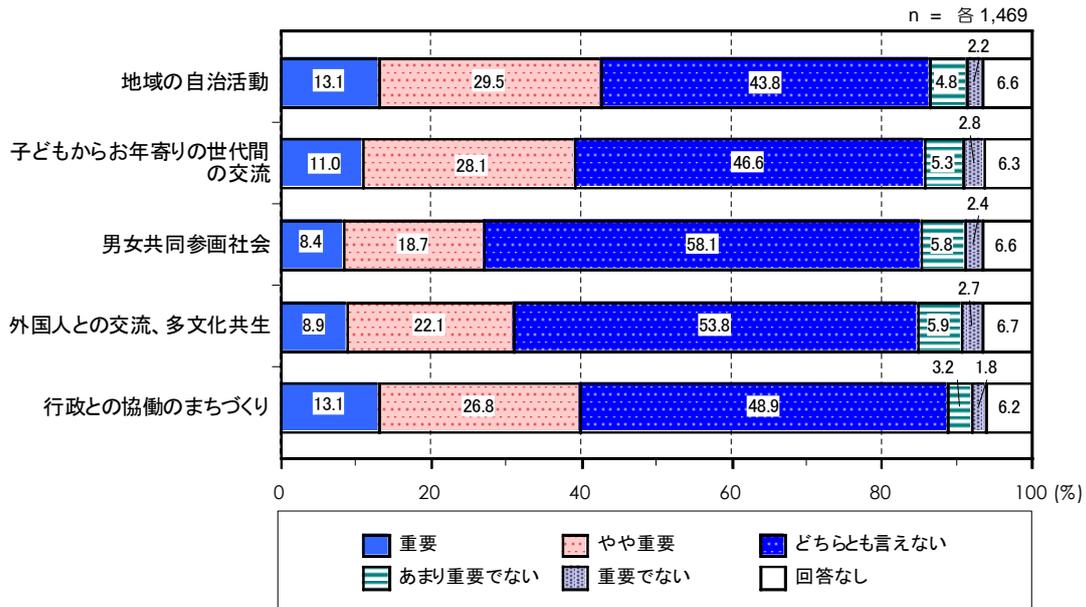


図 3-2-8-1 今後のまちづくりの重要度「コミュニティについて」

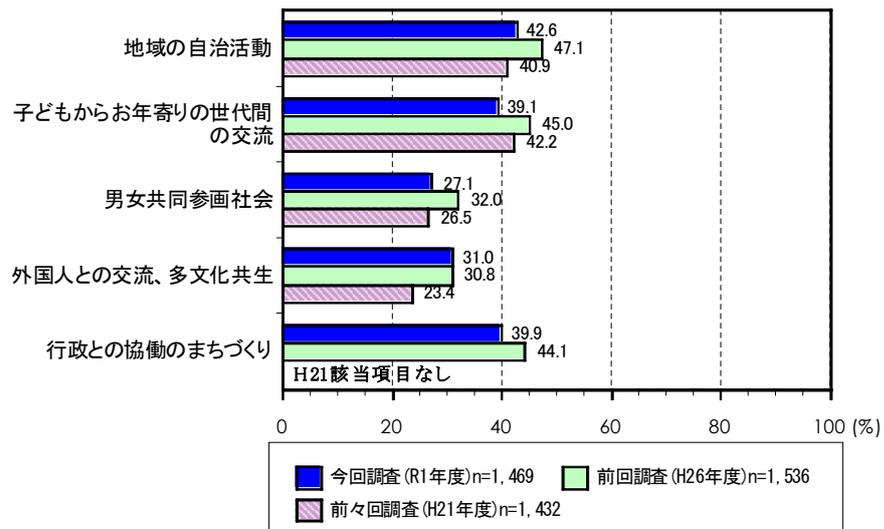


図 3-2-8-2 「コミュニティについて」の重要度（前回・前々回調査比較）

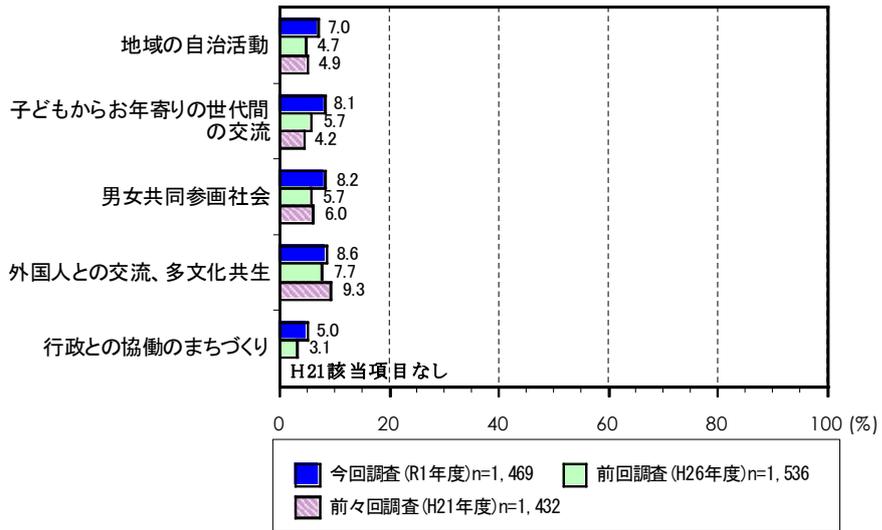


図 3-2-8-3 「コミュニティについて」の非重要度（前回・前々回調査比較）

[行政運営について]

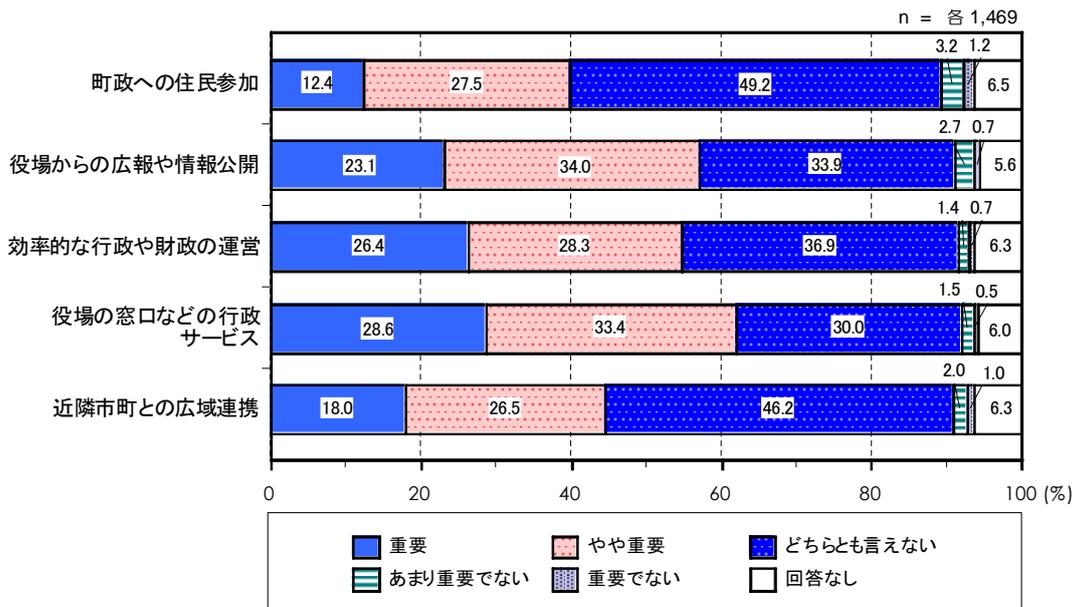


図 3-2-9-1 今後のまちづくりの重要度「行政運営について」

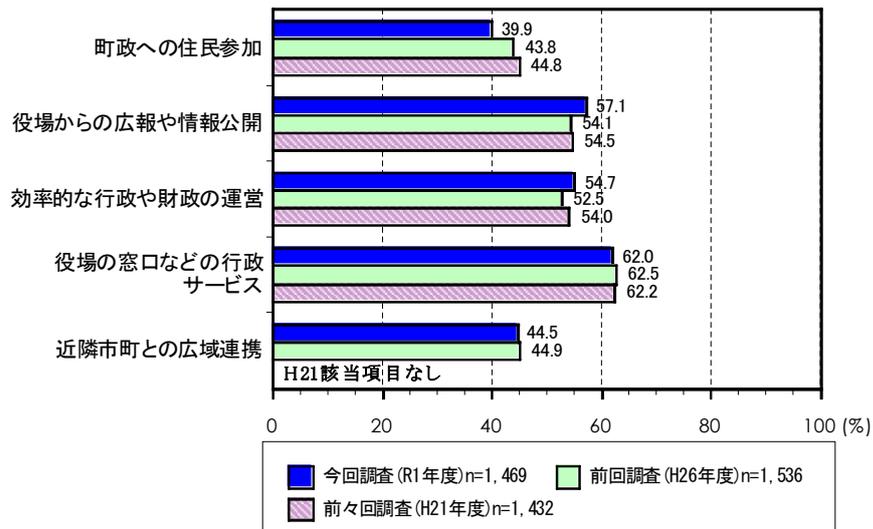


図 3-2-9-2 「行政運営について」の重要度（前回・前々回調査比較）

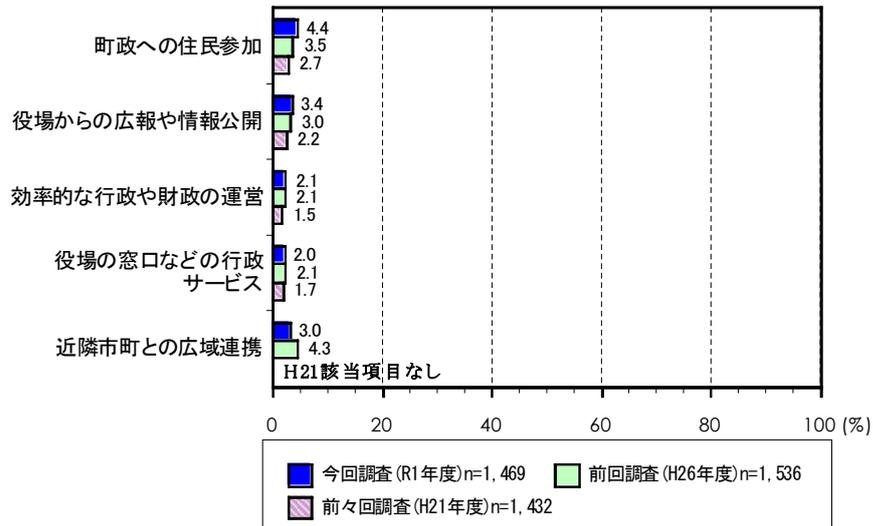


図 3-2-9-3 「行政運営について」の非重要度（前回・前々回調査比較）

- 5段階評価の平均点では、57項目全てがプラスの評点となっています。
- 最も評点が高いのは「津波対策」と「水害対策」がそれぞれ1.60点で、次いで「地震対策」(1.54点)、「交通安全対策」(1.35点)、「防犯対策」(1.32点)、「救急対策」(1.31点)、「消防・防火対策」(1.30点)、「安心・安全な歩行環境の整備」(1.26点)となっており、安心・安全に関わる項目の重要度が高くなっています。
- 一方、最も評点が高いのは「農漁業の振興対策」(0.22点)で、次いで「男女共同参画社会」(0.27点)「外国人との交流、多文化共生」(0.31点)となっています。

表 3-2 今後のまちづくりの重要度（評点）

※「重要」を+2点、「やや重要」を+1点、「どちらとも言えない」を0点、「あまり重要でない」を-1点、「重要でない」を-2点の5段階評価で得点を付け、57項目ごとに重要度の平均の評点を算出しました。

		重要度		
		n	評点	
市街地整備 土地利用	1	良好な住宅地の整備	1,369	0.68
	2	密集市街地の改善	1,360	0.47
	3	みえ川越インターチェンジ周辺の整備	1,377	0.44
道路・公共交通	4	国道などの幹線道路の整備	1,369	0.92
	5	町道などの身近な生活道路の整備	1,388	1.15
	6	安心・安全な歩行環境の整備	1,377	1.26
	7	鉄道や駅の利便性	1,387	1.02
	8	ふれあいバス(コミュニティバス)の利便性	1,390	0.58
産業	9	農漁業の振興対策	1,375	0.22
	10	工業の振興・企業誘致	1,377	0.43
	11	商業・商店(小売・飲食)の振興対策	1,385	0.64
	12	就業の場、就業の機会	1,372	0.64
生活環境	13	公園・緑地の整備	1,380	0.77
	14	魅力的な景観づくり	1,371	0.51
	15	河川・海岸などの水辺環境の整備・保全	1,385	1.24
	16	上水道の整備(安定した水の供給)	1,389	1.23
	17	公共下水道(雨水排水も含む)の整備	1,387	1.24
	18	公害の防止対策	1,392	1.09
	19	ごみの収集、減量化、リサイクル活動	1,400	1.23
	20	不法投棄の防止	1,391	1.16
	21	太陽光発電等の自然エネルギーの促進	1,377	0.41
	22	詐欺等への消費者相談・対応	1,374	0.72
防災・交通安全 防犯・消防等	23	水害対策	1,395	1.60
	24	地震対策	1,387	1.54
	25	津波対策	1,388	1.60
	26	交通安全対策	1,385	1.35
	27	防犯対策	1,386	1.32
	28	消防・防火対策	1,382	1.30
	29	救急対策	1,387	1.31
保健・福祉・医療	30	健康づくり・疾病予防対策	1,377	1.01
	31	地域医療・救急医療	1,375	1.13
	32	住民同士の助け合いによる地域福祉活動	1,373	0.76
	33	多様な保育サービス等の子育て支援	1,361	0.95
	34	児童館など、子どもの居場所づくり	1,366	0.99
	35	介護サービスなど、高齢者の福祉施策	1,380	1.06
	36	障がい者への福祉施策	1,378	0.94
	37	ひとり親家庭への支援施策	1,371	0.80

		重要度		
		n	評点	
	38	低所得者等への社会保障	1,374	0.72
教育・文化・スポーツ	39	小中学校の教育、施設	1,364	1.05
	40	幼児教育、施設	1,367	0.99
	41	青少年の健全な育成	1,367	0.86
	42	生涯学習活動(文化・芸術・スポーツ)	1,367	0.63
	43	中央公民館等の生涯学習・教育施設(図書室を除く)	1,367	0.54
	44	図書室の蔵書の数や施設	1,372	0.65
	45	あいあいホールの文化施設	1,376	0.54
	46	総合体育館等のスポーツ施設	1,369	0.61
	47	伝統文化の継承、施設	1,328	0.34
コミュニティ	48	地域の自治活動	1,372	0.50
	49	子どもからお年寄りの世代間の交流	1,377	0.42
	50	男女共同参画社会	1,372	0.27
	51	外国人との交流、多文化共生	1,371	0.31
	52	行政との協働のまちづくり	1,378	0.49
	53	町政への住民参加	1,374	0.50
行政運営	54	役場からの広報や情報公開	1,387	0.81
	55	効率的な行政や財政の運営	1,376	0.84
	56	役場の窓口などの行政サービス	1,381	0.94
	57	近隣市町との広域連携	1,377	0.62

### (3) 満足度と重要度の関係

◆「津波対策」をはじめ、「水害対策」、「地震対策」、「交通安全対策」、「防犯対策」、「歩行環境整備」、「水辺環境の整備・保全」、「不法投棄対策」などが重点改善項目となっています。

- 【重点改善項目】としては、「津波対策」、「水害対策」、「地震対策」、「交通安全対策」、「防犯対策」、「歩行環境整備」、「水辺環境の整備・保全」、「不法投棄対策」などがあげられ、安心・安全なまちづくりについて重点的に改善していくことが求められています。
- 【重点維持項目】としては、「上水道整備」、「公共下水道整備」、「救急対策」、「消防・防火対策」、「ごみの収集、減量化、リサイクル活動」、「地域医療・救急医療」、「公害防止対策」、「高齢者の福祉」などがあげられ、生活環境、救急や医療、消防などについては引き続き維持・充実していくことが求められます。
- 【推移注目項目】としては、「就業の場、機会」、「商業・商店の振興対策」、「農漁業の振興対策」、「外国人交流・多文化共生」、「景観づくり」、「ふれあいバスの利便性」などがあげられ、これらは重点課題ではないが、満足度が高まるように今後も推移を見守る項目として考えられます。
- 【維持項目】としては、「あいあいホールの文化施設」、「スポーツ施設」、「生涯学習活動」、「住宅地整備」、「みえ川越 I C 周辺整備」、「公園・緑地整備」、「広報、情報公開」などがあげられ、これらは満足度が高く、今後の重要度は低いため、当面は現状の水準を維持する項目として考えられます。

※満足度と重要度の関係を把握するため、57 項目全体の評点の平均値（満足度：0.15 点、重要度：0.85 点）をもとに、全 57 項目を【重点改善項目】、【重点維持項目】、【推移注目項目】、【維持項目】の4区分で分類しました。

A ランク：【重点改善項目】（満足度が低く、重要度が高い）

～最優先で改善が求められるもの～

B ランク：【重点維持項目】（満足度が高く、重要度も高い）

～おおむね満足が得られているが、引き続き維持・充実していることが求められるもの～

C ランク：【推移注目項目】（満足度が低く、重要度も低い）

～重要課題ではないが、今後の推移を注目していくことが求められるもの～

D ランク：【維持項目】（満足度が高く、重要度が低い）

～このままの状態を保つことが求められるもの～



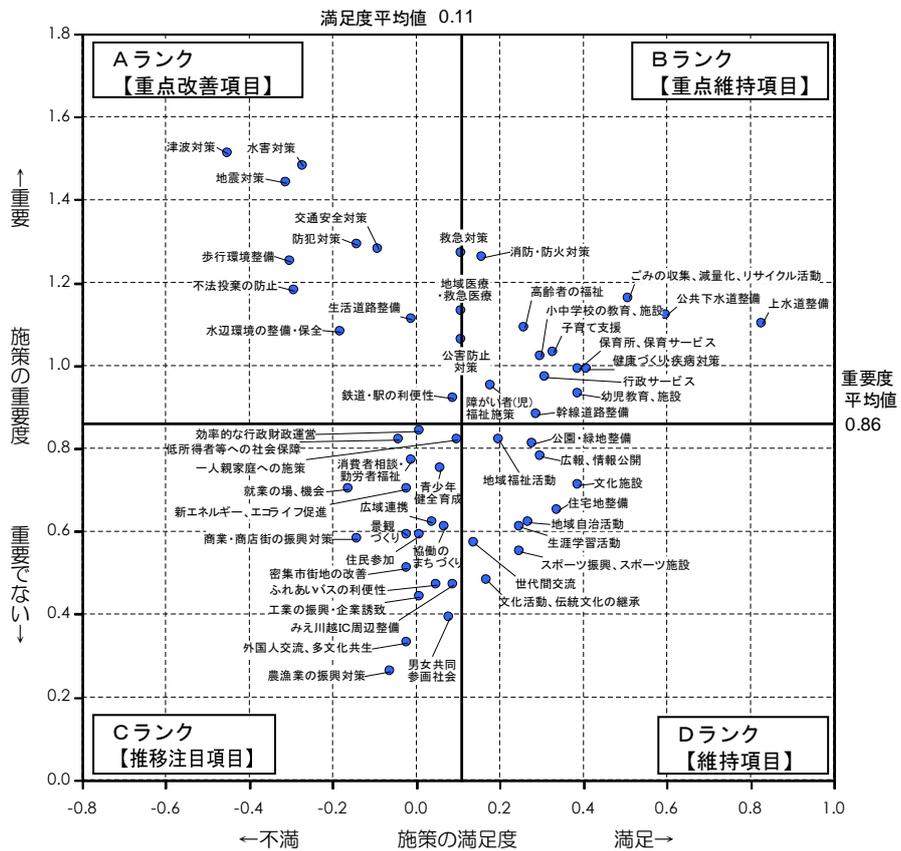


図 3-3-2 前回調査の満足度と重要度の関係散布図（参考）

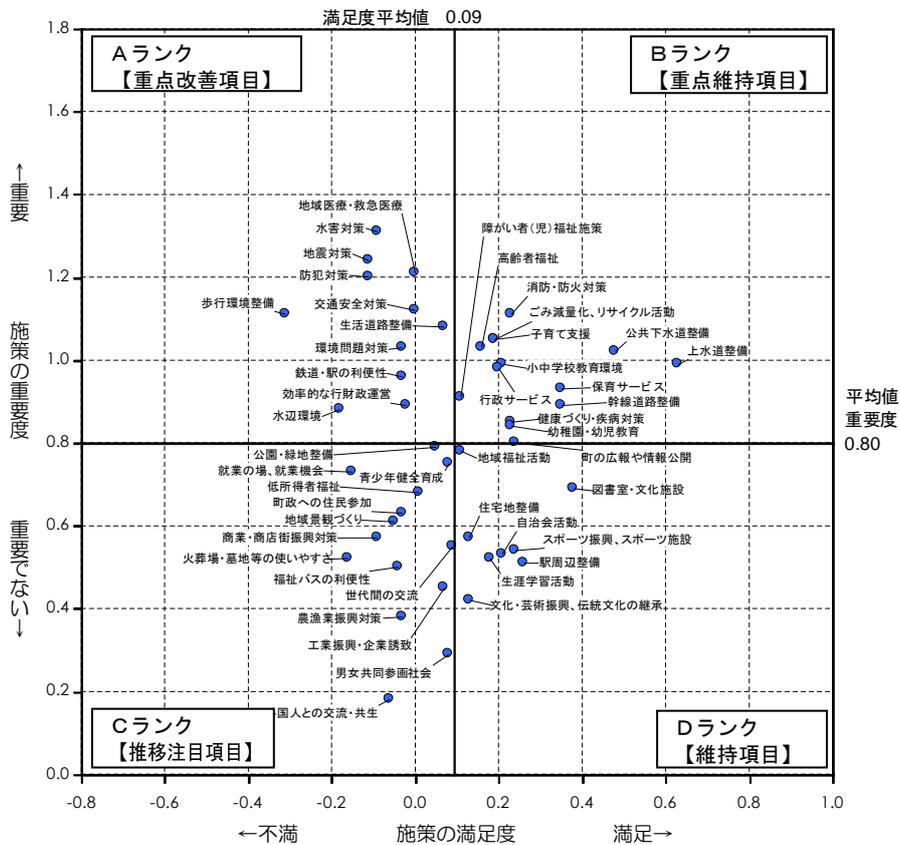


図 3-3-3 前々回調査の満足度と重要度の関係散布図（参考）

## 第4章

## 川越町の将来のまちづくり

(1) まちの将来イメージ

【2つまでの複数回答】

問8 あなたは、川越町が今後、どのようなイメージのまちをめざすべきだと思いますか。

### ◆災害に強いまちや、人にやさしいまちを、将来のまちのイメージとして望んでいます。

○川越町が今後めざすべきまちのイメージとしては、「水害や地震などの災害に強いまち」が59.3%で最も割合が高くなっています。次いで「子ども、高齢者、障がい者など誰もが暮らしやすい、人にやさしいまち」(54.7%)、「犯罪のない安心・安全なまち」(28.7%)、「健康でいきいきと暮らせるまち」(15.1%)、「自然を大切に、自然の魅力を感じられる、環境にやさしいまち」(13.5%)と続いており、災害に強いまちや、人にやさしいまちを半数以上の人が望んでいます。

○前回調査と比較して、近年、全国各地で地震や台風などが頻繁に発生していることなどが影響して、「水害や地震などの災害に強いまち」が13.7ポイント上昇しています。

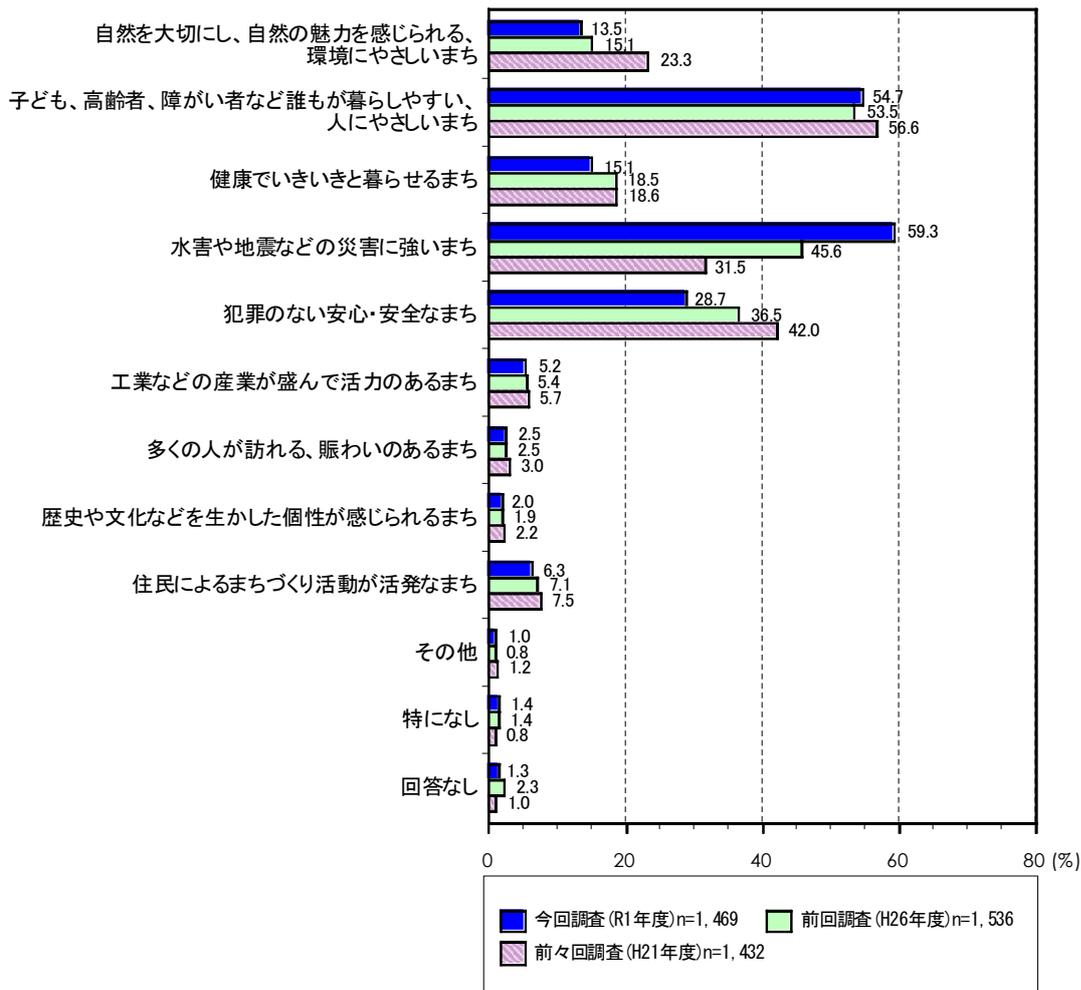


図 4-1 まちの将来イメージ (前回・前々回調査比較)

問9 あなたは、「川越町に住みたい、住み続けたいと思うまち」となるためには、行政等がどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。

◆医療や福祉の充実、防犯・防災対策、道路・交通機関の充実を望んでいます。

○定住促進に向けて力を入れることとしては、「医療や福祉面が充実していること」が58.9%で最も割合が高くなっています。次いで「防犯・防災などの対策が充実していること」(44.0%)、「鉄道、バス、道路などの交通機関が充実していること」(35.4%)、「公害やごみが少なく、きれいであること」(22.5%)、「子育て施設やサービスが充実していること」(21.4%)、「商業施設が多くあり、買い物がしやすいこと」(20.6%)と続いており、医療や福祉の充実、防犯・防災対策、道路・交通機関の充実などを多くの人が望んでいます。

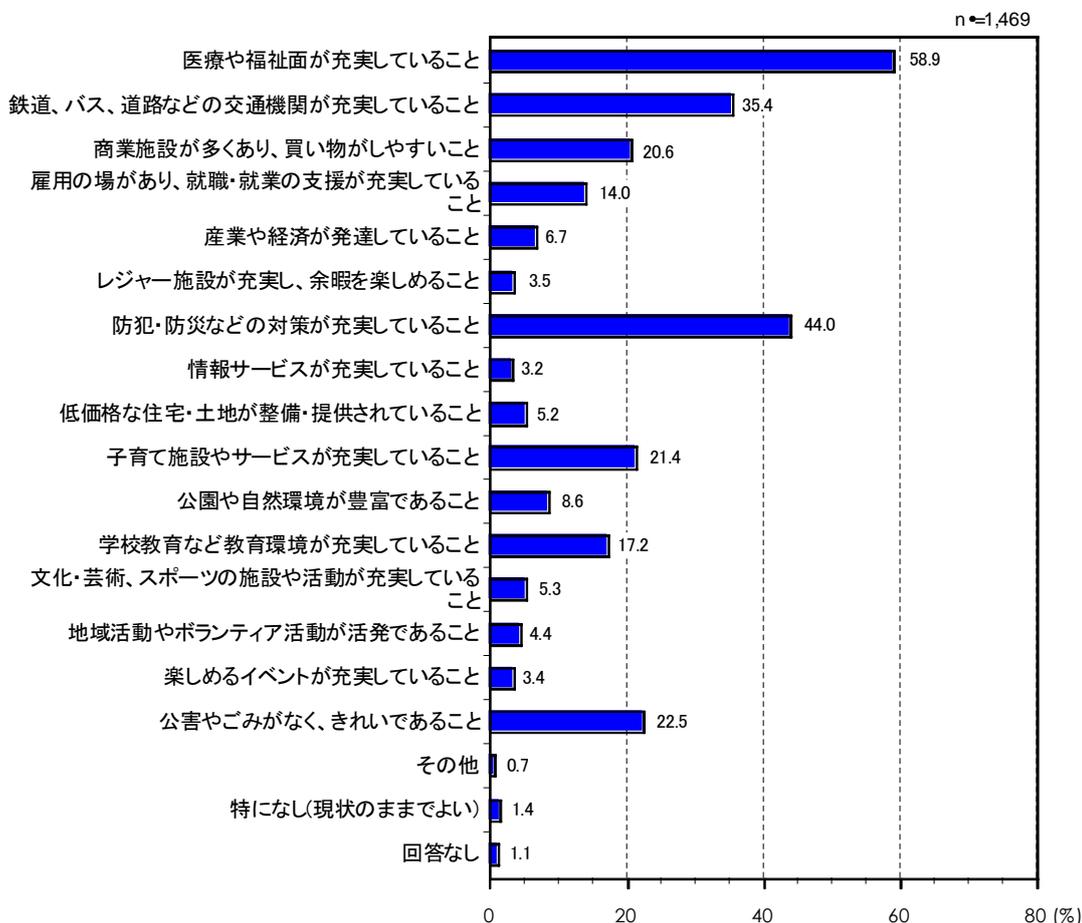


図 4-2 定住促進策

問 10 あなたは、川越町の産業振興に向けて、どのようなことが必要だと思いますか。

◆産業振興に向けては、空き店舗等での新たな起業を支援すること、既存工業・企業の振興を図ること、既存商店の存続・魅力化、農業振興や優良農地の保全などが望まれています。

○川越町の産業振興に向けて必要なこととしては、「空き家・空き店舗で商売を始めるなど、新たに起業する人を支援する」が37.2%で最も割合が高くなっています。次いで「既存の工場・企業等の安定化や高度化を図る」(30.2%)、「既存の商店の存続や魅力化を図る」(27.5%)、「農業後継者の育成や農業生産性の向上、優良農地の保全を図る」(24.1%)、「大型商業施設や新しい店舗を誘致する」(23.3%)と続いており、空き店舗等での起業支援、既存工業・企業の振興、既存商店の存続・魅力化、農業振興や優良農地の保全、大型商業施設の誘致などが望まれています。

○なお、前回調査と比較して、「空き家・空き店舗で商売を始めるなど、新たに起業する人を支援する」が6.9ポイント上昇しています。

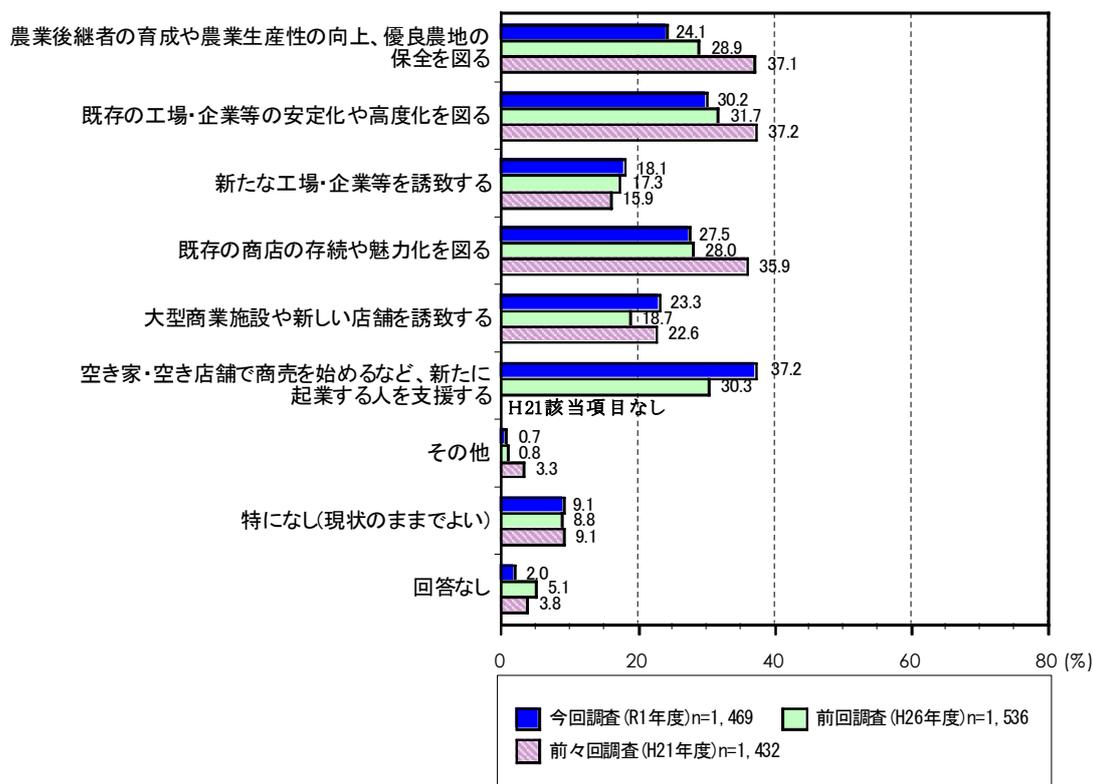


図 4-3 産業振興（前回・前々回調査比較）

問 11 川越町内の事業所等で就職しやすいようにするためには、行政がどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。

◆就業対策に向けては、企業誘致や就労環境の改善の働きかけ、スキルアップ研修等への支援、就職や企業の情報提供、就職相談窓口などが望まれています。

○就業対策としては、「企業を誘致し雇用の場の創出を図る」が36.1%で最も割合が高くなっています。次いで「賃金等の労働条件がもっと良くなるように町内の事業所等に働きかける」(33.0%)、「技術や能力を向上するためのスキルアップ(資格習得等)の研修等を支援する」(27.8%)、「就職等に関する情報をより多く提供する(インターネットや冊子などで)」(27.5%)、「就職に関する相談を気軽にできる専門の相談員や相談窓口を充実させる」(27.1%)、「合同企業説明会の実施など、町内の事業所等と接する機会、知る機会を増やす」(21.9%)と続いており、企業誘致や就労環境の改善の働きかけ、スキルアップ研修等への支援、就職や企業の情報提供、就職相談窓口の充実などが望まれています。

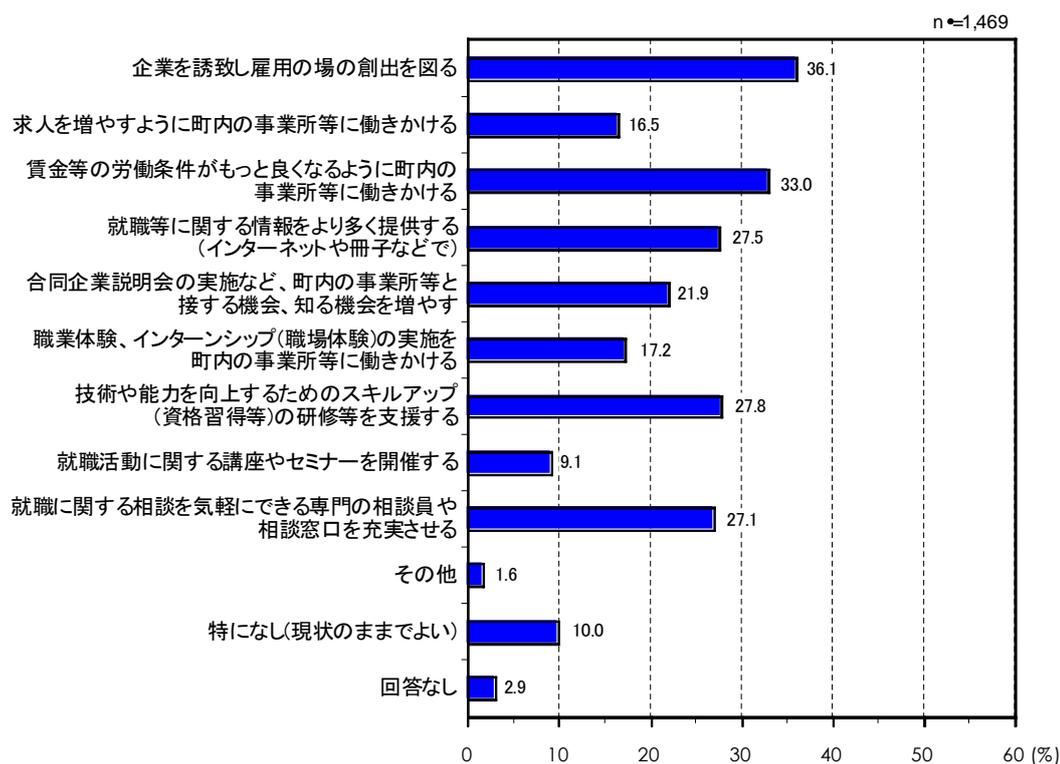


図 4-4 就業対策

問 12 あなたは、南海トラフ巨大地震や集中豪雨などの大地震や水害に備えて、川越町ではどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。

◆大地震や水害に備えて、津波対策をはじめ、備蓄品の確保、避難路・避難場所の整備などに力を入れることが望まれています。

- 大地震や水害などに備えて力を入れるべきものとして、「防潮堤、防波堤、津波避難タワーの整備などの津波対策」が 54.7%で最も割合が高くなっています。次いで「食料、飲料水、医薬品などの備蓄品の確保」(30.3%)、「避難路や避難場所の整備」(25.2%)と続いており、津波対策をはじめ、備蓄品の確保、避難路や避難場所の整備などが望まれています。
- 前回調査と比較して、「防潮堤、防波堤、津波避難タワーの整備などの津波対策」が 5.5 ポイント上昇しています。

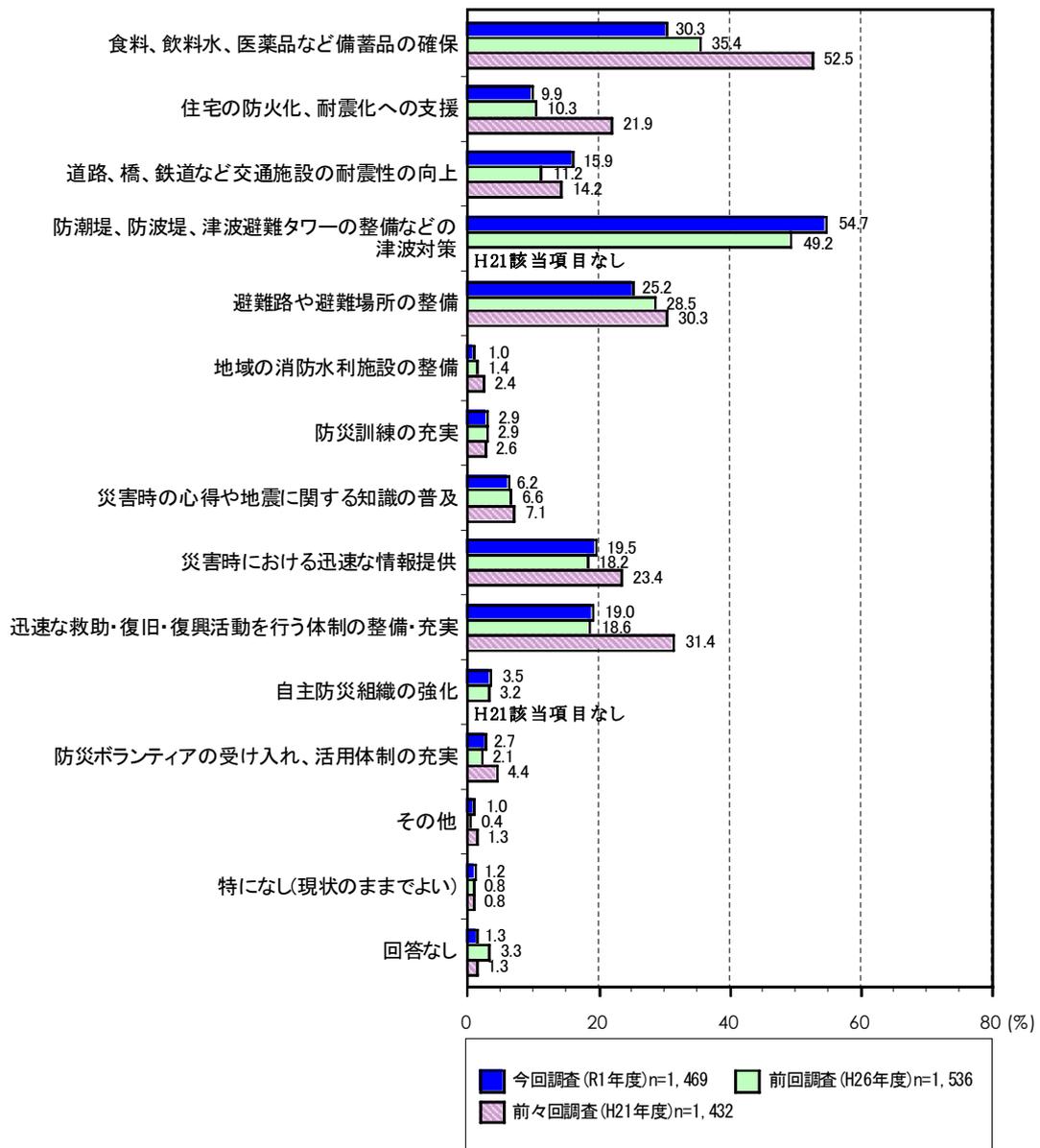


図 4-5 災害対策（前回・前々回調査比較）

問 13 あなたは、川越町の環境対策として、どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。

◆環境対策として、公害防止対策をはじめ、廃棄物対策、エネルギー対策（地球温暖化対策）、緑地の創出などに力を入れることが望まれています。

○力を入れるべき環境対策としては、「騒音・振動・悪臭・大気汚染・水質汚濁などの公害防止対策の推進」が39.2%で最も割合が高くなっています。次いで「ごみの減量化やリサイクルなど廃棄物対策の推進」(37.9%)、「太陽光や風力などの自然エネルギーの導入や省エネルギーの促進」(26.5%)、「公園緑地の整備や緑化による緑の創出」(19.0%)などと続いており、公害防止対策をはじめ、廃棄物対策、エネルギー対策（地球温暖化対策）、緑地の創出などに力を入れることが望まれています。

○前回調査と比較して、「ごみの減量化やリサイクルなど廃棄物対策の推進」が8.7ポイント上昇しています。なお、生物多様性対策、自然エネルギーや省エネルギー対策、公害防止対策についてはポイントが低下しています。

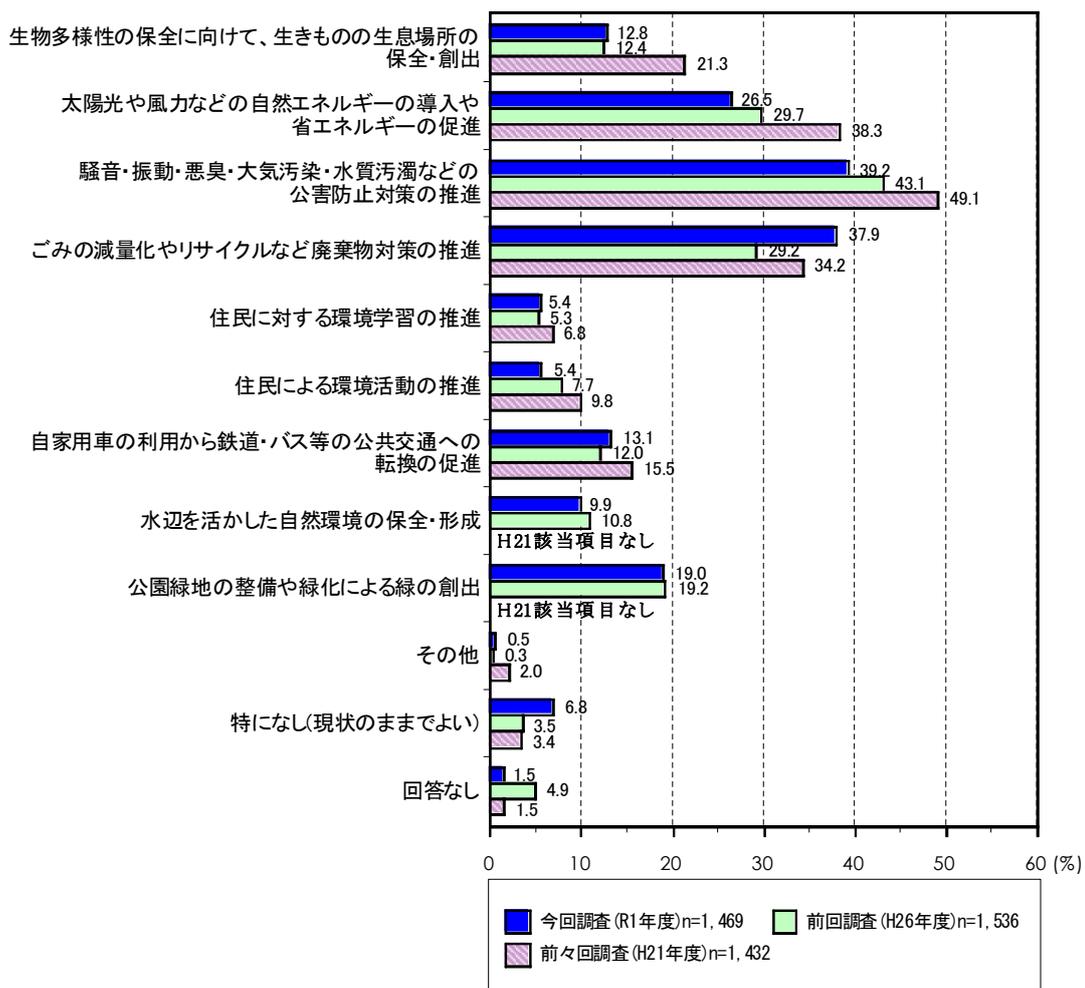


図 4-6 環境対策（前回・前々回調査比較）

問 14 あなたは、川越町の子ども・子育て施策に対して、行政等がどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。

- ◆子ども・子育て施策として、医療体制、子育てと仕事を両立できる職場環境、保育所・幼稚園での多様なサービス提供、子育て等に係る経済的な支援の充実、子育て相談の場などに力を入れることが望まれています。

○力を入れるべき子ども・子育て施策としては、「安心して妊娠、出産、子育てができる医療体制」が36.4%で最も割合が高くなっています。次いで「安心して子育てと仕事を両立できる職場環境」(35.3%)、「多様なニーズに応えられる保育所、幼稚園」(35.1%)、「妊娠、出産、子育てに関する公的な経済的支援」(30.5%)、「子育ての不安や悩みを気軽に相談したり、学習できる場」(20.4%)などと続いており、医療体制、子育てと仕事を両立できる職場環境、保育所・幼稚園での多様なサービス提供、子育て等に係る経済的な支援の充実、子育て相談の場などに力を入れることが望まれています。

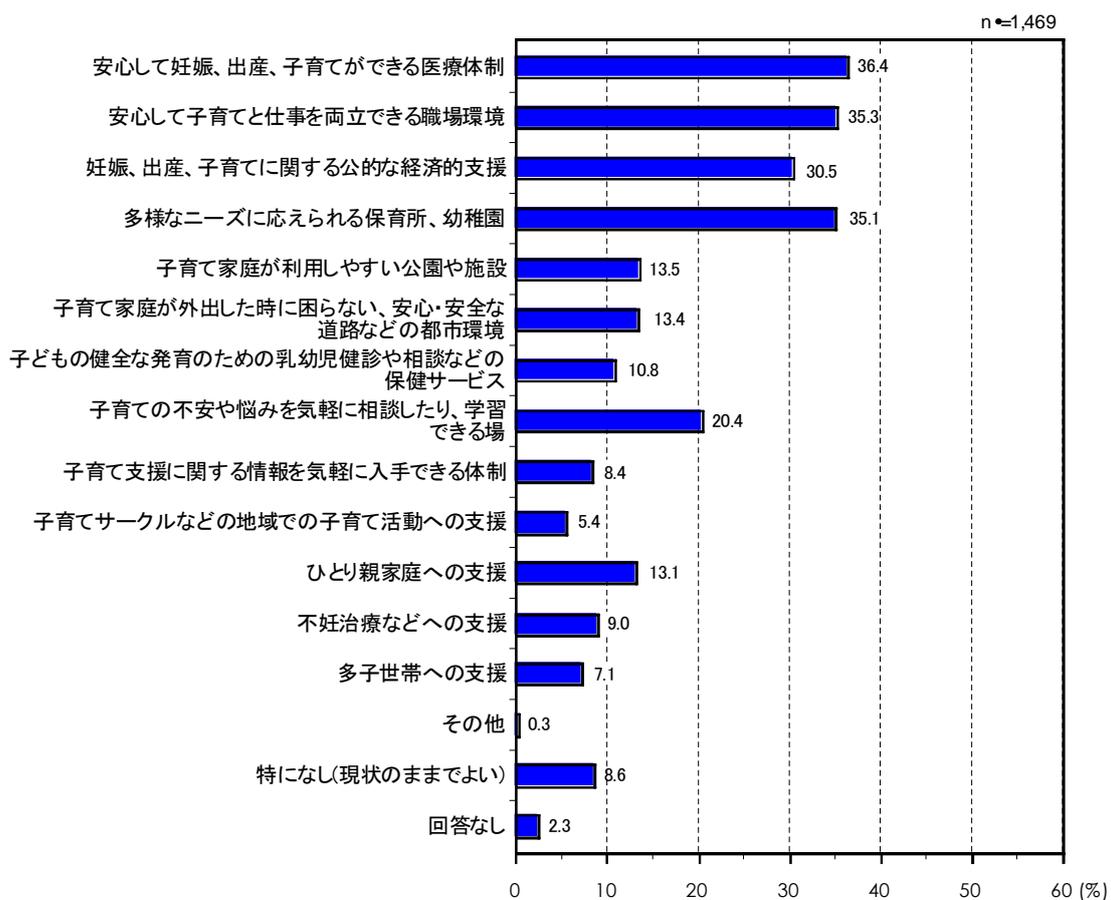


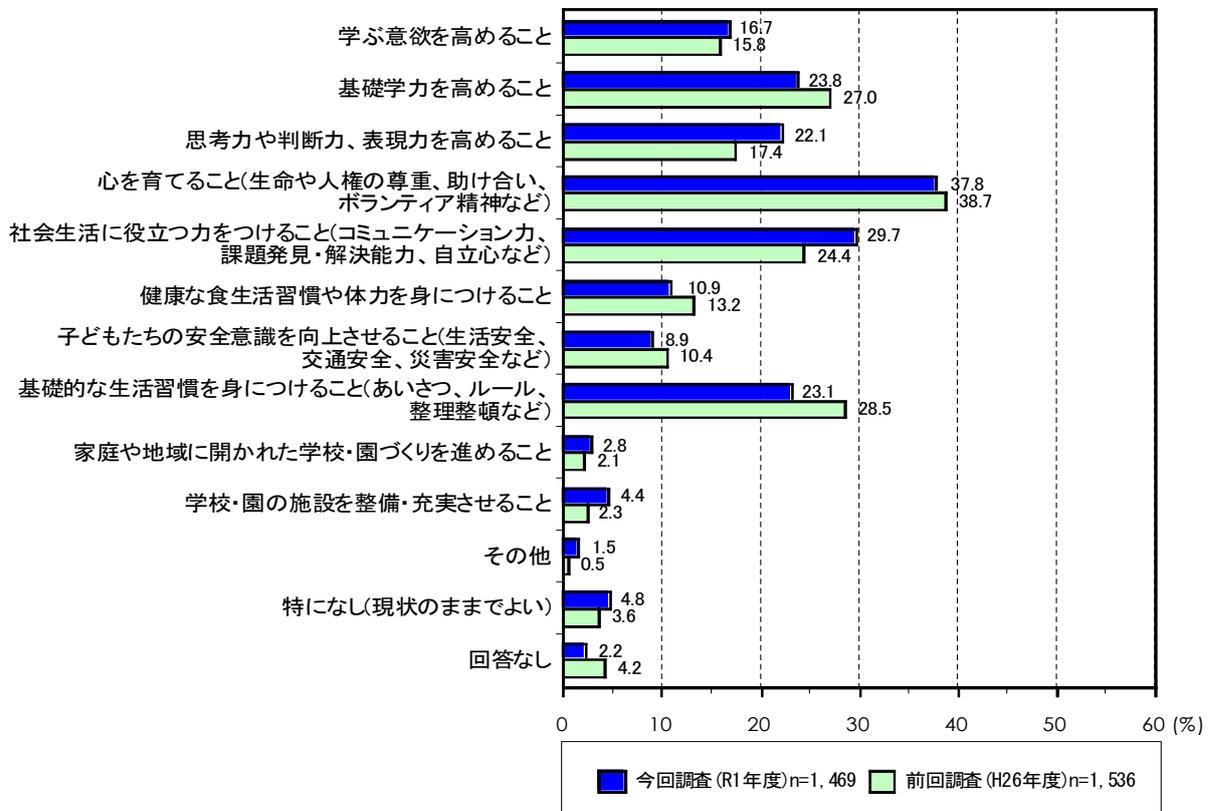
図 4-7 子ども・子育て施策

問 15 あなたは、川越町の学校教育として、どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。

◆学校教育として、助け合いや思いやりなどの豊かな心を育むこと、社会生活に役立つ力を高めること、基礎学力を高めること、あいさつなどの生活習慣を身につけることに力を入れることが望まれています。

○力を入れるべき学校教育としては、「心を育てること（生命や人権の尊重、助け合い、ボランティア精神など）」が 37.8%で最も割合が高くなっています。次いで「社会生活に役立つ力をつけること（コミュニケーション力、課題発見・解決能力、自立心など）」(29.7%)、「基礎学力を高めること」(23.8%)、「基礎的な生活習慣を身につけること（あいさつ、ルール、整理整頓など）」(23.1%)、「思考力や判断力、表現力を高めること」(22.1%)と続いており、助け合いや思いやりなどの豊かな心を育むこと、コミュニケーション力などの社会生活に役立つ力をつけること、基礎学力を高めること、あいさつなどの生活習慣を身につけることなどができる教育に力を入れることが望まれています。

○前回調査と比較して、ポイントが低下している項目が多くなっていますが、「社会生活に役立つ力をつけること（コミュニケーション力、課題発見・解決能力、自立心など）」は 5.3 ポイント上昇し、「思考力や判断力、表現力を高めること」は 4.7 ポイント上昇しています。



※前々回調査(H21)は比較不可(カテゴリ大幅変更のため)

図 4-8 学校教育 (前回調査比較)

問 16 あなたは、川越町の文化・芸術・スポーツ等の活動の振興等に向けて、今後、町内にどのようなことが必要だと思いますか。

◆文化・芸術・スポーツ振興に向けて、多様なスポーツを楽しめる施設があること、多様な生涯学習活動や文化・芸術にふれられる機会があること、図書館の蔵書数を増やすことなどが望まれています。

○文化・芸術・スポーツ振興に向けて必要なこととしては、「多様なスポーツを楽しめる施設があること」が27.8%で最も割合が高くなっています。次いで「趣味を生かした多様な生涯学習活動を楽しめる機会があること」(27.5%)、「多様な文化・芸術にふれられる場があること」(20.8%)、「読みたい本が読めるように図書館の蔵書数を増やすこと」(20.4%)と続いており、多様なスポーツを楽しめる施設があることをはじめ、多様な生涯学習活動や文化・芸術にふれられる機会があること、図書館の蔵書数を増やすことなどが望まれています。

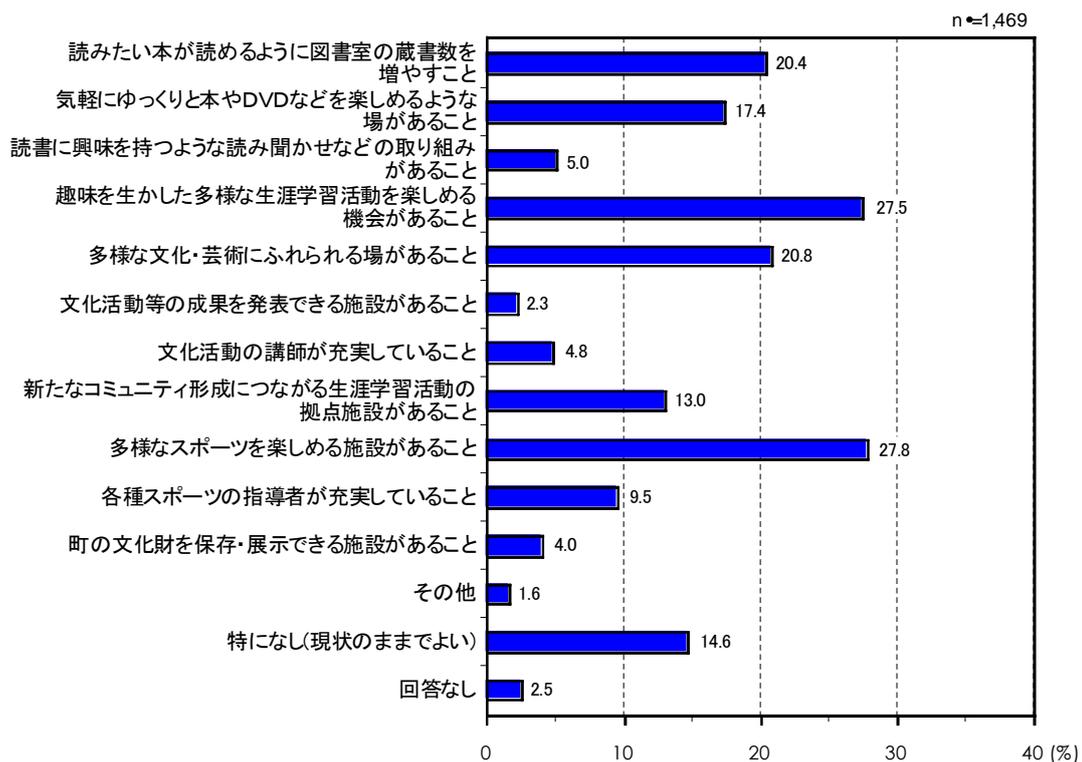


図 4-9 文化・芸術・スポーツ振興

(10) 教育・文化・運動施設の利用状況

問 17 あなたは、町内の教育・文化・運動施設をどの程度利用していますか。

- ◆中央公民館、教育センター、図書館、あいあいホール、総合体育館、屋外運動施設のうち、利用したことがある人が多いのは「あいあいホール」で、次いで「総合体育館」、「屋外運動施設」となっています。
- ◆一方で、利用したことがない人が多いのは「教育センター」、「中央公民館」となっています。

[中央公民館]

○「よく利用している」が 2.6%、「たまに利用している」が 6.3%、「回数は少ないが利用したことがある」が 35.1%、「利用したことはない」が 52.7%となっており、4割程度の方が利用したことがあり、半数の方が利用したことがない結果になっています。

[教育センター]

○「よく利用している」が 0.9%、「たまに利用している」が 3.5%、「回数は少ないが利用したことがある」が 16.1%、「利用したことはない」が 74.5%となっており、2割程度の方が利用したことがあり、7割程度の方が利用したことがない結果になっています。

[図書室]

○「よく利用している」が 8.5%、「たまに利用している」が 14.4%、「回数は少ないが利用したことがある」が 32.7%、「利用したことはない」が 41.2%となっており、半数の方が利用したことがあり、4割程度の方が利用したことがない結果になっています。

[あいあいホール]

○「よく利用している」が 3.0%、「たまに利用している」が 17.3%、「回数は少ないが利用したことがある」が 50.8%、「利用したことはない」が 26.0%となっており、7割程度の方が利用したことがあり、2割程度の方が利用したことがない結果になっています。

[総合体育館]

○「よく利用している」が 3.7%、「たまに利用している」が 10.6%、「回数は少ないが利用したことがある」が 44.2%、「利用したことはない」が 38.5%となっており、6割程度の方が利用したことがあり、4割程度の方が利用したことがない結果になっています。

[屋外運動施設]

○「よく利用している」が 2.8%、「たまに利用している」が 8.8%、「回数は少ないが利用したことがある」が 43.6%、「利用したことはない」が 41.7%となっており、6割程度の方が利用したことがあり、4割程度の方が利用したことがない結果になっています。

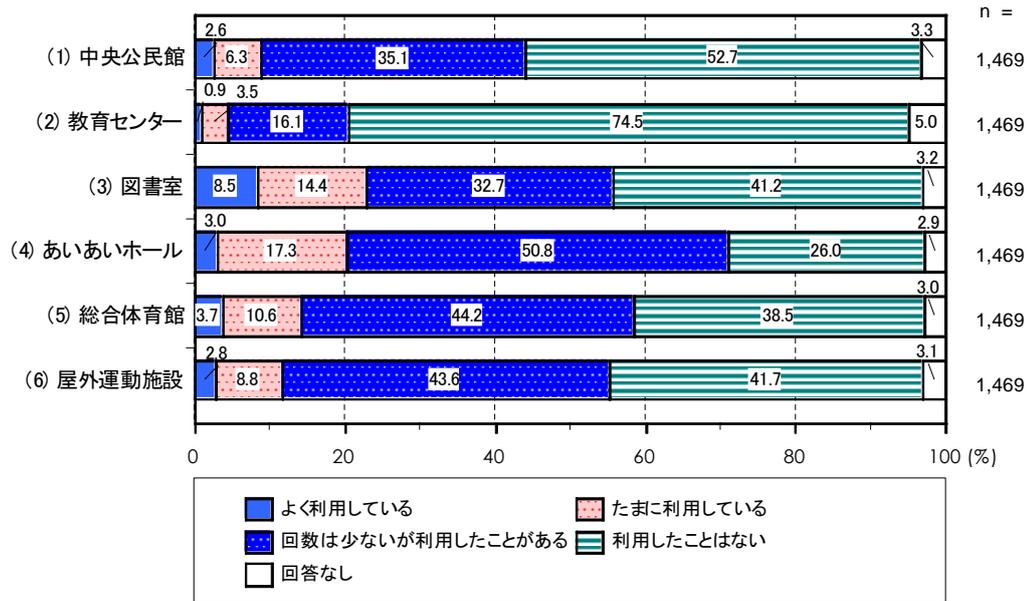


図 4-10 教育・文化・運動施設の利用状況

問 18 あなたは、町内の教育・文化・運動施設について、不満や改善してほしいと思うことはありますか。

◆図書室の蔵書数を増やすこと、図書室や中央公民館の設備・施設を改善すること、施設の予約方法を改善することなどが望まれています。

○町内の教育・文化・運動施設についての不満や改善してほしいこととしては、「利用したことがないため、わからない」が 29.6%で最も割合が高く、次いで「特に不満を感じたことはない」が 20.8%となっています。

○具体的な不満や改善してほしいこととしては、「図書室の蔵書の数が少ない」と「図書室の設備・施設が使いにくい（読書・学習スペースが狭い、インターネットコーナーがないなど）」がそれぞれ 15.9%で最も割合が高くなっています。次いで「施設の予約が不便である（電話・インターネットでの予約ができない）」（12.8%）、「中央公民館の設備・施設が使いにくい（エレベーターがない、洋式トイレが少ないなど）」（9.1%）と続いており、図書室の蔵書数を増やすこと、図書室や中央公民館の設備・施設を改善すること、施設の予約方法を改善することなどが望まれています。

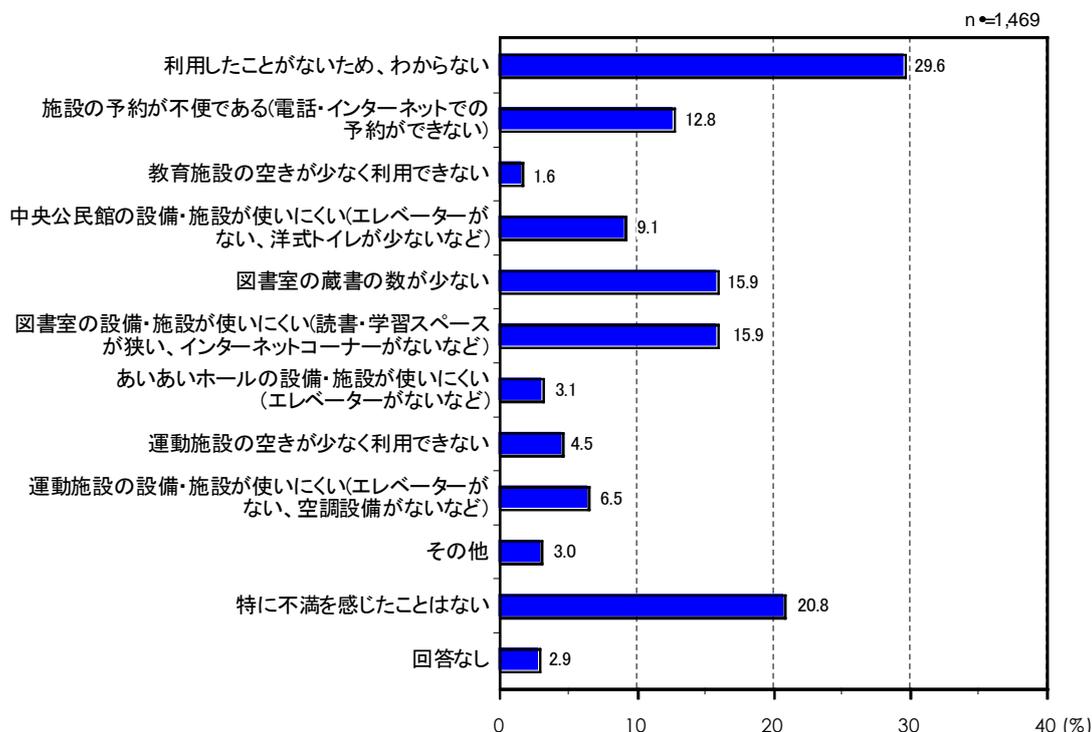


図 4-11 教育・文化・運動施設の不満や改善

問 19 あなたは、川越町の高齢者・障がい者に対する施策について、どのようなことが必要だと思いますか。

◆高齢者・障がい者施策として、介護・福祉サービスを充実すること、医療や福祉サービスへの経済的な負担を軽減すること、働く機会を拡大すること、安心して外出できる環境づくりを行うことなどが望まれています。

○高齢者・障がい者施策として、「入所施設やデイサービスなどの介護・福祉サービスを充実する」と「医療や福祉サービスなどに対する経済的な負担を軽減する」が34.4%で最も割合が高くなっています。次いで「高齢者・障がい者が働くことができる機会を拡大する」(23.1%)、「歩道の整備や道路の段差解消など、安心して外出できる環境づくりを進める」(19.1%)、「高齢者・障がい者が自宅で住み続けられるような住宅改修等を支援する」(17.0%)と続いており、介護・福祉サービスを充実すること、医療や福祉サービスへの経済的な負担を軽減すること、働く機会を拡大すること、安心して外出できる環境づくりを行うことなどが望まれています。

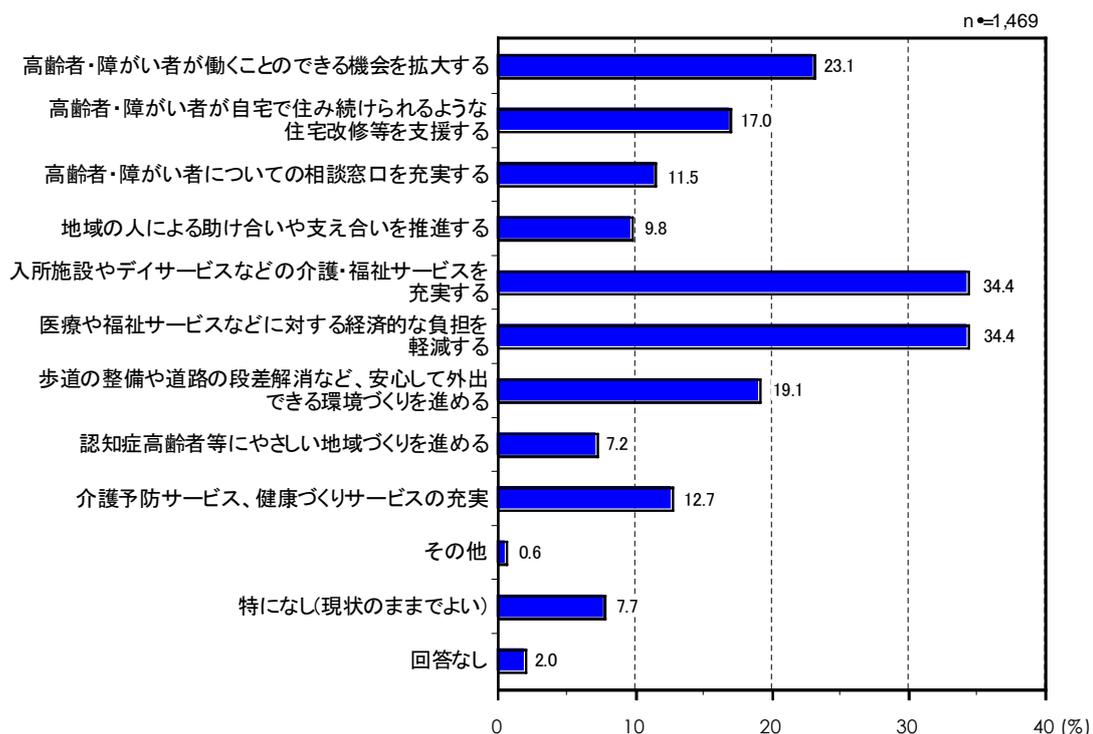


図 4-12 高齢者・障がい者施策

(1) 地域を良くしていくための活動への参加状況

【あてはまるものすべての複数回答】

問 20 あなたは、地域を良くしていくために、現在、どのような活動に参加していますか。

◆現在行っている地域を良くするための活動としては「参加していない」が6割近くを占めています。参加状況については、地区の自治会活動が3割程度、防災や環境、教育・文化、福祉の活動がそれぞれ1割未満となっています。

○地域を良くしていくために、現在活動していることについては、「参加していない」が57.3%で最も割合が高くなっています。

○参加している活動としては、「自治会や老人クラブ、女性会、子ども会などの活動」が27.9%で最も割合が高く、次いで「防災に関わる活動」(6.9%)、「環境(自然保全、ごみ対策など)に関わる活動」(6.4%)、「教育・文化に関わる活動」(6.3%)、「福祉(介護、医療)に関わる活動」(5.2%)などとなっており、自治会活動をはじめ、防災、環境、教育・文化、福祉などの活動に参加しています。

○前回調査と比較して、「参加していない」が6.7ポイント上昇し、地域の活動に参加していない割合が高くなっているため、全体の活動を通じて参加割合が低下しています。

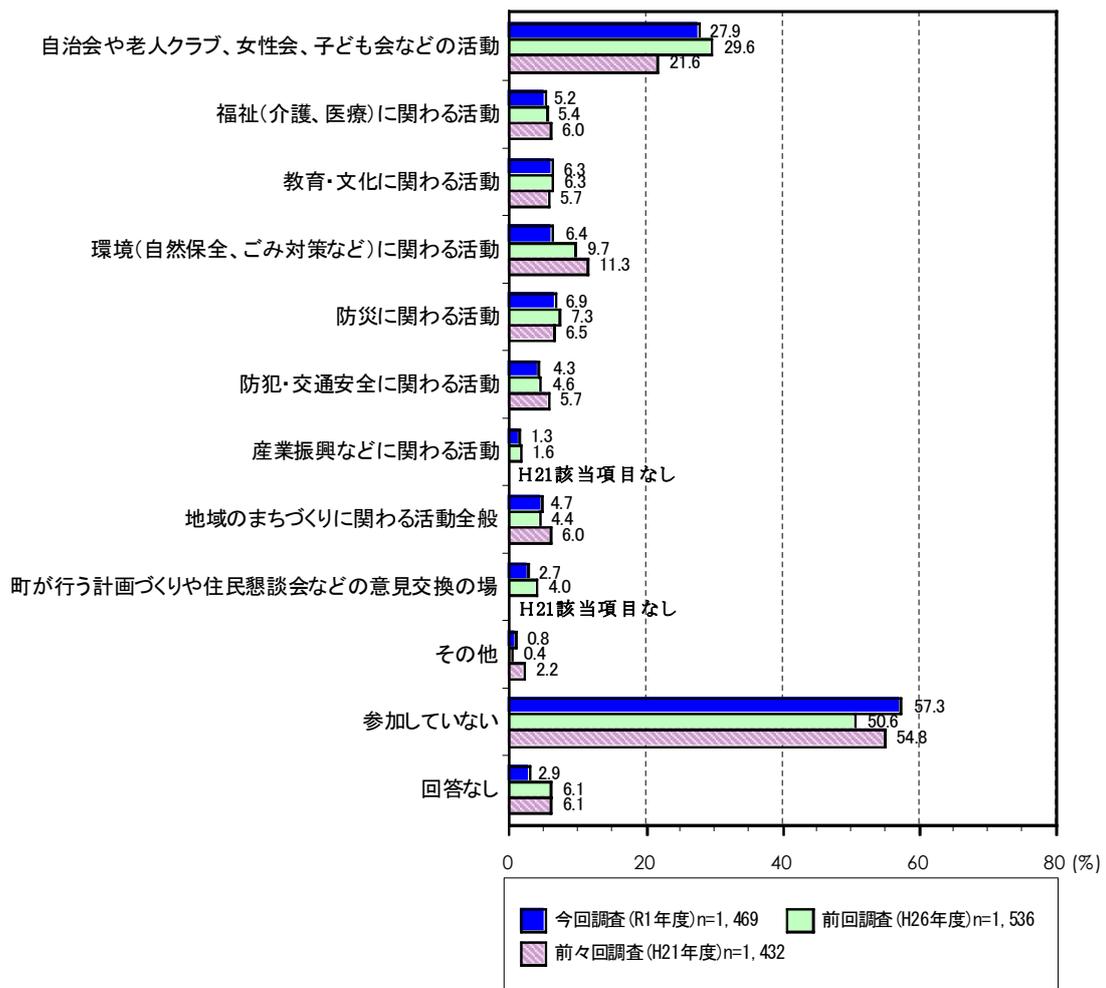


図 5-1 地域を良くしていくための活動への参加状況（前回・前々回調査比較）

(2) 地域を良くしていく活動への今後の参加意向

【あてはまるものすべての複数回答】

問 21 あなたは、地域を良くしていくために、今後どのような活動であれば参加したいと思いますか。

◆今後の地域活動への参加については、自治会活動をはじめ、防災、教育・文化、環境、福祉、防犯・交通安全などへの意向が高くなっています。

- 地域を良くしていく活動への今後の参加意向については、「参加するつもりはない」が 23.5% (345 名) を占めていますが、前問で現在、活動に「参加していない」が 57.3% (842 名) であったことから、33.8% (497 名) が新たに活動への参加意向を示しています。
- 参加意向のある活動としては、「自治会や老人クラブ、女性会、子ども会などの活動」が 23.4% で最も割合が高くなっています。次いで、「防災に関わる活動」(23.2%)、「教育・文化に関わる活動」(18.7%)、「環境(自然保全、ごみ対策など)に関わる活動」(18.6%)、「福祉(介護、医療)に関わる活動」(16.5%)、「防犯・交通安全に関わる活動」(14.8%)、「地域のまちづくりに関わる活動全般」(14.7%) などとなっています。
- 前回調査と比較して、「参加するつもりはない」が 3.2 ポイント上昇しています。そのため、全体的に活動への参加意向も低くなっています。しかし「防災に関わる活動」が 3.3 ポイント、「教育・文化に関わる活動」が 1.6 ポイント、「環境に関わる活動」が 1.1 ポイント上昇しています。

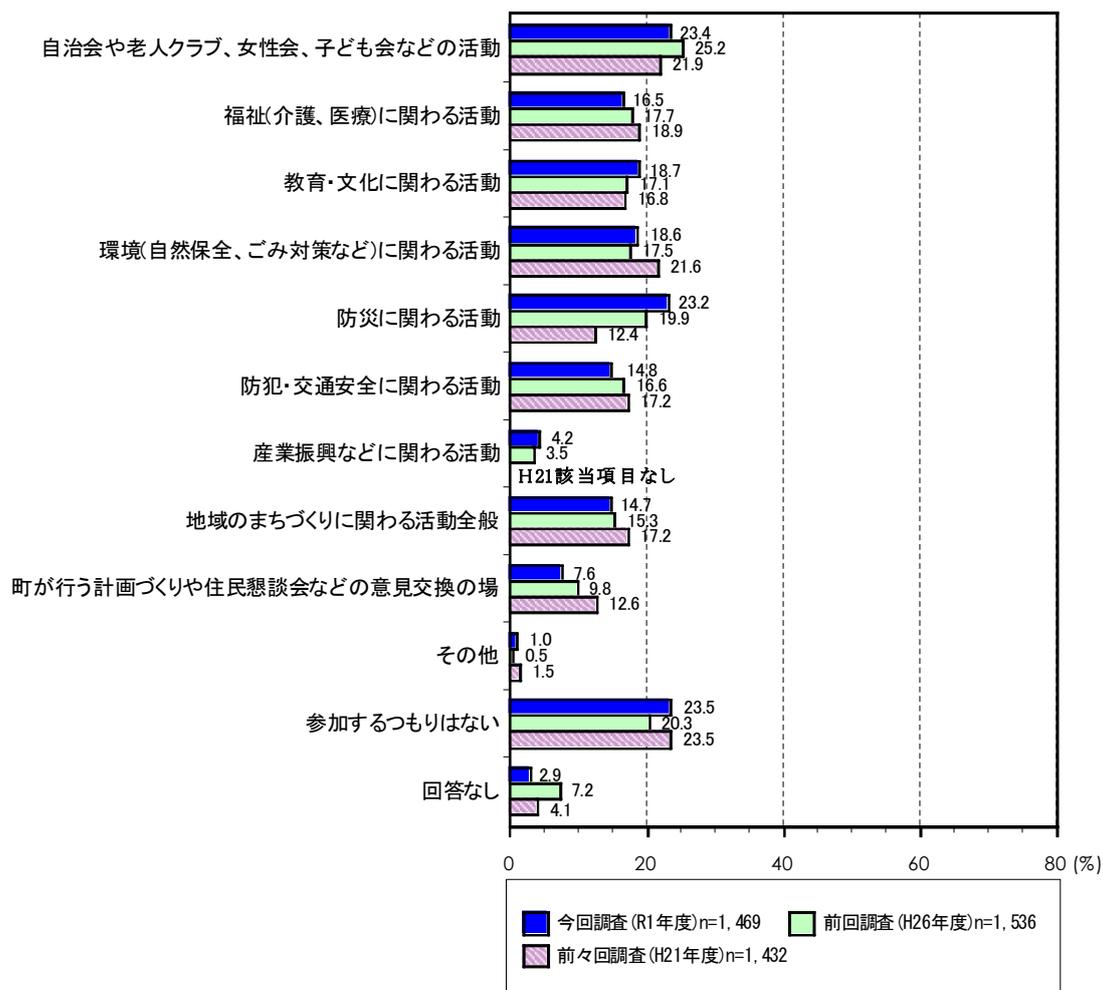


図 5-2 地域を良くしていく活動への今後の参加意向（前回・前々回調査比較）

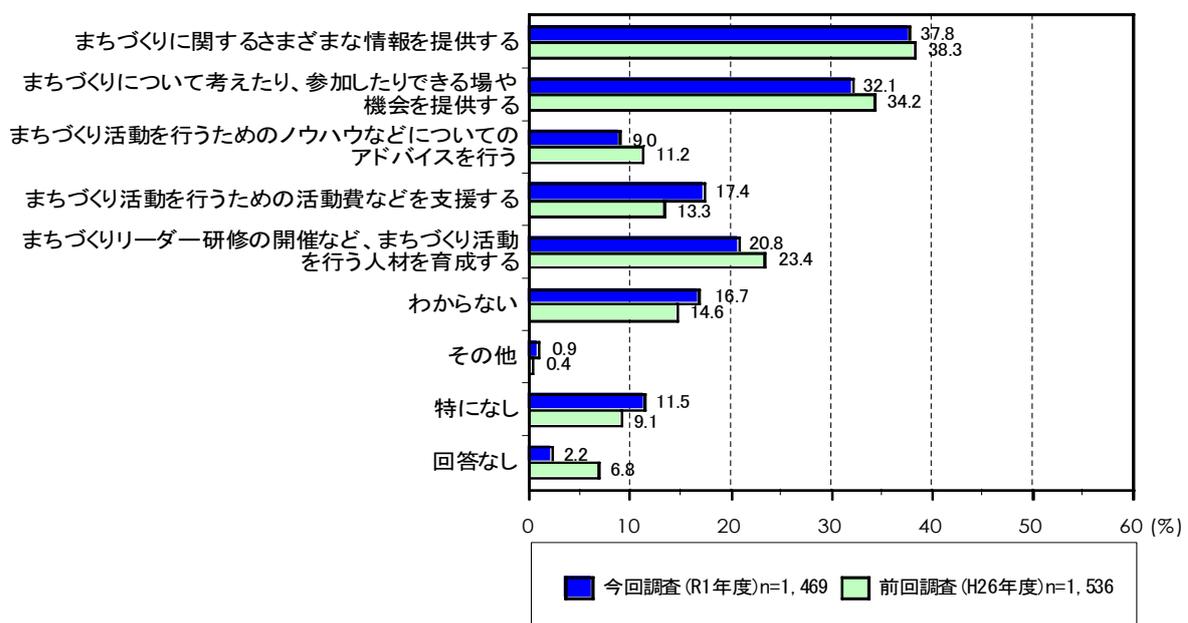
(3) 住民参加や住民主体のまちづくりを推進するために町として行うべきこと【2つまでの複数回答】

問 22 あなたは、住民参加や住民主体のまちづくりを推進する上で、町としてどのようなことを行うべきだと思いますか。

◆住民参加や住民主体のまちづくりを推進する上で、まちづくりの情報を提供すること、まちづくりへの参加の場や機会の提供、リーダー等の人材育成、活動費助成が望まれています。

○住民参加や住民主体のまちづくりを推進する上で、町として行うべきこととして、「まちづくりに関するさまざまな情報を提供する」が37.8%で最も割合が高くなっています。次いで「まちづくりについて考えたり、参加したりできる場や機会を提供する」(32.1%)、「まちづくりリーダー研修の開催など、まちづくり活動を行う人材を育成する」(20.8%)、「まちづくり活動を行うための活動費などを支援する」(17.4%)となっており、住民参加等を推進するために、まちづくりの情報を提供することをはじめ、まちづくりへの参加の場や機会の提供、リーダー等の育成、活動費助成などが望まれています。

○前回調査と比較して、「まちづくり活動を行うための活動費などを支援する」が4.1ポイント上昇しています。



※前々回調査(H21)はSAのため比較不可

図 5-3 住民参加や住民主体のまちづくりを推進するために町として行うべきこと（前回調査比較）

**第7次川越町総合計画の策定に向けた住民意識調査 報告書**

**令和2年2月**

発行／川越町役場 企画情報課

TEL 059-366-7112 FAX 059-364-2568

E-mail : k-kikaku@town.kawagoe.mie.jp